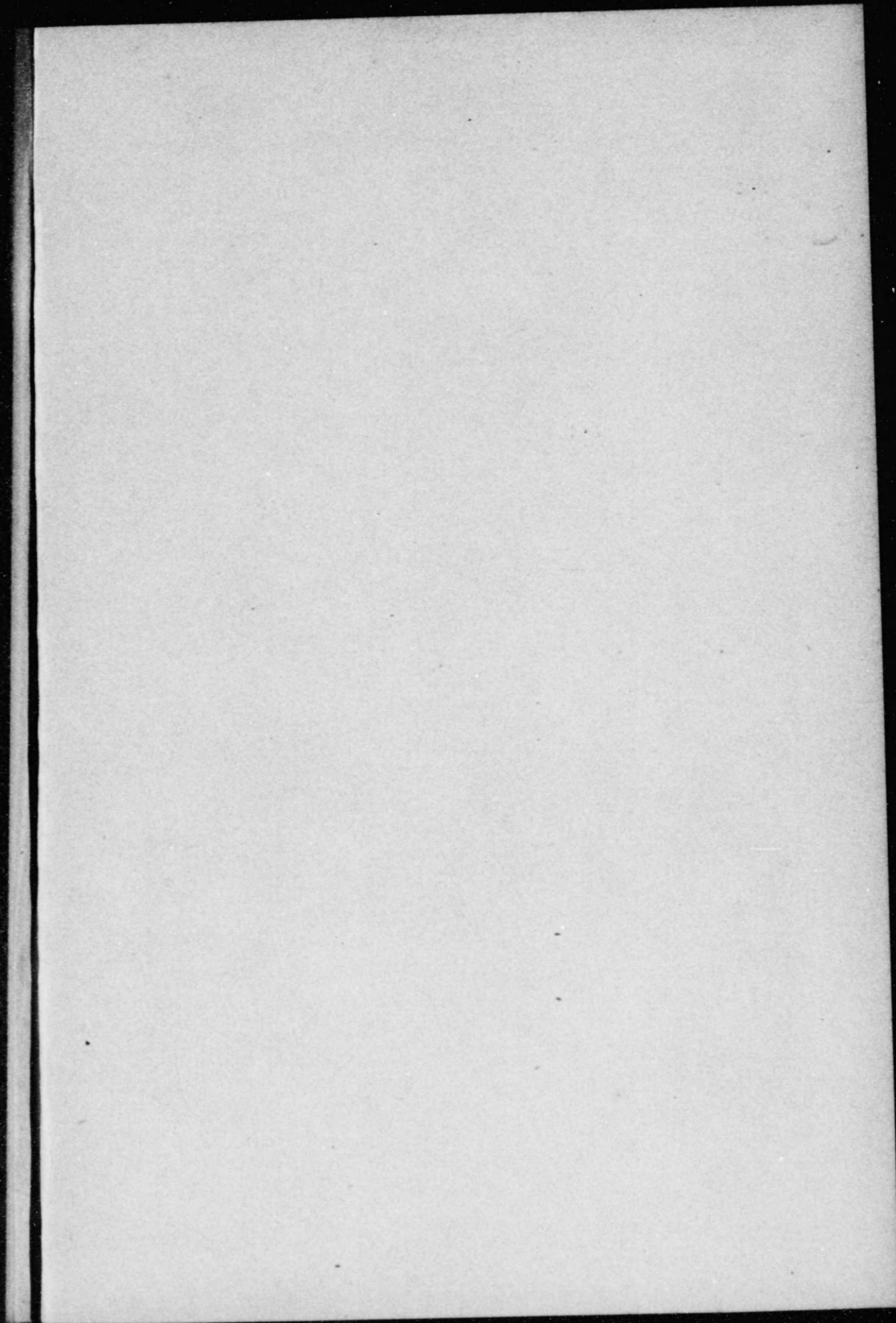


320.9/ D17k



參考條文補

# 國民法規

顧問

前大審院長  
法學博士

橫田秀雄閣下

大日本法令普及會編

民可使知  
而可使由

臣

辛未初秋  
法學博士橫田尚雄

尚雄

印



282329

法學叢書 法律學叢書 法律學叢書 法律學叢書

# 法學叢書

## 序 文

凡そ社會に於ける錯雜極りなき人の生活關係を調和し、其の鬭争を未然に防止し、凡百の紛争を速かに且つ圓滿に解決するものは法である。

故に人は法に依つて支配せらるる社會に其の生活を營むべき運命の下にあるのであつて、法は社會存續の一大要件である。法なければ社會なしとも謂ひ得るのである。

往昔社會の組織未だ單純素朴であつた時代には所謂「法三章」を以てしても克く其の社會に於ける共同生活を規律することを得たのであらうけれども、經濟交通の發達に伴ひ社會の組織複雑となり其の範圍漸く擴大せらるるに到つては、法も亦之に順應して廣汎多岐に渉るを餘義なくせらるるは自然の勢である。而して遂に社會の文化は法の整備の程度に依つて之を計らるるまでに至り、國際上の條約の前提要件をさへ爲すこととなつたのである。

わが國に就いて之を觀れば、明治維新以來過去約一世紀の間に立憲制度の確立國際關係の發展等に伴ひ法制殆ど完備整頓せられ、其の法律、勅令、省令、府縣令と云ふが如く、法の數は尨大浩瀚なものとなつたのである。

法治國の國民としては、法を知ると知らざるとに拘らず、法の支配を受くべきは當然である。従て現在に於ける法は封建時代に於けるが如く「民をして由らしむべし知らしむべからず」と云ふやうな存在ではないのである。茲を以て往年内閣から法令の民衆化を圖る爲に、法令の用語其の他を成るべく一般國民に了解し易きものたらしむべく訓令の發せられたこともあるが、法令其のもの

性質上容易に其の理想に到達することを得ざるの状態に在る。  
かゝる事情に在るを以て、現在に於て法の民衆化を期するの捷徑は一に看易く便利に現行の法令を輯集し、而も廉價を以て一般社會に提供することに存するのであつて余は夙に其の實現を期待し居りし處である。

然るに今回法規出版に多年の經驗を有する大日本法令普及會が、之を企劃し此處に「國民法規集」を出版することとなり、之れが編纂組織を各種法令をそれら各部門に分つて汎く輯集し、殊に法文中に適用又は準用せらるる他の法規の關係條文を逐條附記し、以て繙讀する者に他の法規を検索參看するの不便と煩勞を省かしむることとせしは他に類例を見ざる「國民法規」に限る特色であつて普く社會の人に時代に適應せるものとして珍重せらるるであらうと信ず。  
右國民法規集の上梓に際し所懐の一端を述べて序言と爲す。

昭和六年九月

## 大日本法令普及會

顧問 法學博士 横田 秀雄

## 國民法規編纂例

- 一 本書は各部門毎に其の方面の參考書としては勿論國民一般が常識的にも知り置かざるべからざる法令を選択吟味して輯録せしものにして以下記する處は總て本書の特色なり
- 二 一法文中に適用又は準用せられたる他法條文は非常に多く之を各項目に依り檢索參看するは仲々手數を要するものにて殊にあらゆる部類の法令を備へて置かねばならぬ等不便少からざるも之を右條文下に直ちに關係文として全部登載する時は一目にして其の連絡關係を知悉することを得甚だ利便たるに依り左記の記號を附し順を追ふて段に分ち登載せり

【	條文中に適用又は準用せられしもの	第一關係條文
●	第一關係條文中に引用せられしもの	第二關係條文
○	第二關係條文中に引用せられしもの	第三關係條文
◎	第三關係條文中に引用せられしもの	第四關係條文
⊙	第四關係條文中に引用せられしもの	第五關係條文
●	第五關係條文中に引用せられしもの	第六關係條文
▲	第六關係條文中に引用せられしもの	第七關係條文
△	第七關係條文中に引用せられしもの	第八關係條文
△	第八關係條文中に引用せられしもの	第九關係條文

三 第七以下の關係條文は紙面の都合に依り第六關係條文と同段とし頭記號を以つて判別するとせり

- 四 既に前に登載せし同一の關係文は大部分再び之を登載せず(前何頁参照)として既掲條文を參看することとせり
- 五 改正法令にして未だ施行に到らざるものは兩條文とも登載し改正條文を主とし現行法は參考條文と同様に登載し置けり
- 六 關係文中に舊法の適用又は準用せられ居るものは現行法第何條に該當するものとして明確なるものは右現行條文を登載して(舊第何條)とし又現行第何條に相當するものと認めしものは舊法を登載し(現行第何條)と右條下に登載し置けり
- 七 關係條文に第何條第何項と引用せしものも時に應じ全文を登載して便に供せり
- 八 尙本書は發行時に於ける現在なれば以後に於ける改正に對しては隨時之を改版し以つて所期する現行法たらしむべし

昭和六年九月

## 大日本法令普及會

參考條  
文挿入

# 國民法規

普及版第十一輯

## 教育關係法 (完)

### 目次

○教育ニ關スル勅語	明三三年一〇月勅語	一
○教育勅語ニ關スル大臣ノ訓示	明三三年一〇月訓示	二
○教育ニ關スル御沙汰竝聖旨奉體方	大四年文訓第八號	三
○戊申詔書	明四一年一〇月詔書	四
○國民精神ノ作興ニ關スル件	大二年一二月詔書	五
○國民精神作興ノ聖旨奉體方	大三年二月内閣告諭號外	六
○幼稚園令	大一年勅令第七四號	八
○幼稚園令施行規則	大一年勅令第一七號	一〇
○小學校令	明三三年勅令第三四四號	一五
○小學校令施行規則	明三三年文令第一四號	三四



○中學校令	明三二年勅令第二八號	七九
○中學校令施行規則	昭六年文令第二號	八三
○高等女學校令	明三二年勅令第三一號	一〇〇
○高等女學校令施行規則	明三四年文令第四號	一〇四
○高等學校令	大七年勅令第三八九號	一〇五
○大學令	大七年勅令第三八八號	一〇六
○帝國大學令	大八年勅令第一二號	一〇三
○專門學校令	明三六年勅令第六一號	一〇三
○實業學校令	明三二年勅令第二九號	一〇六
○師範教育令	明三〇年勅令第三四六號	一〇八
○盲學校及聾啞學校令	大二年勅令第三七五號	一四〇
○學習院學制	大一年勅令第一號	一四三
○女子學習院學制	大一年勅令第二號	一四三
○私立學校令	明三二年勅令第三五九號	一四三
○在外指定學校ノ指定ニ關スル規程	大一年外、文令	一四八
○外國留學生規則	明三六年陸達第八四號	一五七
○在外研究員規程	大一年勅令第六號	一五九
○教員免許令	明三三年勅令第一三四號	一六三

○小學校教員心得	明一四年文達第一九號	一六五
○實業補習學校教員養生所令	大九年勅令第五二一號	一六六
○公立學校職員制	大六年勅令第五號	一七〇
○市町村立小學校教員俸給ニ關スル件	明三〇年勅令第二號	一七〇
○市町村立尋常小學校設置及教員俸給額補助ノ件	明三二年文訓第二號	一七九
○公立學校職員待遇官等等級令	大六年勅令第七號	一八〇
○公立學校職員俸給令	明三六年勅令第六六號	一八三
○市町村立小學校教員加俸令	明三三年勅令第一三三號	一九一
○公立學校職員年功加俸國庫補助法	大九年法律第三二號	一九四
○公立學校職員年功加俸令	大九年勅令第五一九號	一九五
○公立大學職員俸給令	大八年勅令第三七八號	一九六
○青年訓練所令	大一年勅令第七〇號	二〇一
○青年訓練所規程	大一年文令第一六號	二〇三
○教育基金令	大三年勅令第二五九號	二〇六
○市町村義務教育費國庫負擔法	大二年法律第二〇號	二〇七
○市町村義務教育費國庫負擔法ノ施行ニ關スル件	大二年勅令第三二五號	二〇九
○市町村義務教育費國庫負擔法施行規程	大二年文訓第一六號	二二三
○短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法	大一年法律第一七號	二二五



# 教育關係法 (完)

## 大日本法令普及會編

### 教育ニ關スル勅語

(明治二十三年十月勅語)

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

- 短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法施行ニ關スル規程……………大一〇年文訓第一〇號……………三六
- 市町村立小學校教育費國庫補助法……………明三三年法律第六三號……………三七
- 學齡兒童就學獎勵規程……………昭三三年文訓第一八號……………三八
- 實業教育費國庫補助法……………大三年法律第九號……………三〇
- 實業教育費國庫補助法施行規則……………大三年文令第一三號……………三一
- 學位令……………大九年勅令第二〇〇號……………三六
- 帝國學士院規程……………明三九年勅令第一四九號……………三七
- 帝國學士院受賞規程……………明四三年一月二日官報……………三〇
- 圖書館令……………明三二年勅令第四二九號……………三三
- 圖書館令施行規則……………明四三年文令第一八號……………三五
- 圖書保存法……………昭四年法律第一七號……………三五
- 國寶保存法……………昭四年勅令第二〇一號……………三六
- 國寶保存法施行令……………昭四年文令第三七號……………三七
- 古器舊物保存方……………明四年太布第二五一號……………三六
- 朝鮮教育令……………大一年勅令第一九號……………三九
- 臺灣教育令……………大一年勅令第二〇號……………三五

# 教育勅語ニ關スル大臣ノ訓示

(明治二十三年十月訓示)

## 訓示

謹テ惟フニ我カ

天皇陛下深ク臣民ニ軫念シタマヒ茲ニ忝ク

勅語ヲ下シタマフ顯正職ヲ文部ニ奉シ躬重任ヲ荷ヒ日夕省思シテ嚮フ所ヲ愆ランコトヲ恐ル今

勅語ヲ奉承シテ感奮措ク能ハス謹テ

勅語ノ體本ヲ作り普ク之ヲ全國ノ學校ニ頒ツ凡ソ教育ノ職ニ在ル者須ク常ニ聖意ヲ奉體シテ研磨薰

陶ノ務ヲ怠ラサルヘク殊ニ學校ノ式日及其他便宜日時ヲ定メ生徒ヲ會集シテ

勅語ヲ奉讀シ且意ヲ加ヘテ諄々誨告シ生徒ヲシテ夙夜ニ佩服スル所アラシムヘシ

明治二十三年十月三十一日

文部大臣 芳川顯正

# 教育ニ關スル御沙汰並聖旨奉體方

(大正四年十二月十一日文部省訓令第八號)

## 勅聖文武ナル

天皇陛下長クモ本月十日日本大臣ヲ宮中ニ召サセラレ親シク左ノ 御沙汰ヲ下シタマヘリ

皇考夙ニ心ヲ教育ノ事ニ勞セラレ制ヲ定メ令ヲ布キ又勅シテ其ノ大綱ヲ昭ニシタマヘリ朕遺緒ヲ

紹述シテ倍々其ノ振興ヲ圖ラムトス今ヤ人文日進ノ時ニ方リ教育ノ任ニ在ル者克ク朕カ意ヲ體シ

以テ皇考ノ彝訓ヲ對揚セムコトヲ期セヨ

本大臣ハ此ノ優渥ナル 聖旨ヲ拜シ感激措ク所ヲ知ラス謹テ之ヲ全國一般ニ告知ス

恭シク惟ミルニ

天皇陛下曩ニ大禮ヲ行ハセラレ詔シテ肇國ノ大本ヲ申明シ臣子ノ恆道ヲ提誨シタマフ爰ニ盛儀ノ完

了セララルニ方リ特ニ教育ニ關スル 御沙汰ヲ下シタマヒテ倍々教育ノ振興ヲ圖ラセタマフ 勅旨

深遠恐懼ノ至ニ堪ヘス

伏シテ惟ミルニ

先帝夙ニ開國進取ノ國是ヲ定メ教育ノ大本ヲ昭ニシタマヒ國運ノ進歩文教ノ隆昌振古其ノ比ヲ見ス

方今世界ノ列強相競ヒテ國力ノ充實ヲ圖リ國運ノ伸張ニ努メサルハナシ此ノ間ニ在リテ益々我國威

ヲ顯揚セムトスル實ニ一日ノ安處ヲ容サス國民相率キテ德ヲ修メ智ヲ研キ產ヲ治メ業ヲ興シ以テ國

本ヲ培養セサルヘカラス教育ノ任ニ當ル者宜シク

先帝ノ教育ニ關スル 聖訓ヲ奉體シ  
天皇陛下ノ 教旨ヲ服膺シテ心ヲ同ウシ力ヲ戮セ克ク内外ノ大勢ニ留意シテ其ノ嚮フ所ヲ愆ラス益々教育ノ徹底ヲ圖リ將來ノ國民ヲシテ各々其ノ本分ヲ盡シテ力ヲ皇運ノ隆昌ニ致サシメサルヘカラス庶幾クハ全國教育ノ任ニ當ル者本大臣ト共ニ夙夜ニ淬礪シテ其ノ職責ヲ完ウシ以テ克ク聖旨ニ答ヘ奉ラムコトヲ

### 戊申詔書

(明治四十一年十月十三日詔書)

朕惟フニ方今人文日ニ就リ月ニ將ミ東西相倚リ彼此相濟シ以テ其ノ福利ヲ共ニス朕ハ爰ニ益々國交ヲ修メ友義ヲ悖シ列國ト與ニ永ク其ノ慶ニ賴ラムコトヲ期ス願ミルニ日進ノ大勢ニ伴ヒ文明ノ惠澤ヲ共ニセムトスル固ヨリ内國運ノ發展ニ須ツ戰後日尙淺ク庶政益々更張ヲ要ス宜ク上下心ヲ一ニシ忠實業ニ服シ勤儉產ヲ治メ惟レ信惟レ義醇厚俗ヲ成シ華ヲ去リ實ニ就キ荒怠相誡メ自彊息マサルヘシ  
抑々我カ神聖ナル祖宗ノ遺訓ト我カ光輝アル國史ノ成跡トハ炳トシテ日星ノ如シ寔ニ克ク恪守シ淬礪ノ誠ヲ輸サハ國運發展ノ本近ク斯ニ在リ朕ハ方今ノ世局ニ處シ我カ忠良ナル臣民ノ協翼ニ倚藉シテ維新ノ皇猷ヲ恢弘シ祖宗ノ威徳ヲ對揚セムコトヲ庶幾フ爾臣民其レ克ク朕カ旨ヲ體セヨ

御名 御 璽

明治四十一年十月十三日(官報十月十四日)

內閣總理大臣

侯爵 桂

太 郎

### 國民精神ノ作興ニ關スル件

(大正十二年十一月十日詔書)

朕惟フニ國家興隆ノ本ハ國民精神ノ剛健ニ在リ之ヲ涵養シ之ヲ振作シテ以テ國本ヲ固クセサルヘカラス是ヲ以テ先帝意ヲ教育ニ留メサセラレ國體ニ基キ淵源ニ遡リ皇祖皇宗ノ遺訓ヲ揭ケテ其ノ大綱ヲ昭示シタマヒ後又臣民ニ詔シテ忠實勤儉ヲ勸メ信義ノ訓ヲ申ネテ荒怠ノ誠ヲ垂レタマヘリ是レ皆道德ヲ尊重シテ國民精神ヲ涵養振作スル所以ノ洪謨ニ非サルナシ爾來趨向一定シテ效果大ニ著レ以テ國家ノ興隆ヲ致セリ朕即位以來夙夜兢兢トシテ常ニ紹述ヲ思ヒシニ俄ニ災變ニ遭ヒテ憂悚交々至レリ

輓近學術益々開ケ人智日ニ進ム然レトモ浮華放縱ノ習漸ク萌シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスムハ或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル况ヤ今次ノ災禍甚タ大ニシテ文化ノ紹復國力ノ振興ハ皆國民ノ精神ニ待ツテ是レ實ニ上下協贊振作更張ノ時ナリ振作更張ノ道ハ他ナシ先帝ノ聖訓ニ恪遵シテ其ノ實效ヲ舉クルニ在ルノミ宜ク教育ノ淵源ヲ崇ヒテ智徳ノ竝進ヲ努メ綱紀ヲ肅正シ風俗

ヲ匡勵シ浮華放縱ヲ斥ケテ質實剛健ニ趨キ輕佻詭激ヲ矯メテ醇厚中正ニ歸シ人倫ヲ明ニシテ親和ヲ致シ公德ヲ守リテ秩序ヲ保チ責任ヲ重シ節制ヲ尙ヒ忠孝義勇ノ美ヲ揚ケ博愛共存ノ誼ヲ篤クシ入りテハ恭儉勤敏業ニ服シ産ヲ治メ出テテハ一己ノ利害ニ偏セスシテ力ヲ公益世務ニ竭シ以テ國家ノ興隆ト民族ノ安榮社會ノ副社トヲ圖ルヘシ朕ハ臣民ノ協翼ニ頼リテ彌々國本ヲ固クシ以テ大業ヲ恢弘セムコトヲ冀フ爾臣民其レ之ヲ勉メヨ

御名 御璽

攝政 名

大正十二年十一月十日

各 大 臣

### 國民精神作興ノ聖旨奉體方

(大正十二年十一月十一日內閣會議外)

曩ニ帝都ノ復興ニ關スル 聖詔ヲ拜セシニ今又精神振作ノ大詔ヲ下シテ國家興隆ノ道ヲ示シタマヒ國民ヲシテ其ノ向フ所ヲ知ラシメタマフ 叙慮深遠誠ニ感激ノ至ニ堪ヘス 謹ミテ案スルニ 明治天皇夙ニ開國進取ノ國是ヲ定メ積弊ヲ一新シテ庶政ノ釐革ヲ斷行シタマヘリ是ニ於テ民心一時ニ作興シ質實剛健ノ氣風ヲ以テ文化ヲ開發シ國運ノ隆隆タル前古其ノ比ヲ見ス後

教育ニ關スル 勅語ヲ下シテ其ノ大綱ヲ諭シ區體ノ尊フヘク淵源ノ重スヘキヲ知ラシメタマヘリ日清日露ノ兩戰役ニ偉績ヲ奏セシハ實ニ教育勅語ノ明效ナリ然ルニ國威ノ宣揚セラレタルト共ニ國民ノ意漸ク驕リ動モスレハ輕佻浮華ニ失セムトスルモノアリ 先帝更ニ大詔ヲ煥發セラレ勤儉ヲ勸メ荒怠ヲ誡メタマヘリ然レトモ積年ノ宿弊ハ容易ニ之ヲ改ムルヲ得ス殊ニ歐洲大戰ノ齎セル經濟界ノ變調ニ促サレテ人心放縱ニ流レ節制ヲ失ヒ國情ト相容レサル外來思潮ト相待チテ思想詭激ニ趨カムトスルノ風アリ今ニシテ反省自覺以テ中正ニ歸スルニ非スムハ社會ノ頹敗ハ遂ニ之ヲ濟フニ由ナカラムトス今未曾有ノ天災ニ際シテ此ノ 聖詔ヲ拜スルニ至リタル所以ヲ思ヒ恐懼益々深シ 願フニ 聖旨ヲ奉體シテ之カ實行ヲ期シ文物ヲ災後ニ恢復シテ更ニ國運ノ振張ヲ圖ルニハ其ノ效力從來ニ幾倍スルモノナカルヘカラス是レ國民精神ノ振作更張特ニ急切ヲ告タル所以ナリ之カ爲ニ先ツ教育ノ振興ヲ圖リ特ニ德育ヲ根柢トシテ重テ人格ノ養成ニ置キ弛緩セル風紀ノ振肅ニ勉メ浮華ヲ去リ輕佻ヲ斥ケ我邦道德ノ大本タル忠君愛國ノ思想ヲ基礎トシテ益々協力一致義勇奉公ノ精神ヲ旺ニシ官民齊シク奢侈ヲ戒メ冗費ヲ節シ生活ノ安固ヲ圖リ經濟上ノ實力ヲ養ヒ進ンテ力ヲ産業ノ進暢ニ盡シ以テ國家ノ興隆ヲ致ササルヘカラス 今此ノ災厄ノ後ニ於テ人人ノ自覺ヲ促シ現下ノ弊風ヲ一掃シテ維新當初ノ元氣ニ復シ國民ノ精神ヲシテ愈々剛健ナラシメ相率キテ文物ノ恢復ト國力ノ振興トニ盡瘁シ以テ 聖慮ニ副ヒ奉ラムコトハ本大臣ノ切望シテ止マサル所ナリ

# 幼稚園令

(大正十五年四月二十一日勅令第七十四號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ幼稚園令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

## 幼稚園令

第一條 幼稚園ハ幼兒ヲ保育シテ其ノ心身ヲ健全ニ發達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ家庭教育ヲ補フヲ以テ目的トス

第二條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ幼稚園ヲ設置スルコトヲ得

市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ前項ノ規定ニ依リ幼稚園ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲學區ヲ設クルコトヲ得

第三條 私人ハ本令ニ依リ幼稚園ヲ設置スルコトヲ得

第四條 幼稚園ハ小學校ニ附設スルコトヲ得

第五條 幼稚園ノ設置廢止ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 幼稚園ニ入園スルコトヲ得ル者ハ三歳ヨリ尋常小學校就學ノ始期ニ達スル迄ノ幼兒トス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ三歳未滿ノ幼兒ヲ入園セシムルコトヲ得

第七條 幼稚園ニハ園長及相當員數ノ保姆ヲ置クヘシ

第八條 園長ハ園務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

園長ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條 保姆ハ幼兒ノ保育ヲ掌ル

保姆ハ女子ニシテ保姆免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第十條 特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ保姆免許狀ヲ有セサル女子ヲ以テ保姆ニ代用スルコトヲ得

第十一條 保姆免許狀ハ地方長官ニ於テ保姆檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス

保姆檢定ハ小學校教員檢定委員會ニ於テ之ヲ行フ

保姆ノ檢定及免許狀ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

保姆ノ檢定及免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 幼稚園ノ職員ニ關シテハ小學校令第四十四條乃至第五十條ノ規定ヲ準用ス

第十三條 幼稚園ノ設置廢止、保育項目及其ノ程度、編制竝設備ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 幼稚園ニ於テ保育料入園料等ヲ徵收セムトスルトキハ公立幼稚園ニ在リテハ管理者ニ於テ、私立幼稚園ニ在リテハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ經テ其ノ額ヲ定ムヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

## 附 則

本令施行ノ際現ニ存シ小學校令ニ依リ設置セラレタル幼稚園ハ本令ニ依リ設置セラレタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ幼稚園ノ保姆ノ職ニ在ル者ニシテ小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スルモノ  
ニハ地方長官ハ保姆檢定ヲ經スシテ保姆免許狀ヲ授與スルコトヲ得

### 幼稚園令施行規則

(大正十五年四月二十二日文部省令第十七號)

幼稚園令施行規則左ノ通定ム

#### 幼稚園令施行規則

- 第一條 幼稚園ニ於テハ幼稚園令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ幼兒ヲ保育スヘシ  
幼兒ノ保育ハ其ノ心身發達ノ程度ニ副ハシムヘク其ノ會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ過度ノ業ヲ爲サ  
シムルコトヲ得ス  
常ニ幼兒ノ心情及行儀ニ注意シテ之ヲ正シクセシメ又常ニ善良ナル事例ヲ示シテ之ニ倣ハシメム  
コトヲ務ムヘシ
- 第二條 幼稚園ノ保育項目ハ遊戲、唱歌、觀察、談話、手技等トス
- 第三條 幼稚園ノ幼兒數ハ百二十人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ約二百人マテニ増スコトヲ  
得
- 第四條 保姆一人ノ保育スル幼兒數ハ約四十人以下トス

第五條 幼稚園ニ於テハ年齢別ニ依リ組ノ編制ヲ爲スヲ常例トス

第六條 幼稚園ニ於テハ保育項目、保育時數、組數等ニ應シ必要ナル員數ノ保姆ヲ置クコトヲ要  
ス

第七條 保姆免許狀ヲ有スル者ヲ得難キ場合ニ於テハ之ヲ有セサル女子ヲ以テ保姆ニ代用スルコト  
ヲ得但シ保姆免許狀ヲ有セサル者ノ數保姆免許狀ヲ有スル者ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス  
特別ノ事情アルトキハ管理者又ハ設立者ハ當分ノ内期間ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項但書ノ  
規定ニ依ラサルコトヲ得

第八條 公立幼稚園ノ園長タルヘキモノハ小學校ノ本科正教員又ハ保姆免許狀ヲ有スル者若ハ教員  
免許令ニ依ル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第九條 保姆檢定ハ分テ無試験檢定及試験檢定トシ學力、性及身體ニ就キ之ヲ行フ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ保姆ノ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

- 一 小學校ノ本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者
- 二 高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者若ハ  
一般ノ專門學校入學ニ關シ無試験檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者ニシテ其ノ合格又ハ卒業後一年  
以上幼稚園ニ於テ幼兒ノ保育ニ從事シタル者
- 三 專門學校入學資格ヲ以テ入學資格トスル學校ニ於テ一年以上幼兒ノ保育ニ適スル教育ヲ受ケ  
テ卒業シタル者
- 四 従前ノ規定ニ依リ保姆免許狀ヲ取得シタル者ニシテ三年以上幼稚園ニ於テ幼兒ノ保育ニ從事

シタル者

五 其ノ他地方長官ニ於テ特ニ適當ト認メタル者

第十一條 保姆ノ試験檢定ハ左ノ科目ニ就キ尋常小學校本科正教員ノ試験檢定ノ程度ニ準シ之ヲ行

フ

修身 道德ノ要旨

教育 教育、兒童心理、教授法及管理法ノ大要

保育 育兒法、保育法、保育項目ニ關スル事項ノ實際

國語 普通文及小學校教科用讀本ノ講讀、作文、習字

算術 整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例

歴史 國史ノ大要

地理 地理ノ大要

理科 理科ノ大要

圖畫 自在畫

手工 手工ノ大要

音樂 唱歌、樂器使用法

體操 體操、遊戲及競技

裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

第十二條 高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

若ハ一般ノ專門學校入學ニ關シ無試験檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者ニ就キ試験檢定ヲ行フトキハ修身、教育、保育、圖畫、手工、音樂、體操以外ノ學科目ニ限リ其ノ試験ヲ缺クコトヲ得

第十三條 小學校令施行規則第四百四條、第四百十四條、第四百十五條、第四百十九條乃至第四百二十一條ノ規定ハ保姆ノ檢定及免許狀ニ關シ之ヲ準用ス

第十四條 幼稚園ノ職員ノ進退、職務、服務、懲戒、處分、業務停止及免許狀褫奪ニ關シテハ小學校職員ノ例ニ依ル

第十五條 公立幼稚園ノ職員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ小學校令施行規則中小學校職員ノ例ニ準シテ地方長官之ヲ定ム

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ園長ハ學校長ニ、保姆ハ正教員ニ、代用保姆ハ代用教員ニ準ス但シ月俸額ニ付テハ園長ハ本科正教員ニ、保姆ハ專科正教員ニ準ス

第十七條 幼稚園ヲ設置セムトスルトキハ公立幼稚園ニ在リテハ管理者ニ於テ、私立幼稚園ニ在リテハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ地方長官ニ申請スヘシ

一 名稱

二 位置

三 園則

四 設備

五 經費及維持ノ方法

六 開園ノ期日



七 私立幼稚園ニ在リテハ設立者ノ履歷書

前項第一號及第二號ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ第三號及第六號ノ變更ハ地方長官ニ開申スヘシ

位置ニ關シテハ敷地ノ面積、地質及附近ノ情況、建物ノ配置ヲ記載シタル圖面及飲料水ノ定量分析表ヲ添付スヘシ

第十八條 幼稚園令第六條但書ノ規定ニ依リ三歳未満ノ幼兒ヲ入園セシムトスルトキハ之ニ要スル施設ノ概要ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 幼稚園ノ設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 敷地ハ道徳上及衛生上害ナキ所タルコト
- 二 建物ハナルヘク平家造トシ組數ニ應スル保育室、遊戲室其ノ他必要ナル諸室ヲ備フルコト
- 三 保育室ノ大サハ幼兒五人ニ付一坪ヨリ小ナラサルコト
- 四 遊園ハ幼兒一人ニ付ナルヘク一坪以上ノ割合ヲ以テ設クルコト
- 五 保育用具、玩具、繪畫、樂器、黑板、机、腰掛、砂場等ヲ備ヘ其ノ他衛生上ノ設備ヲ爲スコト

三歳未満ノ幼兒ヲ入園セシムルモノニ在リテハ前項ノ外之ニ要スル相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第二十條 建物ノ建設又ハ變更ハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受ケ位置ノ變更ニアラサル敷地ノ變更ハ圖面ヲ具シ地方長官ニ開申スヘシ

第二十一條 幼稚園ヲ廢止セムトスルトキハ公立幼稚園ニ在リテハ管理者ニ於テ、私立幼稚園ニ在

リテハ設立者ニ於テ廢止ノ事由及期日並廢止後ノ幼兒ノ處分方法ヲ具シ地方長官ニ申請スヘシ

第二十二條 公立幼稚園ノ費用負擔者又ハ私立幼稚園ノ設立者ヲ變更シ私立幼稚園ヲ公立幼稚園ニ、公立幼稚園ヲ私立幼稚園ニ變更セムトスルトキハ第十七條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 園則中ニ規定スヘキ事項左ノ如シ

- 一 幼兒ノ定員及入園年齢ニ關スル事項
- 二 入園及退園ニ關スル事項
- 三 保育課程
- 四 保育期ノ區分、保育日數、每週保育時數、始業終業ノ時刻等ニ關スル事項
- 五 保育料、入園料等ニ關スル事項

附 則

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ保姆檢定ニ關スル手續ヲ開始シタルモノニ在リテハ仍從前ノ規定ニ依ル

### 小學校令

(明治三十三年八月二十日勅令第三百四十四號公布  
大正十五年六月勅令第二百四十二號改正現在)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ小學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス

尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科ト一校ニ併置スルモノヲ尋常高等小學校トス  
市町村、町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ私人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス

第三條 尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ニ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用シ高等小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ高等小學校ノ規定ヲ準用ス但シ文部大臣ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第四條 町村組合ニシテ其ノ町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ之ヲ一町村ト同視ス

第五條 小學校ニ類スル各種學校ノ規定ニ關シテハ本令中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外文部大臣之ヲ定ム

第二章 設置

第六條 市町村ハ其ノ區域内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置スヘシ

第七條 府縣知事ハ一町村ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘスト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムヘシ

第八條 府縣知事ハ一町村ニ於テ就學セシムヘキ兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルトキ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムルコト
- 二 其ノ町村ヲシテ就學セシムヘキ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコト

府縣知事ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ其ノ町村ノ尋常小學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラスト認メタルトキハ亦前項ノ例ニ依ルヘシ

府縣知事ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前項ニ準スヘキ事情アリト認メタルトキハ第一項第二號ノ例ニ準スヘシ

第八條ノ二 府縣知事ハ町村、町村學校組合又ハ其ノ一部ニシテ前條各項ノ一ニ該當スル事情アル場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ其ノ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ市又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコトヲ得

府縣知事ハ市ノ一部ニシテ就學セシムヘキ兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルトキ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ其ノ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ他ノ市町村、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコトヲ得

第九條 市町村立尋常小學校ノ校數並位置ハ府縣知事ニ於テ市町村又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キ

之ヲ定ムヘシ

第十條 第七條又ハ第八條ニ依リ府縣知事ニ於テ町村學校組合ヲ設ケシメムトスルトキハ組合規約ヲ定メ關係町村ノ意見ヲ聞クヘシ組合規約ヲ變更シ組合町村ノ數ヲ増減シ又ハ組合ヲ解カシメムトスルトキ亦同シ

第八條又ハ第八條ノ二ニ依リ府縣知事ニ於テ兒童教育事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメムトスルトキハ關係市町村、町村學校組合及學區ノ意見ヲ聞クヘシ

第十一條 府縣知事ハ市町村若ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ、兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所アルトキ又ハ其ノ設置スヘキ尋常小學校ト兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所トアルトキハ市町村若ハ町村學校組合ヲ分割シ其ノ一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔又ハ兒童教育事務委託ノ爲其ノ使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係市町村、町村學校組合及學區ノ意見ヲ聞クヘシ其ノ之ヲ止メムトスルトキ亦同シ

第十二條 府縣知事ハ第七條及第八條第一項ノ事情アルモ同條及第五十三條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

府縣知事ハ第八條第二項又ハ第三項ノ事情アルモ同項及第五十三條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村若クハ町村學校組合ヲシテ其ノ一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

第十三條 (削除)

第十四條 市町村ハ市町村又ハ其ノ學區ノ負擔ヲ以テ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

市町村又ハ町村ハ其ノ協議ニ依リ市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲ設ケ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

第十五條 市町村立高等小學校ノ設置及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 私立小學校ノ設置及廢止ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前三條ノ規定ハ小學校ニ類スル各種學校ニ關シ之ヲ準用ス

小學校ニ類スル各種學校ハ之ヲ小學校ニ附設スルコトヲ得

第三章 教科及編制

第十八條 尋常小學校ノ修業年限ハ六箇年トス

高等小學校ノ修業年限ハ二箇年トス但シ延長シテ三箇年ト爲スコトヲ得

第十九條 尋常小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、國史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

土地ノ情況ニ依リ手工ヲ加フルコトヲ得

第二十條 高等小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、國史、地理、理科、圖畫、手工、唱歌、體操、實業(農業、工業、商業ノ一科目又ハ數科目)トシ女兒ノ爲ニハ家事、裁縫ヲ加フ

土地ノ狀況ニ依リ前項教科目ノ外外國語其ノ他必要ナル教科目ヲ加フルコトヲ得

前項ノ教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得第三學年ニ於ケル圖畫、唱歌ニ付亦同シ

手工ハ實業ニ於テ工業ヲ學習スル兒童ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

實業ノ數科目ヲ置キタル場合ニハ兒童ヲシテ其ノ一科目ヲ選擇セシム

實業ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

**第二十一條** 小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

補習科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

**第二十二條** 小學校ノ教科目ニ兒童身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ其ノ兒童

ニ課セサルコトヲ得

**第二十三條** 小學校ノ教科目ヲ加除セントスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學

校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

補習科ヲ設置シ若クハ之ヲ廢止シ又ハ高等小學校ノ修業年限ヲ延長セムトスルトキハ市町村立小

學校ニ在リテハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ

府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

**第二十四條** 小學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノタルヘシ

前項ノ圖書同一ノ教科目ニ關シ數種アルトキハ其ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ採定ス

文部大臣ハ第一項ノ規定ニ拘ラス修身、國史、地理ノ教科用圖書及國語讀本ヲ除キ其ノ他ノ教科

用圖書ニ限り文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ府縣知事ヲシ

テ之ヲ採定セシムルコトヲ得

補習科ノ教科用圖書ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

**第二十五條** (削除)

**第二十六條** (削除)

**第二十七條** 小學校ノ休業日ハ日曜日ヲ除クノ外毎年九十日ヲ超ユルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ

限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ前項ノ日數ヲ增加スルコトヲ得

傳染病豫防ノ爲必要アルトキ其ノ他非常變災アルトキハ府縣知事ニ於テ臨時小學校ノ閉鎖ヲ命ス

ヘシ其ノ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ

設立者ニ於テ之ヲ閉鎖スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ府縣知事ニ報告スヘシ

**第二十八條** 小學校教則及小學校編制ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

**第四章 設 備**

**第二十九條** 小學校ニ於テハ校舍、校地、校具及體操場ヲ備フヘシ

**第三十條** 校舍、校地、校具及體操場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的以外ニ之ヲ使用ス

ルコトヲ得ス但シ教育兵事産業衛生慈善等ノ目的ノ爲特別ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第三十一條** 小學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

**第五章 就 學**

**第三十二條** 兒童滿六歳ニ達シタル翌日ヨリ滿十四歳ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ノ學齡ニ達シタル日以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヲ以テ就學ノ始期トシ尋常小學校ノ教

科ヲ修了シタルトキヲ以テ就學ノ終期トス

學齡兒童保護者ハ就學ノ始期ヨリ其ノ終期ニ至ル迄學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ  
學齡兒童保護者ト稱スルハ學齡兒童ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ親權ヲ行フ者ナキトキハ其ノ後見人  
ヲ謂フ

**第三十三條** 學齡兒童瘋癲白痴又ハ不具癱疾ノ爲就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ  
府縣知事ノ認可ヲ受ケ學齡兒童保護者ノ義務ヲ免除スルコトヲ得  
學齡兒童病弱又ハ發育不完全ノ爲就學セシムヘキ時期ニ於テ就學スルコト能ハスト認メタルトキ  
ハ市町村長ハ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ府縣知事ニ報告スヘシ  
市町村長ニ於テ學齡兒童保護者貧窮ノ爲其ノ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認メタルトキ亦前  
二項ニ準ス

**第三十四條** 第十二條ニ依リ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免セラレタ  
ル區域内ノ學齡兒童保護者ハ其義務ヲ免除セラレタルモノトス

**第三十五條** 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スル者ハ其ノ雇傭ニ依リテ兒童ノ就學  
ヲ妨クルコトヲ得ス

**第三十六條** 學齡兒童保護者ハ就學セシムヘキ兒童ヲ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘシ但シ市  
町村長ノ認可ヲ受ケ家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルコトヲ得

官立若ハ府縣立ノ學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分、高等學校若ハ中學校ノ豫科又ハ  
盲學校若ハ聾啞學校ノ初等部ハ兒童就學ニ關シテハ之ヲ市町村立尋常小學校ト同視ス

**第三十七條** 兒童ノ年齢就學ノ始期ニ達セサル者ハ之ヲ小學校ニ入學セシムルコトヲ得ス

**第三十八條** 小學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨  
アリト認メタル兒童ノ小學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

**第六章 職員**

**第三十九條** 小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其ノ教科目中修身、國語、算術、國史、  
地理、理科以外ノ教科目ニシテ文部大臣ノ定ムル一科目又ハ數科目ヲ限リ教授スル者ヲ專科正教  
員トス

本科正教員ヲ補助スル者ヲ准教員トス

**第四十條** 小學校教員タルヘキ者ハ免許狀ヲ受クヘシ

免許狀ハ府縣知事之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス

**第四十一條** 免許狀ヲ受クルニハ師範學校若クハ文部大臣ノ指定シタル學校ヲ卒業シ又ハ小學校教  
員ノ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ檢定ヲ施行スルカ爲府縣ニ小學校教員檢定委員會ヲ置ク

免許狀及小學校教員檢定委員會ノ組織權限其ノ他檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

**第四十二條** 特別ノ事情アルトキハ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ小學校准教員ニ代用スルコトヲ得

代用教員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

**第四十三條** 市町村立小學校長ハ其ノ學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ兼ネシムヘシ

**第四十四條** 市立小學校長及教員ノ任用ハ市長又ハ市町村學校組合管理者ノ申請ニ依リ府縣知事之  
ヲ行フ

町村立小學校長及教員ノ任用並市町村立小學校長及教員ノ解職ハ府縣知事之ヲ行フ

**第四十五條** 市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與並其ノ支給方法ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

**第四十六條** 小學校長及教員ノ進退、職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

**第四十七條** 小學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

**第四十八條** 市町村立小學校長教員職務上ノ義務ニ違背シ若クハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ府縣知事ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ニ準スヘキ所爲アリタルトキハ府縣知事ハ其ノ業務ヲ停止ス

**第四十九條** 小學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

小學校教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認メタルトキハ文部大臣又ハ府縣知事ニ於テ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

**第五十條** 府縣知事ニ於テ行ヒタル免職若クハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

**第七章 費用負擔及授業料**

**第五十一條** 市町村立小學校ノ設置ニ關スル費用ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外市町村、町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ負擔トス其ノ概目左ノ如シ

一 設備及其ノ維持ノ費用

二 職員ノ俸給、旅費、其ノ他諸給與

三 校費

兒童教育事務委託ニ關スル費用ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ學區ノ負擔トス

**第五十二條** 府縣知事ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所アルトキハ其ノ學校組合内ノ某町村ヲシテ其ノ數校中ノ一校若クハ數校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ニ關スル費用ヲ一町村限り負擔セシムルコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ止メムトスルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞クヘシ

**第五十三條** 府縣知事ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ府縣ハ町村又ハ町村學校組合ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

一 町村ニシテ第七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得サルトキ

二 町村學校組合ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其ノ學校組合費ノ分擔ニ堪ヘサルトキ

三 町村又ハ町村學校組合ノ資力兒童教育事務委託ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ  
前項ノ認定ニ付テハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クヘシ

第五十四條 (削除)

第五十五條 區長及其ノ代理者並學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ負擔トス但シ區長及其ノ代理者並學區ノ學務委員ニ關スル費用ハ市町村會又ハ町村學校組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ學區ノ負擔ト爲スコトヲ得

第五十六條 小學校教員檢定及免許狀ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第五十七條 市町村立尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ市町村立尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第五十八條 市町村立小學校ノ授業料ハ市町村、町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ收入トス

第五十九條 授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八章 管理及監督

第六十條 市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス

第六十一條 府縣知事ハ市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ヲシテ市町村長又ハ町村學校組合管理者ノ指揮命令ヲ受ケテ學區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第六十二條 市町村ハ教育事務ノ爲市制第八十三條町村制第六十九條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但

シ市會町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

市町村學校組合又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

市町村又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ其ノ學區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

學務委員ニハ市町村立小學校男教員ヲ加フヘシ

委員中教員ヨリ出ツル者ハ市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者之ヲ任免ス

【市制第八十三條】市ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス市會議員、名譽職參事會員又ハ市民中選舉權ヲ有スル者ヨリ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定ム但シ委員長ハ市長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市參與若ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ

第七十三條第四項乃至第七項ノ規定ハ委員ニ之ヲ準用ス

●市制第七十三條 市長ハ有給吏員トス但シ市條例ヲ以テ名譽職ト爲スコトヲ得

市長ノ任期ハ四年トス

市長ハ市會ニ於テ之ヲ選舉ス

市長ノ在職中ニ於テ行フ後任市長ノ選舉ハ現任市長ノ任期滿了ノ日前二十日以内又ハ現任市長ノ退職ノ申立アリタル場合ニ於テ其ノ退職スヘキ日前二十日以内ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得

第三項ノ選舉ニ於テ當選者定マリタルトキハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

市長ニ當選シタル者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ當選ニ應スルヤ否ヲ申立ツヘシ其ノ期間内ニ當選ニ應スル旨ノ申立ヲ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第三十二條第四項ノ規定ハ市長ニ當選シタル者ニ之ヲ準用ス  
名譽職市長ハ市民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル  
有給市長ハ其ノ退職セントスル日前三十日迄ニ申立ツルニ非サレハ任期中退職スルコ  
トヲ得ス但シ市會ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

○市制第三十二條

當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知  
シ(第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告知セシメ)同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ  
告示シ且選舉錄ノ寫(投票錄アルトキハ併セテ投票錄ノ寫)ヲ添ヘ之ヲ府縣知事  
ニ報告スヘシ當選者ナキトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且選舉錄ノ寫(投票錄アル  
トキハ併セテ投票錄ノ寫)ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ  
當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ  
市長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨ  
リ五日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申  
立テサルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム  
官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ之ニ應スルコト  
ヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ市長  
ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何レ  
ノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス  
市ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ市ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付市長若ハ其ノ委任ヲ  
受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス  
法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ請負ヲ罷メ又  
ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、  
役員若ハ支配人タルコトナキニ至ルニ非サレハ當選ニ應スルコトヲ得ス第二項

又ハ第三項ノ期限前ニ其ノ旨ヲ市長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモ  
ノト看做ス  
前項ノ役員トハ取締役、監查役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

【町村制第六十九條】

町村ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得  
委員ハ名譽職トス町村會議員又ハ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之  
ヲ定ム但シ委員長ハ町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ之ニ充ツ

第六十三條第二項乃至第五項ノ規定ハ委員ニ之ヲ準用ス  
委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

●町村制第六十三條

町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス  
町村長ノ在職中ニ於テ行フ後任町村長ノ選舉ハ現任町村長ノ任期滿了ノ日前二十日以内  
又ハ現任町村長ノ退職ノ申立アリタル場合ニ於テ其ノ退職スヘキ日前二十日以内ニ非サ  
レハ之ヲ行フコトヲ得ス

第一項ノ選舉ニ於テ當選者定マリタルトキハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ  
町村長ニ當選シタル者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以  
内ニ其ノ當選ニ應スルヤ否ヲ申立ツヘシ其ノ期間内ニ當選ニ應スル旨ノ申立ヲ爲ササル  
トキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第二十九條第三項ノ規定ハ町村長ニ當選シタル者ニ之ヲ準用ス

助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム町村長職ニ在ラサルトキハ第一項ノ例ニ依ル

第二項乃至第五項ノ規定ハ助役ニ之ヲ準用ス  
名譽職町村長及名譽職助役ハ其ノ町村公民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル  
有給町村長及有給助役ハ第七條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ町村ノ公民トス

○町村制第二十九條

當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ  
告知シ同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ且選舉錄ノ寫(投票錄アルトキハ併セ  
テ投票錄ノ寫)ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ當選者ナキトキハ直ニ其ノ旨



ヲ告示シ且選舉錄ノ寫(投票錄アルトキハ併セテ投票錄ノ寫)ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ  
 當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ  
 官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス  
 前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ町村長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス  
 町村ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ町村ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ請負ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトナキニ至ルニ非サレハ當選ニ應スルコトヲ得ス  
 第二項ノ期限前ニ其ノ旨ヲ町村長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス  
 前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

**第六十三條** 學務委員ノ職務其ノ他學務委員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

**第六十四條** (削除)

**第六十五條** 市町村立小學校長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ府縣知事之ヲ監督ス

**第六十六條** 私立小學校ハ府縣知事之ヲ監督ス

**第九章 附 則**

**第六十七條** 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ小學校ノ教科目並教則及授業料ノ徵收ニ關シテハ明治三十四年三月三十一日ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

**第六十八條** 本令ハ市町村制ヲ施行シタル地ニ之ヲ施行ス

**第六十九條** 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三十三條ニ依リ設ケタル町村學校組合ハ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄之ヲ存續スルコトヲ得

**第七十條** 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條及第四條ニ依リ小學校ニ於テ加設シタル教科目中本令ノ規定ニ抵觸スルモノ又ハ同令第六條ニ依リ高等小學校ニ於テ專修科ヲ置キタルモノハ明治三十三年九月一日ニ於テ現ニ學習スル兒童ノ卒業スルニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條ニ依リ體操科ヲ闕ケル尋常小學校ニ於テハ明治三十六年三月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

**第七十一條** 既設ノ尋常小學校ニシテ體操場ノ設備ナキモノハ明治三十八年三月三十一日迄其ノ設備ヲ猶豫ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ猶豫ノ期間内體操科ヲ闕クコトヲ得

**第七十二條** 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス但シ小學校專科准教員ノ免許狀ハ此ノ限ニ在ラス

**第七十三條** 明治二十六年勅令第四百號及明治三十年勅令第三百十六號ハ之ヲ廢止ス

明治二十六年勅令第三十四號及明治三十年勅令第四百七號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止

ス

附 則 (明治三十六年四月勅令第七四號)

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十四條第二項及第三項ハ此ノ限ニ在ラス  
明治三十七年四月一日前第二十四條第二項又ハ同條第三項ニ依リ採定ヲ爲ス場合ニ於テハ審査委員  
會ノ審査ヲ經ルヲ要セス

本令施行前ニ於ケル審査採定及本令施行前ニ採定シタル教科用圖書ニ關シテハ從前ノ罰則其他ノ規  
程ヲ適用ス但シ使用ヲ始メタル後四箇年ヲ經タル圖書ハ採定ノ效力ヲ失フ

附 則 (明治四十年三月勅令第五二號)

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條及第三十六條第一項ノ改正ハ明治四十年  
四月一日ヨリ之ヲ施行ス

市町村立尋常小學校ニ代用シタル私立小學校ニ關シテハ其ノ代用期間ノ滿了スルニ至ル迄仍其ノ代  
用ヲ存續スルコトヲ得

特別ノ事情ニ依リ第十八條第一項ニ依リ難キ場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村又ハ町  
村學校組合ニ於テ、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ期間ヲ定メテ府縣知事ノ認可ヲ受ケ當分ノ  
内尋常小學校ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ高等小學校ニ關シテモ仍從  
前ノ規定ニ依ルコトヲ得

前項ニ依ル尋常小學校ノ教科目ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

本令施行ノ際現ニ在學スル高等小學校ノ兒童ニ關シテハ其ノ卒業スルニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依ル

コトヲ得

附 則 (明治四十四年七月勅令第二一六號)

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等小學校ニ在學スル兒童ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依ルコト  
ヲ得

附 則 (大正二年七月勅令第二五八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正二年七月二十六日官報)

本令施行前府縣知事ニ於テ授與シタル免許狀ハ本令ノ免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス明治二十五年勅令  
第四十號ニ依リ北海道廳長官ニ於テ授與シタル免許狀ニ付亦同シ

附 則 (大正八年二月勅令第一〇號)

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等小學校ニ於テ授クル圖書ハ第二十三條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス  
附 則 (大正十二年八月勅令第三七六號)

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存シ小學校令ニ依リ設置セラレタル私立ノ盲啞學校ニシテ盲學校及聾啞學校令ニ  
依ラサルモノハ私立學校令ニ依リ設立セラレタルモノト看做ス

附 則 (大正十五年四月勅令第七三號)

明治四十年勅令第五十二號附則第五項ヲ削ル

本令施行ノ際現ニ在學スル高等小學校ノ兒童ニ課スヘキ教科目ニ付テハ其ノ卒業ニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

附 則 (大正十五年六月勅令第二四二號)

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス  
從前ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル處分其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リ府縣知事ノ爲シタル處分其ノ他ノ行爲ト看做ス

### 小學校令施行規則

(明治三十三年八月二十一日ヲ部省令第十四號公布  
昭和三年七月文部省令第十號改正現在)

小學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ  
小學校令施行規則

#### 第一章 教科及編制

- 第一節 教則
- 第二節 學年、休業日及式日
- 第三節 編制
- 第四節 補習科

#### 第五節 教科用圖書

- 第二章 設備準則
- 第三章 就學
- 第四章 教員檢定及免許狀
- 第一節 教員ノ檢定
- 第二節 教員ノ免許狀

#### 第五章 職員

- 第一節 學校長及教員ノ進退
- 第二節 學校長及教員ノ職務及服務
- 第三節 懲戒處分、業務停止及免許狀褫奪
- 第四節 俸給、旅費及諸給準則
- 第五節 代用教員

#### 第六章 授業料

- 第七章 學務委員
- 第八章 (削除)
- 第九章 小學校ニ關スル各種學校
- 第十章 附則

#### 小學校令施行規則

##### 第一章 教科及編制

###### 第一節 教則

第一條 小學校ニ於テハ小學校令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育スヘシ  
道德教育及國民教育ニ關聯セル事項ハ何レノ教科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス  
知識技能ハ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用自在ナラシメンコトヲ務ムヘシ

兒童ノ身體ヲ健全ニ發達セシメンコトヲ期シ何レノ教科目ニ於テモ其ノ教授ハ兒童ノ心身發達ノ程度ニ副ハシメンコトヲ要ス

男女ノ特性及其ノ將來ノ生活ニ注意シテ各々適當ノ教育ヲ施サンコトヲ務ムヘシ

各教科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第二條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キテ兒童ノ徳性ヲ涵養シ道德ノ實踐ヲ指導スルヲ以テ

要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ孝悌、親愛、勤儉、恭敬、信實、義勇等ニ就キ實踐ニ適切ナル近易ノ事項ヲ授ケ漸ク進ミテハ國家及社會ニ對スル義務ノ一斑ニ及ホシ以テ品位ヲ高メ志操ヲ固クシ且進取ノ氣象ヲ長シ公德ヲ尙ハシメ忠君愛國ノ志氣ヲ養ハンコトヲ務ムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ一層陶冶ノ功ヲ堅實ナラシメンコトヲ務ムヘシ

女兒ニ在リテハ特ニ貞淑ノ徳ヲ養ハンコトニ注意スヘシ

修身ヲ授クルニハ嘉言善行及諺辭等ニ基キテ勸戒シ常ニ之ヲ服膺セシメンコトヲ務ムヘシ

**第三條** 國語ハ普通ノ言語、日常須知ノ文字及文章ヲ知ラシメ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼テ智徳ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ發音ヲ正シ、假名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ漸ク進ミテハ日常須知ノ文字及普通文ニ及ホシ又言語ヲ練習セシムヘシ

高等小學校ニ於テハ稍々進ミタル程度ニ於テ日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ授ケ又言語ヲ練習セシムヘシ

讀ミ方、書キ方、綴リ方ハ各々其ノ主トスル所ニ依リ教授時間ヲ區別スルコトヲ得ルモ特ニ注意シテ相聯絡セシメンコトヲ要ス

讀本ノ文章ハ平易ニシテ國語ノ模範トナリ且兒童ノ心情ヲ快活純正ナラシムルモノナルヲ要シ其ノ材料ハ修身、歴史、地理、理科其ノ他生活ニ必須ナル事項ニ取り趣味ニ富ムモノタルヘシ

女兒ノ學級ニ用フル讀本ニハ特ニ家事上ノ事項ヲ交フヘシ

文章ノ綴リ方ハ讀ミ方又ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項兒童ノ日常見聞セル事項及處世ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ其ノ行文ハ平易ニシテ旨趣明瞭ナランコトヲ要ス

書キ方ニ用フル漢字ノ書體ハ尋常小學校ニ於テハ楷書行書ノ二種トシ高等小學校ニ於テハ尙草書ヲ加フ

國語ヲ授ケル際ニハ語句文章ノ意義ヲ明瞭ニシ且其ノ用法ニ習熟セシメンコトヲ務ムヘシ

他ノ教科目ヲ授ケル際ニ於テモ常ニ言語ノ練習及文字ノ書キ方ニ注意セシメンコトヲ要ス

**第四條** 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ小ナル整數ノ範圍内ニテ其ノ唱へ方、書キ方及簡易ナル計算ヲ授ケ次第ニ其ノ範圍ヲ擴メテ小數、分數ニ及ホシ更ニ其ノ程度ヲ進メ且簡易ナル比例、歩合算ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ尋常小學校ニ於テ授ケタル事項ノ程度ヲ進メ且數ノ代數的計算及幾何圖形ニ關スル知識ノ初歩ヲ授ケ又土地ノ情況ニ依リテハ日用簿記ノ大要ヲ課スヘシ

算術ハ筆算ヲ用フヘシ尋常小學校ニ在リテハ土地ノ情況ニ依リ珠算ヲ併セ用フルコトヲ得高等小學校ニ在リテハ珠算ヲ併セ課スヘシ

算術ヲ授ケルニハ實驗實測ヲ用ヒ運算ノ方法及理由ヲ正確ニ説明セシメテ理會ヲ精確ニシ運算ニ習熟シテ應用自在ナラシムコトヲ務メ又圖表複利表等ノ取扱ニ慣レシメ且暗算ニ熟達セシムコトヲ要ス

算術ノ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項及土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常適切ナルモノヲ選フヘシ

**第五條** 國史ハ國體ノ大要ヲ知ラシメ兼テ國民タルノ志操ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ建國ノ體制、皇統ノ無窮、歷代天皇ノ盛業、忠良賢哲ノ事蹟、國民ノ武勇、文化ノ由來、外國トノ關係等ノ大要ヲ授ケ以テ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ事歴ヲ知ラシムヘシ  
高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メ特ニ近世史ニ重キヲ置キ之ヲ授ケ我國發達ノ蹟ヲ知ラシムヘシ

國史ヲ授クルニハ成ルヘク圖畫、地圖、標本等ヲ示シ兒童ヲシテ當時ノ實狀ヲ想像シ易カラシメ特ニ修身ノ教授事項ト聯絡セシメンコトヲ要ス

**第六條** 地理ハ地球ノ表面及人類生活ノ狀態ニ關スル智識ノ一班ヲ得セシメ又本邦國勢ノ大要ヲ理會セシメテ兼テ愛國心ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ本邦ノ地勢、氣候、區劃、都會、產物、交通等竝ニ地球ノ形狀、運動等ノ大要ヲ理會セシメ且滿洲地理ノ大要ヲ授ケ兼テ本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ニ關スル簡單ナル智徳ヲ得セシムヘシ

高等小學校ニ於テハ各大洲ノ地勢、氣候、區劃、交通等ノ概略ヨリ進ミテ本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ノ大要及本邦ノ政治經濟上ノ狀態竝ニ外國ニ對スル地位等ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一班ヲ授クヘシ

地理ヲ授クルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ又他球儀、地圖、標本、寫眞等ヲ示シテ確實ナル智

識ヲ得シメ特ニ歴史及理科ノ教授事項ト聯絡セシメンコトヲ要ス

**第七條** 理科ハ通常ノ天然物及自然ノ現象ニ關スル智識ノ一班ヲ得シメ其ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ兼テ觀察ヲ精密ニシ自然ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ植物、動物、礦物及自然ノ現象ニ就キ主トシテ兒童ノ目撃シ得ル事項ヲ授ケ特ニ重要ナル植物、動物、礦物ノ名稱、形狀、效用及發育ノ大要ヲ知ラシメ又通常ノ物理化學上ノ現象及人々生理ノ初步ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ特ニ重要ナル元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身ノ生理衛生ノ大要ヲ授ケ兼テ植物、動物、礦物ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシムヘシ

理科ニ於テハ務メテ農事、水産、工業、家事等ニ適切ナル事項ヲ授ケ特ニ植物、動物等ニ就キ教授スル際ニハ之ヲ以テ製スル重要ナル加工品ノ製法、效用等ノ概略ヲ知ラシムヘシ  
理科ヲ受クルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ若ハ標本、模型、圖畫等ヲ示シ又簡單ナル實驗ヲ施シ明瞭ニ理會セシメンコトヲ要ス

**第八條** 圖畫ハ通常ノ形體ヲ看取シ正シク之ヲ畫クノ能ヲ得シメ兼テ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ單形ヨリ始メ漸ク簡短ナル形體ニ及ホシ實物若クハ手本ニ就キ又時々自己ノ工夫ヲ以テ畫カシムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メテ諸般ノ形體ヲ畫カシムヘシ土地ノ情況ニ依リテハ簡易ナル幾何畫ヲ授クルコトヲ得

圖畫ヲ授クルニハ成ルヘク他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體及兒童ノ日常目撃セル物體中ニ就キテ之ヲ畫カシメ兼テ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尙フノ習慣ヲ養ハンコトニ注意スヘシ

**第九條** 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フルコトヲ得シメ兼テ美感ヲ養ヒ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ平易ナル單音唱歌ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メテ授クヘシ又便宜簡易ナル複音唱歌ヲ授クルコトヲ得

歌詞及樂譜ハ平易雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシムルモノタルヘシ

**第十條** 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ以テ全身ノ健康ヲ保護増進シ精神ヲ快活ニシテ剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ體操、教練、遊戲及競技ニ就キ簡易ナル動作ヨリ始メ漸ク其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ又男兒及女兒ノ別ニ依リ其ノ授クヘキ事項ヲ斟酌スヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ一層其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ

土地ノ情況ニヨリ體操ノ教授時間ノ一部若クハ教授時間ノ外ニ於テ適宜ノ戶外運動ヲナサシメ又水泳ヲ授クルコトアルヘシ

體操ノ教授ニ依リテ習成シタル姿勢ハ常ニ之ヲ保タシメンコトヲ務ムヘシ

**第十一條** 裁縫ハ通常ノ衣類ノ縫ヒ方及裁チ方等ニ習熟セシメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ運針法ヨリ始メ漸ク通常ノ衣類ノ縫ヒ方ヲ授ク又便宜裁チ方、繕ヒ方等ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方ヲ授クヘシ

裁縫ハ其ノ材料ヲ日常所用ノモノニ取り之ヲ授クル際用具ノ使用方、材料ノ品類、性質及衣類ノ保存方、洗濯方等ヲ教示スヘシ

**第十二條** 手工ハ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ得シメ工業ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

手工ハ紙、絲、粘土、麥稈、木、竹、金屬等其ノ土地ニ適切ナル材料ヲ用ヒテ簡易ナル製作ヲ爲サシメ高等小學校ニ於テハ製圖及女兒ニ在リテハ手藝ヲ簡易ナル程度ニ於テ併セ授クヘシ

手工ヲ授クル際ニハ用具ノ使用方、材料ノ品類性質等ヲ教示スヘシ

**第十三條** 農業ハ農業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ農業ノ趣味ヲ長シ勤勉利用ノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

農業ハ土地ノ情況ニ依リ農事若ハ水産ヲ授ク又ハ農事、水産ヲ併セ授クヘシ

農事ハ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、養蠶、養畜等ニ就キ土地ノ情況ニ適切ニシテ兒童ノ理會シ易キ事項ヲ授クヘシ

水産ハ漁撈、養殖、製造等ニ就キ其ノ土地ノ業務ニ適切ナルモノヲ授クヘシ

農業ヲ授クルニハ特ニ地理、理科等ノ教授事項ト關聯シ時々其ノ土地實際ノ業務ニ就キテ教示シ

其ノ知識ヲ確實ナラシメンコトヲ務ムヘシ  
第十三條ノ二 工業ハ工業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ勤勉綿密ニシテ且創作工夫ヲ重スルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

工業ハ木工、竹工、金工、塗工、染織等ニ就キ土地ノ情況ニ適切ニシテ兒童ニ趣味アル事項ヲ授ケ且材料ノ性質及用法並工具ノ使用法及保存法ヲ知ラシムヘシ  
工業ヲ授クルニハ地理、理科、圖畫、手工等ノ教授事項ト關聯シ又時々其ノ土地ニ於ケル工場等ヲ見學セシメ實際ノ業務ト密接ナル關係アラシムルコトヲ務ムヘシ

第十四條 商業ハ商業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ勤勉敏捷ニシテ且信用ヲ重スルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス  
商業ハ學校所在ノ地方ニ於ケル賣買、金融、運輸、保險其ノ他商業ニ關スル重要ナル事項ニシテ兒童ノ理會シ易キモノヲ選ヒ國語、算術、地理、理科等ノ教授事項ト關聯シテ之ヲ授ケ且簡易ナル商用簿記ヲ授クヘシ

第十五條 家事ハ家事ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ家事ノ趣味ヲ長シ兼テ節約、利用、秩序、清潔ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス  
家事ハ衣食住、看病、育兒其ノ他一家ノ經濟等ニ關スル事項ノ大要ヲ授クヘシ家事ヲ授クルニハ特ニ理科トノ聯絡ニ注意シ又實習ニ重キヲ置キ土地ノ情況ニ適切ナラシメンコトヲ務ムヘシ

第十六條 外國語ハ日常簡易ノ英語ヲ習得セシムルヲ以テ要旨トス  
外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、話シ方、綴リ方、書キ方ヲ授クヘシ

外國語ヲ授クルニハ成ルヘク日常ノ生活ニ關聯セシメテ其ノ理會ヲ容易ニシ練習ニ重キヲ置クヘシ  
第十七條 尋常小學校各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第四號表ニ依ルヘシ  
手工ヲ加フルトキ又ハ第一學年、第二學年ニ於テ圖畫ヲ課スルトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目ノ每週教授時數ヲ減シ之ニ充ツヘシ

第十七條ノ二 第三十四條ノ規定ニ依リ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ教科目ノ每週教授時數ハ管理者者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ  
第十八條 高等小學校各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第五號表又ハ第六號表ニ依ルヘシ  
第十八條ノ二ノ規定ニ依リ實業ヲ隨意科目ト爲シタル場合ニ於テ之ヲ學習セサル兒童ニ對シテハ其ノ每週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スヘシ  
實業ニ於テ工業ヲ學習スル爲手工ヲ課セサル兒童ニ對シテハ其ノ每週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スルコトヲ得

第三學年ニ於ケル圖畫、唱歌ヲ隨意科目ト爲シタル場合ニ於テ之ヲ學習セサル兒童ニ對シテハ其ノ每週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スルコトヲ得  
第十八條ノ二 實業ハ特別ノ事情アル場合ニ限り管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第十九條 土地ノ情況ニ依リ管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ左ノ制限内ニ於テ第十七條及第十八條ノ規定ニ依ル時數ヲ増減スルコトヲ得

一 尋常小學校ノ每週教授時數ハ三十時ヲ超エ又十八時ヲ下ルコトヲ得ス  
二 高等小學校ノ每週教授時數ハ三十二時ヲ超エ又二十七時ヲ下ルコトヲ得ス  
第三十四條ノ規定ニ依リ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ每週教授時數ハ各部十八時以上トス但シ年  
少ノ部ニ在リテハ之ヲ十二時迄ニ減スルコトヲ得

第二十條 學校長ハ夏季冬季休業日ノ前後各々二十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ  
得

前項ノ規定ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ便宜各教科目ノ每週教授時數ヲ斟酌スヘ  
シ

第二十一條 尋常小學校若ハ高等小學校ニ於テ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程  
度ニ拘ラス全部又ハ一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得

第二十二條 學校長ハ其ノ小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第二十三條 小學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ別ニ試験ヲ用フルコ  
トナク兒童平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第二十四條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ尋常小學校若ハ高等小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタル  
者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

學校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書、第二十一條ノ規定ニ  
依リ一學年間學習セシ者ニハ學習證書ヲ與フルコトヲ得

第二節 學年、休業日及式日

第二十五條 小學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終リ

前項ニ依ル學年ノ外土地ノ情況ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置クコトヲ  
得

小學校ノ學期ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十六條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第二十七條 小學校ノ休業日ハ左ノ如シ但シ第三號乃至第六號ノ休業日ハ學年ニ依リ之ヲ異ニスル  
コトヲ得

一 一月一日及昭和二年勅令第二十五號ニ依リ休日タル祭日祝日

二 日曜日

三 夏季休業日

四 冬季休業日

五 學年末休業日

六 其ノ他府縣知事ノ定ムル休業日

前項第三號乃至第五號ノ休業日數ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

【昭和二年勅令第二十五號】

朕大正元年勅令第十九號休日ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ノ祭日及祝日ヲ休日トス

元 始 祭

一月三日



新年宴會	一月五日
紀元節	二月十一日
神武天皇祭	四月三日
天長節	四月二十九日
神嘗祭	十月十七日
明治節	十一月三日
新嘗祭	十一月二十三日
大正天皇祭	十二月二十五日
春季皇靈祭	春分日
秋季皇靈祭	秋分日

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十八條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニ於テハ職員及兒童、學校ニ參集シテ左ノ式ヲ行フヘシ

- 一 職員及兒童「君カ代」ヲ合唱ス
- 二 職員及兒童ハ  
天皇陛下  
皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ
- 三 學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス
- 四 學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス

五 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス  
御影ヲ拜戴セサル學校及特ニ府縣知事ノ認可ヲ受ケ複寫シタル御影若ハ府縣知事ニ於テ適當ト認メタル御影ヲ奉藏セサル學校ニ於テハ前項第二號ノ式ヲ闕ク

第三節 編制

第二十九條 小學校ノ學級數ハ二十四學級以下トス  
特別ノ事情アルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得  
特別ノ事情ニ依リ小學校ニ於テ分教場ヲ設クルトキハ一分教場ノ學級數ハ六學級以下トシ第一項ノ制限外ト爲スコトヲ得

第三十條 一學級ノ兒童數ハ尋常小學校ニ在リテハ七十人以下、高等小學校ニ在リテハ六十人以下トス  
特別ノ事情アルトキハ前項ノ制限ヲ超過シテ各々十人マテヲ増スコトヲ得  
第三十一條 尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ同一學年ノ女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ該學年ノ學級ヲ別ツヘシ  
第一學年及第二學年ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得  
高等小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全校女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ學級ヲ別ツヘシ  
特別ノ事情アルトキハ第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十二條 (削除)

第三十三條 修身、體操、唱歌、裁縫、手工、實業及小學校令第二十條第二項ニ依リ加ヘタル教目ハ數學級ノ全部又ハ一部ノ兒童ヲ合セテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得但シ裁縫、手工、實業ニ就キテハ兒童ノ數七十人ヲ超エサル場合ニ限ル

第三十四條 土地ノ情況ニ依リ尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全部若ハ一部ノ兒童ヲ前後二部ニ分チテ教授スルコトヲ得

第三十五條 尋常小學校ニ於テハ各學級ニ本科正教員一人ヲ置クヘシ

高等小學校ニ於テハ其ノ學級數ニ等シキ員數ノ本科正教員ヲ置クノ外教科目、教授時數、兒童數等ニ應シ必要ナル員數ノ本科正教員又ハ專科正教員ヲ置クヘシ

土地ノ情況ニ依リ尋常小學校ニ在リテハ二學級毎ニ本科正教員一人及准教員一人又ハ三學級毎ニ本科正教員二人ヲ置クコトヲ得

必要アル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ルノ外向准教員ヲ置キ兒童ノ教授ヲ補助セシムルコトヲ得

前條ノ規定ニ依リ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ前後二學級毎ニ本科正教員一人ヲ置クヲ常例トス

第三十六條 六學級以上ノ小學校ニ於テハ學校長ノ擔任スル教授ヲ補助スル爲正教員一人若クハ准教員一人ヲ置クコトヲ得

第三十七條 尋常小學校ニ於テハ適宜專科正教員ヲ置クコトヲ得

第三十七條ノ二 第三十五條第二項後段及前條ノ規定ニ依リテ置キタル教員ハ一校ヲ限リ他ノ小學

校ノ教員ヲ兼ヌルコトヲ得

第三十八條 補習科ノ學級數ハ第二十九條ニ規定シタル學級數ノ制限外トス但シ其ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ此ノ限ニアラス

第三十九條 全校兒童ヲ一學級ニ編制スル學校ヲ單級小學校トシ二學級以上ニ編制スル學校ヲ多級小學校トス

第四十條 (削除)

第四十一條 小學校ノ學級ヲ編制シ又ハ變更シタルトキハ遲滯ナク管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ニ届出ツヘシ

第四節 補習科

第四十二條 補習科ヲ分テ尋常小學校補習科及高等小學校補習科トス

尋常小學校補習科ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ尋常小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

高等小學校補習科ハ高等小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ高等小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

第四十三條 補習科ノ教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

前項ノ規定ニ依リ定メタル教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第四十四條 補習科ノ教科用圖書ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十五條 補習科ノ教科ヲ授クルニハ其ノ土地ノ業務ニ適切ナル事項ヲ交フヘシ

第四十六條 補習科ノ修業年限ハ二箇年以下トシ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十七條 補習科ノ教授ハ一定ノ季節ヲ選ヒテ之ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 補習科ノ教授日教授時間及毎週教授時數ハ兒童ノ便宜ヲ圖リ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十九條 高等小學校補習科ノ學級ハ男女ヲ合シテ之ヲ編制スルコトヲ得ス但シ其ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ此ノ限ニアラス

第五十條 補習科ノ教場ハ正教科ヲ授クル校舍外ニ之ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 補習科ノ教授ハ正教科ヲ教授スル教員又ハ代用教員ニ於テ之ヲ擔任スヘシ

補習科ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス  
特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五十二條 第四十三條第一項、第四十四條第四十六條及第四十八條ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五節 教科用圖書

第五十三條 小學校教科用圖書中修身、國語、算術、國史、地理、理科、家事、圖畫ヲ除キ其ノ他ノ圖書ニ限リ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ及文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ府縣知事之ヲ採定ス但シ體操、裁縫、手工及尋常小學校第四學年以下ノ唱歌ニ關シテハ兒童ニ使用セシムヘキ圖書ヲ採定スルコトヲ得ス又國語書キ方、算術、理科、家事、圖畫ノ教科用圖書及小學地理附

圖ハ學校長ニ於テ之ヲ兒童ニ使用セシメサルコトヲ得

第五十四條 小學校令第二十四條第二項又ハ本令第五十三條ニ依リ教科用圖書ヲ採定シタルトキハ之ヲ使用セントスル學年ノ開始ヨリ九十日前ニ其ノ旨ヲ公布スヘシ

特別ノ事情アルトキハ前項ノ公布期限ニ依ラサルコトヲ得

第五十五條 文部大臣ノ檢定ヲ經タル小學校教科用圖書ノ定價ヲ増加シタルトキハ其ノ採定ハ效力ヲ失フ

第五十六條 小學校教科用圖書ヲ變更シタル場合ニ於テハ其ノ圖書ハ最下學年ノ兒童ヨリ用ヒシメ其ノ他ノ兒童ニハ從來ノ圖書ヲ襲用セシムヘシ

第五十七條 小學校教科用圖書ノ採定ニ關シ其ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ノ一ニ該當スル所爲アル者

ハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

一 直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ官吏、學校職員若ハ運動者ニ供與シ又ハ供與セントコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セントコトヲ周旋勸誘シタル者並供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者

二 直接又ハ間接ニ酒食遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ宿泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

三 官吏、學校職員又ハ其ノ關係アル學校法人等ニ對スル利害ノ關係ヲ利用シ直接若ハ間接ニ官吏、學校職員ヲ誘導シ又ハ威逼シタル者及其ノ誘導威逼ニ應シタル者

四 官吏又ハ學校職員ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ拐引シタル者  
五 探定ヲ妨クル目的ヲ以テ新聞紙雜誌張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス官吏又ハ學校職員ニ對シ虛偽ノ事項ヲ流布シタル者

第五十八條乃至第六十三條 (削除)

第二章 設備準則

第六十四條 校地、校舍、體操場及校具ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス校地ハ道德上竝ニ衛生上害ナク且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ  
校舍ハ教授上、管理上竝ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

第六十五條乃至第七十四條 (削除)

第七十五條 土地ノ情況ニ依リ成ルヘク教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第七十六條 校舍ヲ新築、増築、改築シ若クハ市町村立高等小學校及私立小學校ノ校地ヲ選定シ又ハ變更セントスルトキハ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七十七條乃至第七十九條 (削除)

第三章 就學

第八十條 市町村長ハ其ノ市町村内ニ居住シ翌年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ第九號表ノ様式ニ依リ毎年十二月末日マテニ其ノ學齡簿ヲ編製スヘシ但シ第二十五條第二項ニ依ル場合ニ於テハ其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ毎年六月末日マテニ學齡簿ヲ

編製スヘシ

第八十一條 市町村長ハ學齡簿編製後三月三十一日マテニ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ遲滯ナク之ヲ學齡簿ニ記入スヘシ但シ第二十五

條第二項ニ依ル場合ニ於テハ市町村長ハ學齡簿編製後八月三十一日マテニ其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者ヲ遲滯ナク學齡簿ニ記入スヘシ

市町村長ハ就學期間中ニ在ル兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ遲滯ナク其ノ兒童ノ就學ノ始期ニ達シタル年ノ學齡簿ニ記入スヘシ

市町村長ハ學齡簿ニ登載ノ兒童ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ遲滯ナク之ヲ抹消スヘシ但シ第二號ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ抹消スルト同時ニ學齡簿ノ謄本ヲ兒童ノ轉住地ノ市町村長ニ送付スヘシ

一 兒童死亡シタルトキ

二 兒童市町村外ニ轉住シタルトキ

三 兒童ノ居所一箇年以上分明ナラサルトキ

前項但書ニ依リ學齡簿ノ謄本ヲ送付ヲ受ケタル市町村長ハ送付シタル市町村長ニ對シ遲滯ナク學齡簿ニ記入ノ手續ヲ完了シタル旨又ハ兒童ノ來住セサル旨ヲ通知スヘシ

第二項及第三項ノ外學齡簿ニ記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第八十二條 市町村長ハ兒童ヲシテ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘキ期日ヲ豫メ其ノ保護者ニ通知スヘシ

市町村、町村學校組合又ハ學區ノ使用ニ係ル尋常小學校二校以上アル場合ニ於テハ市町村長ハ前項ノ通知ヲ爲スニ當リ兒童ノ入學スヘキ尋常小學校ヲ指定スルコトヲ得但シ兒童ノ保護者ハ其ノ兒童ヲ入學セシメントスル尋常小學校ヲ選定シテ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

**第八十三條** 市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル兒童ノ氏名及入學期日ヲ關係學校長ニ通知スヘシ其ノ通知ヲ爲シタル後兒童ノ就學ニ關シ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

**第八十四條** 就學スヘキ兒童又ハ其ノ保護者ニシテ小學校令第三十三條ニ掲クル事由アルトキハ其ノ保護者ハ就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ヲ市町村長ニ申立ツヘシ但シ貧窮ニ因ル場合ヲ除ク外醫師ノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

**第八十五條** 就學猶豫ノ期間ハ其ノ年ノ四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ一箇年トシ既ニ就學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ一箇年以下トス

**第二十五條第二項**ノ學年ヲ置キタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ五箇月其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ七箇月トシ既ニ就學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ各五箇月以下又ハ七箇月以下トス

**第八十六條** 市町村長ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ノ教育ヲ監督スヘシ必要ト認メタルトキハ其ノ兒童ニ就キ試験ヲ行フコトヲ得

**第八十七條** 市町村長ハ前條ノ兒童ノ教育ヲ不適當ナリト認メタルトキハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ與ヘタル認可ヲ取消スヘシ

**第八十八條** 兒童ノ保護者ニ於テ其ノ兒童ヲ當然入學セシムヘキ學校以外ノ市町村立尋常小學校ニ

入學セシメ又ハ官立、府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキ若ハ高等學校及中學校ノ豫科又ハ盲學校及聾啞學校ノ初等部ニ入學セシメントスルトキハ其ノ學校ノ管理者又ハ學校長ノ承認書ヲ添ヘ關係市町村長ニ届出ツヘシ

**第八十九條** 市町村立尋常小學校長ハ第十號表ノ様式ニ依リ學年ノ始ニ於テ入學シタル兒童ノ學籍簿ヲ編製スヘシ

**第九十條** 市町村立尋常小學校長ハ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスヘシ

**第九十一條** 市町村立尋常小學校長ハ第八十三條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル兒童中入學期日後七日以内ニ其ノ小學校ニ入學セサル者アルトキハ其ノ氏名ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

**第九十二條** 在學兒童ニシテ正當ノ事由ナク引續キ七日間缺席シタルトキハ關係學校長ハ遲滞ナク其ノ保護者ニ對シ兒童ヲシテ出席セシムヘキ旨ヲ通知シ仍引續キ七日以上出席セシメサルトキハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

**第九十三條** 市町村長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ督促ヲ爲スモ仍就學又ハ出席セシメサルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

**第九十四條** 府縣知事ニ於テ前條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

第九十五條 市町村立尋常小學校長ハ毎學年ノ終ニ卒業シタル兒童ノ氏名ヲ遲滯ナク關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十六條 第八十八條ノ規定又ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ當然入學スヘキ學校以外ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ニシテ其ノ教科ヲ卒リタルトキ又ハ其ノ教科ヲ卒ラスシテ退學シ若ハ廢學シタルトキハ關係學校長又ハ兒童ノ保護者ハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ届出ツヘシ

第九十七條 (削除)

第四章 教員檢定及免許狀

第一節 教員ノ檢定

第九十八條 小學校教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 會長

一 常任委員

一 臨時委員

第九十九條 會長ハ府縣學務部長タル書記官ヲ以テ之ニ充ツ

常任委員及臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス

臨時委員ハ試驗施行ノ際之ヲ命ス

第一百條 會長ハ會務ヲ整理シ檢定ノ成績ヲ府縣知事ニ報告ス

會長事故アルトキハ府縣知事ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第一百條 常任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事ヲ掌ル

臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ニ關スル事ヲ掌ル

第一百二條 小學校教員檢定委員會ニ書記ヲ置キ府縣判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第一百三條 會長、常任委員、臨時委員及書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第一百四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員ノ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 (削除)

三 破産者

四 免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ三箇年ヲ經過セサル者

第一百五條 教員ノ檢定ハ分テ無試驗檢定及試驗檢定トシ學力、性行及身體ニ就キ之ヲ行フ

第一百六條 試驗檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

第一百七條 無試驗檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第八十八條乃至第一百十二條ノ規定ニ對照シ

テ之ヲ行フ

一 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀若ハ高等學校高等科教員免許狀ヲ有スル者

二 高等學校高等科又ハ大學豫科ヲ卒ヘタル者

三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

四 中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者

五 公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ノ卒業生、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者及一般ノ專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

六 其ノ他府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

前項第四號及第五號ニ該當スル者ニ對シ小學校本科正教員ノ檢定ヲ行フ場合ハ卒業後二箇年以上小學校教育ニ從事シタル者又ハ高等女學校ノ高等科、專攻科若ハ修業年限一年以上ノ補習科ニ於テ小學校教員ニ適スル教育ヲ受ケ卒業シタル者ニ限ル

第八條 小學校本科正教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師範學校男生徒、女子ニ在リテハ師範學校女生徒ニ課スル學科程度ニ準ス但シ手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ闕クコトヲ得

本條ニ小學校本科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ本科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第九條 小學校准教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ女子ニ在リテハ體操ハ女子ノ小學校本科正教員ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ

修身 道德ノ要旨

教育 教授法ノ大要

國語 普通文及小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字

算術 整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例、求積、代數及幾何ノ初歩

歷史 國史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ大要

圖畫 自在畫及簡易ナル幾何畫

音樂 唱歌、樂器使用法

體操 體操、教練、遊戲及競技

裁縫 通常ノ衣類ノ裁子方、縫ヒ方、繕ヒ方

手工 手工ノ大要

農業 農業ノ大要

商業 商業ノ大要

前項ノ科目中裁縫ハ女子ニ限ル

圖畫、音樂、手工、農業、商業ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ闕クコトヲ得

本條ニ小學校准教育トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ准教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第十條 小學校專科正教員ノ試驗科目ハ音樂、體操、裁縫、手工、農業、工業、商業、家事、圖畫、外國語ノ一科目若ハ數科目トス

府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項試驗科目ノ外必要ナル科目ニ付試驗ヲ行フコトヲ得

試驗科目ノ程度ハ師範學校生徒ニ課スル各科目ノ程度工業ニ在リテハ師範學校專攻科生徒ニ課スル手工ノ程度ニ準ス但シ前項ノ試驗科目ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ府縣知事ノ定ムル所ニ

依ル

各科目ノ試験ハ教育ノ大要及受験科目ノ教授法ヲ附帶セシメ之ヲ行フ  
小學校專科正教員ノ試験ハ小學校教員檢定委員會ニ於テ修身、國語、算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有  
スト認メタル者ニアラサレハ之ヲ行ハス  
本條ニ小學校專科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ專科正教員タルコトヲ得ヘキ者  
ヲ謂フ

第百十一條

尋常小學校本科正教員ノ試験科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ女子ニ在リテハ體操ハ女  
子ノ小學校本科正教員ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ

- 修身 道德ノ要旨
- 教育 教育、教授法及學校管理法ノ大要
- 國語 普通文及小學校教授用讀本ノ講讀並ニ作文、習字
- 算術 整數、分數、小數、諸等數、步合算、比例、求積
- 歷史 國史ノ大要
- 地理 日本地理及外國地理ノ大要
- 理科 博物、物理、化學ノ大要
- 圖畫 自在畫
- 音樂 唱歌、樂器使用法
- 體操 體操、教練、遊戲及競技

裁縫 通常ノ衣類ノ縫キ方、縫ヒ方、繕ヒ方

前項ノ科目中裁縫ハ女子ニ限ル

第百十二條

尋常小學校准教員ノ試験科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ女子ニ在リテハ體操ハ第百十  
一條第一項但書ニ準シ其程度ヲ斟酌スヘシ

- 修身 道德ノ要旨
- 教育 教育、教授法ノ大要
- 國語 小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字
- 算術 整數、分數、小數、諸等數、步合算、比例
- 歷史 國史ノ大要
- 地理 日本地理及外國地理ノ大要
- 理科 博物、物理、化學ノ初步
- 圖畫 簡易ナル自在畫
- 唱歌 單音唱歌
- 體操 體操、教練、遊戲及競技
- 圖畫 唱歌ノ一科目若クハ二科目ハ之ヲ闕クコトヲ得

第百十三條

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ試験檢定ヲ行フトキハ小學校教員檢定委員會ニ於テ  
第百八條乃至第百十二條ノ規定ニ對照シテ某科目ニ關シ同等以上ノ學力アリト認メタル者ニ對シ  
テハ其ノ科目ノ試験ヲ闕クコトヲ得



- 一 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀若ハ高等學校高等科教員免許狀ヲ有スル者
  - 二 小學校教員免許狀ヲ有スル者
  - 三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者
  - 四 小學校教員免許狀又ハ小學師範學科卒業證書ヲ有シ其ノ有効期間滿チタル者
  - 五 小學校教員講習科ヲ卒リタル者
  - 六 中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者
  - 七 公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ヲ卒業シタル者、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者及一般ノ專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者
- 第一百四十四條** 試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試驗ニ合格セサルモ某科目ニ關シ成績佳良ナルトキハ府縣知事ハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スルコトヲ得
- 前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ試驗檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試驗ヲ闕ク
- 第一百五條** 府縣知事ハ檢定手数料ヲ徵收スルコトヲ得
- 第一百十六條** (削除)
- 第一百七條** 師範學校長ハ師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シ小學校教員免許狀ノ授與ヲ府縣知事ニ申請スヘシ

- 第一百十八條** (削除)
- 第一百十九條** 府縣知事ハ小學校教員免許狀登錄簿ヲ作り免許狀ヲ授與シタル者ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記入スヘシ
- 第一百二十條** 免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ書換若ハ再渡ヲ府縣知事ニ出願スルコトヲ得
- 前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料トシテ府縣知事ノ定メタル金額ヲ納ムヘシ
- 第一百二十一條** 免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名及免許狀ノ種類ハ府縣知事之ヲ公告ス
- 第五章 職員**
- 第一節 學校長及教員ノ進退**
- 第一百二十二條** 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得
- 一 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルニ因リ職務ヲ行フニ妨アルトキ
  - 二 學校編制ノ變更又ハ訴願ノ裁決ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
  - 三 教員養成ヲ目的トスル官立、府縣立學校ニ入學スルトキ
  - 四 名譽職タル町村長及助役ニ當選シタルトキ
  - 五 私立小學校ノ教員又ハ外國ニ於テ本邦人ヲ教育スル爲ニ設置シタル學校ノ教員トナルトキ
  - 六 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

第二百二十三條 市町村立小學校正教員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ當然休職者トス但シ兵役法第十條ノ規定ニ依リ短期現役兵トシテ服役スル者ハ此ノ限ニアラス

【兵役法第十條】年齢二十五年迄ニ師範學校ヲ卒業シタル者（小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ失ヒタル者ヲ除ク）ノ現役ハ第五條ノ規定ニ拘ラス五月トス但シ師範學校ノ教練ヲ修了セサル者ニ在リテハ七月トス  
前項ノ規定ニ依リ現役ニ服スル者ハ現役中ニテ短期現役兵ト稱ス  
短期現役兵其ノ現役ヲ終リタルトキハ直ニ第一國民兵役ニ服ス

第二百二十四條 休職ノ期間ハ第二百二十二條第一號第二號第四號及第五號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第六號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ同條第三號及第二百二十三條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月、第二百二十二條第七號ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙一箇月トス但シ第二百二十二條第五號後段ノ場合ニ在リテハ府縣知事ハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二百二十五條 休職者ハ職務ニ從事セサル外總テ在職者ト異ナルコトナシ但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第二百二十六條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

一 不具、癡疾ニ因リ又ハ身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ退職ヲ出願シタルトキ

三 休職者復職シタル爲其ノ代員ヲ要セサルトキ

第二百二十七條 第二百二十二條又ハ第二百二十六條ノ事由ニ因ラスシテ休職又ハ退職ヲ命スル必要アリト認メタルトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ休職ノ場合ニ於テハ豫メ期間ヲ定メテ具申スルコトヲ要ス

第二百二十八條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

一 當該學校ノ廢セラレタルトキ

二 休職期間滿チタルトキ

第二百二十九條 市町村立小學校教員ニシテ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ又ハ其ノ免許狀ニシテ效力ヲ失ヒタルトキハ當然其ノ職ヲ失フ

第二百三十條 市町村立小學校准教員ノ進退ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第二百三十一條 (削除)

第二百三十二條 私立小學校長及教員ノ採用解職ハ設立者ニ於テ遲滯ナク府縣知事ニ届出ツヘシ

第二節 學校長及教員ノ職務及服務

第二百三十三條 學校長及教員ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉體シ法律命令ニ從ヒ誠實ニ其ノ職務ニ服スヘシ

第二百三十四條 學校長ハ校務ヲ整理シ所屬職員ヲ統督ス

第三百三十五條 正教員ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ且之ニ屬スル事務ヲ掌ル

第三百三十六條 准教員ハ本科正教員ノ職務ヲ助ク

第三百三十七條 市町村立小學校長及教員ハ當該學校所在ノ市町村、市町村學校組合、町村學校組合ノ地域内ニ居住スヘシ但シ學校長ニ在リテハ府縣知事、其ノ他ノ者ニ在リテハ學校長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ擅ニ其ノ職務ヲ離レ又ハ職務上居住スヘキ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第三百三十八條 學校長及教員ハ營利ヲ目的トスル會社ノ業務執行社員、取締役、監査役ト爲リ又ハ給料ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス但シ府縣知事ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニアラサレハ營利ヲ目的トスル業務ヲ爲スコトヲ得ス

第三節 懲戒處分、業務停止及免許狀褫奪

第三百三十九條 市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハントスルトキハ府縣知事ハ期間ヲ定メテ本人ヨリ手續書ヲ徵スルコトヲ要ス但シ之ヲ徵スルコト能ハサル事由アルトキハ此ノ限ニアラス

第四百十條 懲戒處分ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第四百十一條 市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ府縣知事ハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ

第四百十二條 市町村立小學校長及教員ノ減俸ハ一箇月以上一箇年以下減俸ノ處分ヲ受ケタル當時

ノ俸給月額ノ三分ノ一以下ヲ減給ス

第四百十三條 市町村立小學校教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ二箇年ヲ經ルニアラサレハ教員ノ職ニ就クコトヲ得ス

第四百十四條 第三百三十九條乃至第四百十一條ノ規定ハ業務停止及免許狀褫奪ノ處分ニ關シ之ヲ準用ス

第四百十五條 私立小學校長及教員ノ業務停止ハ一箇月以上二箇年以下トス

第四百十六條 府縣知事ニ於テ學校長又ハ教員ニ對シ免職、業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ氏名、職名及事由ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

第四百十七條 府縣知事ハ免職又ハ業務停止ノ處分ヲ受ケタル學校長及教員ニシテ改悛ノ實顯著ナリト認メタル者ニハ第四百十三條ノ期間内又ハ業務停止ノ期間内ト雖モ文部大臣ノ認可ヲ受ケ教員ノ職ニ就クコトヲ得シメ又ハ業務停止ヲ解クコトヲ得

第四節 俸給、旅費及諸給與準則

第四百十八條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

職名	職名	
	上	下
一級	百八十圓	百六十圓
二級	百四十五圓	百三十四圓
三級	百二十圓	百十圓
四級	百圓	九十圓
五級	八十五圓	八十圓
六級	七十五圓	七十圓
七級	六十五圓	六十圓
八級	五十五圓	五十圓
九級	四十五圓	四十圓

准 教 員	專科正教員	
	上	下
上	百二十圓	百圓
下	百十圓	九十圓
上	六十圓	五十圓
下	五十五圓	四十五圓
上	四十五圓	三十五圓
下	三十五圓	三十圓

**第四百九條** 一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ本科正教員ニ在リテハ二百四十圓マテ專科正教員ニ在リテハ百六十圓マテ漸次増給スルコトヲ得

**第五百十條** 教員ノ俸給ハ當分ノ等級相當ノ額ヲ減シテ之ヲ支給スルコトヲ得

**第五百十一條** 第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ他ノ小學校ノ教員ヲ兼ヌル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトヲ得

**第五百十二條** 教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトヲ得ス

**第五百十三條** 休職者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス但シ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ於テ特別ノ事情アル場合若ハ第二百二十二條第三號乃至第五號ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ給セサルコトヲ得

**第五百十三條ノ二** 市町村立小學校正教員ニシテ兵役法第十條ノ規定ニ依ル短期現役ニ服スル者ハ其ノ服役中俸給ノ三分ノ二ヲ減ス (前六十四頁參照)

**第五百十四條** 教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ俸給ノ一部若ハ全部ヲ給ス

但シ其ノ額ハ府縣知事ニ於テ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ學區ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

**第五百十五條** 教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

**第五百十六條** 教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給スヘシ

一 懲戒ニ因リ免職ニ處セラレタルトキ

二 免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失效ニ依リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

**第五百十七條** 教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額四箇月分ヲ其ノ遺族ニ給スヘシ

前項ノ遺族及其ノ順位ニ關シテハ判任官俸給令第十三條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

【判任官俸給令第十三條】判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸四月分ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戶籍内ニ在ル者ヲ謂フ  
 第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相続人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ  
 第二項ノ遺族ナキ場合ニ於テハ實家ニ在ル實父母、家督相續人、戶主ノ順位ニ依リ第一項ニ定ムル金額ノ二分ノ一ヲ給スルコトヲ得

第五百五十八條 正教員ノ旅費額ハ判任文官ノ例ニ準シ之ヲ定メ准教員ノ旅費額ハ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ但シ正教員ニシテ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校長ヲ兼務スル者ノ旅費額ハ奏任文官ノ例ニ準シ之ヲ定ムヘシ

第五百五十九條 教員ニシテ一週三十二時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者ニハ手當ヲ給スヘシ

第六百六十條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ハ慰勞金ヲ給スルコトヲ得

第六百六十一條 教員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ給スヘシ

第六百六十二條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ

第六百六十三條 教員ニハ土地ノ情況ニヨリ住宅料ヲ給スヘシ

第六百六十四條 第五百五十九條及第六百六十條ニ依リ給スル金額ハ府縣知事ニ於テ管理者ノ意見ヲ聞キテ之ヲ決定シ第六百六十一條乃至第六百六十三條ニ依リ給スル金額ハ管理者ニ於テ之ヲ決定スヘシ

第六百六十五條 本節ニ規定アルモノヲ除ク外俸給及旅費ノ支給方法ハ判任文官ノ例ニ準シ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第六百六十六條 第四百八十八條ニ掲クル表ニ依リ難キ事情アルトキハ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六百六十七條 本節ニ學校長、教員トアルハ市町村立小學校ノ學校長、教員ヲ謂フ

第五節 代用教員

第六百六十八條 市町村立小學校代用教員ノ採用、解職及懲戒處分ハ市町村立小學校准教員ノ例ニ依ル

第六百六十九條 (削除)

第七百七十條 私立小學校代用教員ノ採用解職ニ關シテハ第三百三十二條ノ規定ヲ準用ス

第七百七十一條 小學校令第四十七條ノ規定並ニ本令第五章第二節ノ規定中准教員ニ關スルモノハ代用教員ニ準用ス

第七百七十二條 府縣知事ニ於テ私立小學校代用教員ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ解職セシムルコトヲ得

第七百七十三條 市町村立小學校代用教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第六章 授業料

第七百七十四條 尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收セントスルトキハ市ニ在リテハ一箇月二十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七百七十五條 高等小學校ニ於テ徵收スル授業料ハ市又ハ市町村學校組合ニ在リテハ一箇月六十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月三十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七百七十六條 特別ノ事情アルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ期間ヲ定メテ前二條ノ制限ヲ超エタル授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第七百七十七條 小學校補習科ノ授業料額ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定ム

ムヘシ

第七十八條 小學校ニ於テハ學年ニ依リ授業料額ニ差等ヲ設クルコトヲ得ス

第七十九條 他ノ小學校設置負擔ノ區域ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ第七十四條及第七十五條ノ制限以內ニ於テ授業料額ヲ増スコトヲ得但シ兒童教育事務ヲ委託シタル市町村、町村學校組合又ハ學區ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ此ノ限ニアラス

第八十條 貧窮ノ爲授業料ヲ納ムルコト能ハサル者ニ對シテハ管理者ハ授業料ノ全部又ハ一部ヲ免除スヘシ

一家ノ兒童二人以上同時ニ小學校ニ就學スルトキハ管理者ハ授業料額ヲ減スルコトヲ得

第八十一條 本章ノ規定ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用セス

第七章 學務委員

第八十二條 市町村、市町村學校組合、町村學校組合並學區ノ學務委員八十人以下トス但シ東京市ニ在リテハ十五人、大阪市ニ在リテハ二十人マテニ増スコトヲ得

第八十三條 學務委員ハ左ニ掲クル事項ニ就キ市町村長、市町村學校組合管理者、町村學校組合管理者、區長並ニ其ノ代理者ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應シテ意見ヲ陳述ス

- 一 就學督促ニ關スルコト
- 二 家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ認可ニ關スルコト
- 三 就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ニ關スルコト
- 四 設備ニ關スルコト

五 經費豫算ノ調製ニ關スルコト

六 授業料ニ關スルコト

七 學校基本財産ニ關スルコト

八 教科目ノ加除選定ニ關スルコト

九 修業年限ニ關スルコト

十 補習科ノ設置廢止ニ關スルコト

第八十四條 公民ヨリ出ツル學務委員ノ任期ハ四箇年トス

補闕ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第八十五條 學務委員ニシテ資格ノ要件ヲ失ヒタル者ハ當然其ノ職ヲ失フ

第八章 (削除)

第八十六條乃至第九十四條 (削除)

第九章 小學校ニ類スル各種學校

第九十五條乃至第九十八條 (削除)

第九十九條 小學校ニ類スル各種學校ニハ學校長ヲ置クコトヲ得

第一百條 小學校ニ類スル各種學校教員ハ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ府縣知事ノ免許ヲ得タル者タルヘシ

第二十一條 小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ノ採用、解職、懲戒處分、業務停止ハ小學校教員ノ例ニ依ル

市町村立ノ小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第十章 附則

第二百十二條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス但シ第一章第一節乃至第四節、第五章中第四節及第五節、第六章、第八章ノ規定ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第二百十三條 小學校ニ於テ第三十五條ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ明治三十四年四月一日ヨリ五箇年間ハ三學級毎ニ本科正教員一人及准教員二人ヲ置クコトヲ得

既設小學校ノ編制ニシテ第三十五條ヲ除ク外第一章第三節ノ規定ニ牴觸スル場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ期間ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受ケ同節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二百十四條 既設ノ補習科ニ於テ第一章第四節ノ規定施行ノ際現ニ其ノ教科ヲ學習スル兒童ニ就キテハ其ノ兒童ノ終了スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第二百十五條 本令施行前府縣知事ニ於テ採定シタル小學校教科用圖書ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス

第六十條ノ規定ニ依リ學年開始前公布ヲ爲スヘキ期間ハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三十一日マテハ六十日トス

第二百十六條 本令施行前府縣知事ニ於テ定メタル規程ニ依リ編製シタル學齡簿及學籍簿ハ第三章ノ規程ニ依リ編製シタルモノト看做ス

第二百十七條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀及之ト同一ノ效力ヲ有スル小學師範學校卒業證書ハ本令ノ規定ニ依ル小學校教員免許狀中之ニ相當スルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第二百十八條 本令施行前從前ノ規程ニ依リ休職ヲ命セラレタル教員ノ休職期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

第二百十九條 市町村立小學校教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三十一日マテハ府縣知事ニ於テ定メタル從前ノ規程ニ依ル

第二百二十條 本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ニシテ公民中ヨリ選舉セラレ任期アル者ハ任期ノ滿了マテ其ノ職ヲ失フコトナシ其ノ任期ナキ者ハ本令施行ノ日ヨリ第百八十四條第一項ノ任期ヲ起算ス

本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ノ數第百八十二條ニ規定シタル制限ニ超過スルトキハ抽籤ニ依リテ退職者ヲ定ムヘシ

第二百二十一條 第八章ノ規定施行ノ際現ニ代用中ノ私立小學校ノ代用ニ關シテハ協議ニ依リ定メタル期間ノ滿了マテ仍從前ノ例ニ依ル

第二百二十二條 (削除)

第二百二十三條 明治二十四年文部省令第九號、同第十四號、同第十六號、同第十八號乃至同第二十三號、明治二十六年文部省令第二號、同第三號、明治二十七年文部省令第一號、同第九號、明治二十九年文部省令第十號、同第十一號、明治三十二年文部省令第三十號、同第三十二號、同第三十七號ハ之ヲ廢止ス

明治二十七年文部省令第二十六號中補習科ニ關スル規定、明治二十四年文部省令第一號、同第四號、同第八號、同第十號乃至同第十三號、明治二十五年文部省令第七號、明治二十六年文部省令第九號、明治三十年文部省令第二號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス

附 則 (明治四十年三月文部省令第六號)

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス但シ第二十九條第二項、第三十一條、第四十條、第四十八條、第五十二條、第九十七條、第一百十六條、第一百七十六條、第一百八十三條及第八章ノ改正ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

明治四十年勅令第五十二號附則第四項ノ教科目ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル但シ管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

【明治四十年勅令第五十二號附則第四項】

前項ニ依ル尋常小學校ノ教科目ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

●明治四十年勅令第五十二號附則第三項

特別ノ事情ニ依リ第十八條第一項ニ依リ難キ場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ期間ヲ定メテ府縣知事ノ認可ヲ受ケ當分ノ内尋常小學校ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ高等小學校ニ關シテモ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

○明治四十年勅令第五十二號第十八條第一項  
尋常小學校ノ修業年限ハ六箇年トス

地理ノ教授ノ程度ニ關シテハ從前ノ規定ニ依リ編纂シタル教科用圖書ヲ使用スル間ハ仍從前ノ例ニ

依ル

本令施行ノ際存在スル補習科ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

本令施行前第十四條第一項ニ依リ授與シタル證明書ノ效力ハ仍從前ノ規定ニ依ル

市町村又ハ町村學校組合ハ當分ノ内府縣知事ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ際現ニ高等小學校ニ於テ徵收スル授業料額ノ範圍内ニ於テ尋常小學校第五學年及第六學年ノ授業料額ヲ定メ之ヲ徵收スルコトヲ得

明治四十年勅令第五十二號附則第二項ニ依リ存續スル代用私立小學校ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

【明治四十年勅令第五十二號第二項】

市町村立尋常小學校ニ代用シタル私立小學校ニ關シテハ其ノ代用期間ノ滿了スルニ至ル迄仍其ノ代用ヲ存續スルコトヲ得

明治四十年勅令第五十二號附則第三項ニ依ル尋常小學校ノ兒童ノ學籍簿ハ仍從前ノ様式ニ依ルコトヲ得 (前頁參照)

附 則 (明治四十一年九月文部省令第二六號)

從前ノ規程ニ依リ編纂シタル教科用圖書ハ其ノ改正シタルモノヲ使用スルニ至ルマテ仍之ヲ使用セシム

附 則 (明治四十四年七月文部省令第二四號)



本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等小學校ニ在學スル兒童ニ對シテハ其ノ卒業ニ至ル迄教科目、各學年ノ教授ノ程度及毎週教授時數ニ關シ仍從前ノ規程ニ依ルコトヲ得

附 則 (大正八年三月文部省令第六號)

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル兒童ニ課スヘキ各學年ノ各教科目、毎週教授時數ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

附 則 (大正十四年四月文部省令第一三號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五百三十三條ノ二ハ大正十四年四月分ヨリ之ヲ適用ス

附 則 (大正十五年四月文部省令第一八號)

本令施行ノ際現ニ在學スル高等小學校ノ兒童ニ課スヘキ各學年ノ教科目、教授ノ程度及毎週教授時數ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第三十五條第二項ノ規定ハ大正十六年三月三十一日迄之ニ依ラサルコトヲ得

### 中學校令

(明治三十二年二月七日勅令第二十八號公布  
大正八年二月勅令第十一號改正現在)

朕中學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 中學校令

第一條 中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ養成ニ力ムヘキモノトス

第二條 北海道及府縣ニ於テハ土地ノ情況ニ應シ一箇以上ノ中學校ヲ設置スヘシ

文部大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ北海道及府縣中學校ノ増設ヲ命スルコトヲ得

第三條 前條ノ中學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第四條 郡市町村北海道及沖繩市町村學校組合及町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學校教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限り中學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ中學校ヲ設置スルコトヲ得

第六條 土地ノ情況ニ依リ中學校ノ分校ヲ必要トスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ設置スルコトヲ得但一校ニ付一分校ニ限ル

第七條 中學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

中學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 公立中學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 中學校ノ修業年限ハ五年トス

中學校ニハ補習科ヲ置クコトヲ得

中學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得  
補習科及豫科ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

第十一條 中學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

中學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條 中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

中學校教員免許狀ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 (削除)

第十五條 中學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十六條 公立中學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ノ額ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ中學校ト稱スルコトヲ得ス

第十八條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第十九條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十條 既設ノ尋常中學校分校ニシテ第六條ノ制限ニ超過スルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經テ本令施行ノ日ヨリ五箇年以内存置スルコトヲ得

第二十一條 明治十九年勅令第十五號中學校令第十二條ニ依リ設置シタル農業工業商業等ノ專修科ハ本令施行ノ日ニ於テ現ニ在學スル生徒ノ卒業スル迄之ヲ存置スルコトヲ得

第二十二條 既設ノ公私立尋常中學校ハ本令施行ノ日ヨリ中學校ト改稱ス

他ノ法令中尋常中學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然中學校ト看做ス

附 則 (明治四十年七月勅令第二八〇號)

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ第十條施行後ト雖仍從前ノ例ニ依ル

# 中學校令施行規則

(昭和六年一月十日文部省令第二號)

中學校令施行規則左ノ通改正ス

## 中學校令施行規則

- 第一章 生徒教養ノ要旨
- 第二章 學科及其ノ程度
- 第三章 學年、教授日數及式日
- 第四章 編制
- 第五章 設備
- 第六章 設置及廢止
- 第七章 入學、休學、退學及懲戒
- 第八章 雜則

## 中學校令施行規則

### 第一章 生徒教養ノ要旨

**第一條** 中學校ニ於テハ中學校令ノ旨趣ニ基キ小學校教育ノ基礎ニ據リ一層高等ノ程度ニ於テ道德教育及國民教育ヲ施シ生活上有用ナル普通ノ知能ヲ養ヒ且體育ヲ行フヲ以テ旨トシ特ニ左ノ事項ニ留意シテ其ノ生徒ヲ教養スヘシ

- 一 教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ學校教育ノ全般ヨリ道德教育ヲ行ハントラ期シ常ニ生徒ヲ實踐躬行ニ導キ殊ニ國民道德ノ養成ニ意ヲ用ヒ我カ建國ノ本義ト國體ノ尊嚴ナル所以トヲ會得セシメ忠孝ノ大義ヲ明ニシ其ノ信念ヲ鞏固ナラシメントラ期スヘシ
- 二 獨立自主ノ精神ヲ養ヒ勤勞ヲ愛好スルノ習慣ヲ育成シ且協同ヲ尙ヒ責任ヲ重ニスルノ觀念ヲ涵養センコトニカムヘシ
- 三 專ラ心力ノ啓發ヲ旨トシ徒ニ専門的學術ノ體系ニ泥ムコトナク社會生活上適切有用ナル知能ヲ養ハントラ期スヘシ
- 四 生徒ノ身體ヲ強健ナラシムルト共ニ精神ヲ鍛鍊シ青年ノ潤達ナル氣風ヲ養ハントラ旨トスヘシ

### 第二章 學科及其ノ程度

**第二條** 中學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語漢文、歷史、地理、外國語、數學、理科、實業、圖

畫、音樂、作業科、體操トス

第四學年以上ニ在リテハ第一種及第二種ノ課程ヲ編制シ生徒ヲシテ其ノ一課程ヲ選修セシム第一種及第二種ノ課程ハ修身、公民科、國語漢文、歷史、地理、理科、作業科、體操ヲ基本科目トシ第一種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、外國語、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及實業ヲ增課シ第二種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及外國語ヲ增課シ之ヲ編制スヘシ

前項ノ規定ハ第三學年ヨリ之ヲ適用スルコトヲ得但シ第一種及第二種ノ課程ハ修身、公民科、國

語漢文、歴史、地理、數學、理科、作業科、體操ヲ基本科目トシ第一種課程ニハ基本科目ニ國語、漢文、外國語、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及實業ヲ増課シ第二種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及外國語ヲ増課シ之ヲ編制スヘシ

特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第一種課程及第二種課程ノ中其ノ一ヲ缺クコトヲ得

實業ニ於テ農業又ハ工業ヲ課スル場合ニ在リテハ作業科ヲ缺クコトヲ得

外國語ハ英語、獨語、佛語又ハ支那語トス

**第三條** 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ第四學年以上ニ於テ第一種及第二種ノ課程ヲ編制スル場合ニ在リテハ甲號表、第三學年以上ニ於テ第一種及第二種ノ課程ヲ編制スル場合ニ在リテハ乙號表ニ依ルヘシ

學校長ハ必要アルトキハ甲號表又ハ乙號表ノ每週教授時數ノ合計及各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ増減セサル範圍内ニ於テ甲號表又ハ乙號表ノ教授時數ヲ變更スルコトヲ得

甲號表ノ第三學年ニ於ケル音樂ハ之ヲ缺クコトヲ得

前條第五項ノ規定ニ依リ作業科ヲ缺キタルトキハ其ノ教授時數ハ便宜之ヲ他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

實業、作業科、圖畫、音樂等ノ實習及體操ハ甲號表又ハ乙號表ノ教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

甲號表  
甲號表又ハ乙號表ノ教授時數ノ外每週二時以內ヲ課程外ノ指導ニ充ツルコトヲ得

學科目	基 本 科 目										學年	
	修 身	公 民 科	國 語 漢 文	歷 史	地 理	外 國 語	數 學	理 科	圖 畫	音 樂		作 業 科
第 一 學 年	一		七		三	五	三	二	一	二	五	三〇
第 二 學 年	一		六		三	五	三	三	一	二	五	三〇
第 三 學 年	一		六		三	六	五	三	一	一	五	三二
第 四 學 年	一	二	四		三			四		一	五	二〇
第 五 學 年	一	二	四		三			四		一	五	二〇

課 增			目 科 本											
數	外	國	總	基	體	作	音	圖	理	數	外	地	歷	國
學	國	語	時	本	操	業	樂	畫	科	學	國	理	史	語
	語	漢	數	科		科					語			漢
		文		目										文
			三〇		五	二	一	一	二	三	五	三		七
			三〇		五	二	一	一	三	三	五	三		六
一	二	一	二〇		五	一			三	三		三		四
一	二	一												
二	四	一	二〇		五	一			四			三		四
二	五	一												
二	四	一	二〇		五	一			四			三		四
二	五	一												

乙 號 表

基	公	修	學	年	目 科 課 增									
					合	增	音	圖	實	理	數	外	國	
民	科	身	科	目	計	課	樂	畫	業	科	學	語	語	漢
科				充	時	目	充							
			學	第	三〇									
			學	第	三〇									
			第	三										
			學	年	三二									
			第	四	三一	一	一	三	一	二	二	一	一	第一
			學	年	一三五	一	一	五	一	四	四	五	三	種
			第	四	三〇	一	一		一	二	二	五	四	第二
			學	年	〇三二	〇	〇		一	二	二	五	七	種
			第	五	三一	一	一		一	二	二	五	一	第一
			學	年	一三五	一	一		三	六	四	五	三	種
			第	五	三〇	一	一		一	二	二	五	四	第二
			學	年	〇三二	〇	〇		一	二	二	五	七	種

科目	目				合計
	理	實	圖	音	
科	業	畫	樂	樂	
理科	1-1-2				3-0
實業科		3-1-5			3-0-3-1-1-3-5
圖畫科			1-1-2		3-0-1-3-2-3-1-1-3-5
音樂科				1-1-2	3-0-1-3-2-3-1-1-3-5
合計	1-1-2	3-1-5	1-1-2	1-1-2	3-0-1-3-2-3-1-1-3-5
增設科目ニ充ツヘキ總時數	1-1-1-5	1-1-1-5	1-1-1-5	1-1-1-5	3-0-1-3-2-3-1-1-3-5

**第四條** 各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

**第五條** 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ鞏固ナル意志ヲ鍛鍊シ殊ニ我カ國體ニ關スル信念ヲ養ヒ以テ健全有爲ナル國民タラシメンコトヲ期シ實踐躬行ニ導クヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ就中我カ國民道德ノ由來ト特質トヲ悟ラシメ建國ノ體制及國體ノ本義ヲ明ニシ國家、社會及家ニ對スル責務竝ニ人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ更ニ道德及社會生活ノ理論ノ概要ヲ授クルト共ニ時代思想ニ對スル正シキ批判力ヲ養ヒ道德的信念ヲ確立セシムルニカムヘシ

**第六條** 公民科ハ國民ノ政治生活、經濟生活竝ニ社會生活ヲ完ウスルニ足ルヘキ知徳ヲ涵養シ殊ニ憲法ノ精神ト共存共榮ノ本義トヲ會得セシメ公共ノ爲ニ奉仕シ協同シテ事ニ當ルノ氣風ヲ養ヒ以テ要旨トス

テ善良ナル立憲自治ノ民タルノ素地ヲ育成スルヲ以テ要旨トス  
公民科ハ憲政自治ノ本義ヲ明ニシ日常生活ニ適切ナル法制上、經濟上竝ニ社會上ノ事項ヲ授クヘシ

**第七條** 國語漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ發表シ文字ヲ端正ニ書寫スルノ能ヲ得シメ國民性ヲ涵養シ文學上ノ趣味ヲ養ヒ知徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス  
國語漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ平易ナル近古文ヨリ簡易ナル上古文ニ及ホシ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ簡易ニシテ實用ニ適スル國文ヲ作ラシメ國語文法ノ大要及習字ヲ授クヘシ

**第八條** 歴史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、文化進展ノ過程、邦國盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我カ國運進展ノ迹ヲ詳ニシ建國ノ本義ト國體ノ尊嚴無比ナル所以トヲ知ラシメ大義名分ヲ明ニシ國民精神ヲ涵養スルヲ以テ要旨トス  
歴史ハ國史及外國史トシ國史ニ於テハ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事蹟ヲ授ケ建國ノ體制、皇統ノ無窮、歷朝ノ鴻德盛業、政治、經濟、産業其ノ他文化ノ發達、對外的關係等ニ關シテハ特ニ意ヲ用ヒテ之ヲ授ケ外國史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著明ナル諸國ノ興亡、文化ノ發達及我カ國運ノ進展ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシムヘシ

**第九條** 地理ハ地球及人類生活ノ狀態ヲ理解セシメ殊ニ兩者ノ關係ヲ明ニシ我カ國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシメ國民タルノ自覺ヲ促スニ資スルヲ以テ要旨トス  
地理ハ日本地理、外國地理及地理概説トシ日本地理ニ於テハ我カ國ノ自然狀態、政治、經濟、產

業、交通等ノ状態竝ニ其ノ關係ヲ明ニシ我カ國ノ國勢ヲ知ラシメ外國地理ニ於テハ主トシテ我カ國ト政治、經濟、産業、交通等ニ關シ重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ授ケ地理概説ニ於テハ自然地理及人文地理ノ概要ヲ知ラシムヘシ

**第十條** 外國語ハ普通ノ英語、獨語、佛語又ハ支那語ヲ了解シ之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ知徳ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、聽方、讀方及解釋、話方及作文、書取、文法ノ大要竝ニ習字ヲ授クヘシ

**第十一條** 數學ハ數量ニ關スル知識ヲ授ケ計算ニ習熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術、代數及幾何ヲ授ケ又三角法ヲ授クルコトアルヘシ

**第十二條** 理科ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ人生ニ對スル關係及之カ應用ヲ理解セシメ觀察、工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

理科ハ日常生活ニ關スル事項ノ理科的説明ヨリ始メ進ミテハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ知識、人體ノ構造、生理及衛生ノ大要竝ニ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル知識ヲ授クヘシ

**第十三條** 實業ハ實業ニ關スル知識技能ヲ授ケ實際生活ヲ理解セシメ職業ノ尊重スヘキ所以ヲ知ラシメ勤勉力行ノ氣風ヲ養フヲ以テ要旨トス

實業ハ農業、工業若ハ商業ヲ課シ又ハ之ヲ適宜分合シテ授クヘシ

**第十四條** 圖畫ハ形象ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ技能ヲ得シメ工夫創作ノ力ヲ陶冶シ

美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫及用器畫トシ自在畫ニ於テハ寫生畫ヲ主トシ臨畫及考案畫ヲ加ヘ用器畫ニ於テハ主トシテ幾何畫ヲ授クヘシ

**第十五條** 音樂ハ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌及簡易ナル重音唱歌ヲ授ケ又樂典ノ大要ヲ授クヘシ

**第十六條** 作業科ハ作業ニ依リ勤勞ヲ尙ヒ之ヲ愛好スルノ習慣ヲ養ヒ日常生活上有用ナル知能ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

作業科ハ園藝、工作其ノ他ノ作業ヲ課スヘシ

第三學年以上ニ在リテハ作業科ニ於テ用器畫ヲ主トスル圖畫ヲ併セ課スルコトヲ得

**第十七條** 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ姿勢ヲ端正ニシ身體ヲ強健ニシ且其ノ動作ヲ機敏ナラシメ快活、剛毅、堅忍持久ノ精神及規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ體操、教練、劍道及柔道、遊戲及競技ヲ授クヘシ

**第十八條** 補習科ノ修業年限ハ一年以內トシ其ノ學科目ハ第二條第一項ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ

補習科ノ各學科目ハ隨意科目又ハ選擇科目ト爲スコトヲ得

**第十九條** 豫科ノ修業年限ハ二年トス

豫科ノ學科目、教授ノ要旨及其ノ程度竝ニ毎週教授時數ニ關シテハ小學校令第十九條竝ニ小學校

令施行規則第一條乃至第十條、第十二條及第十七條ノ規定ヲ準用ス  
前項ノ學科目ノ外外國語ヲ加フルコトヲ得

外國語ハ簡易ナル英語、獨語、佛語又ハ支那語トス

外國語ノ每週教授時數ハ三時トシ國語、圖畫、唱歌ノ每週教授時數各一時ヲ減シテ之ニ充ツヘシ

**第二十條** 豫科ノ教科書ニ關シテハ小學校令第二十四條第一項乃至第三項及小學校令施行規則第五十三條ノ規定ヲ準用ス

特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

**第二十一條** 生徒身體ノ情況ニ因リ學修スルコト能ハサル學科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得

**第三章 學年、教授日數及式日**

**第二十二條** 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

前項ノ學年ノ外土地ノ情況ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置クコトヲ得  
學年ハ之ヲ分チテ三學期トス

補習科ニ關シテハ前三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

**第二十三條** 教授日數ハ豫科及第一學年乃至第三學年ニ在リテハ每學年二百二十日以上トシ第四學年及第五學年ニ在リテハ每學年二百日以上トス但シ第二十四條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

**第二十四條** 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得  
前項ノ事由アルトキハ地方長官ハ道府縣立以外ノ中學校ノ休業ヲ命スルコトヲ得

**第二十五條** 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒、學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

**第四章 編制**

**第二十六條** 中學校ノ生徒數ハ八百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ増スコトヲ得

分校ノ生徒數ハ三百人以下トス  
豫科ノ生徒數ハ第一學年ニ入學セシムヘキ生徒數ヲ、補習科ノ生徒數ハ第五學年ヲ修了スヘキ生徒數ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ

前項ノ生徒數ハ第一項ノ生徒數ニ算入セス

**第二十七條** 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ  
一學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

**第二十八條** 作業科、音樂、體操ハ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得實業ニ於ケル實習ノ場合亦同シ

**第二十九條** 分校ニハ豫科又ハ第四學年以上ノ生徒ヲ置クコトヲ得ス

**第三十條** 教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フ



ル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ一學級毎ニ一人ハ他ノ職ヲ兼ニス又他ノ職ヨリ兼ネサルコトヲ要ス

前項ノ教員數ノ外劍道及柔道ニ就キ教員一人以上ヲ増スヘシ實業ヲ課スル場合亦同シ  
特別ノ事情アル場合ニ於テハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ内第一項ノ教員數ヲ減スルコトヲ得

第五章 設備

第三十一條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テハ學校ノ規模竝ニ學科組織ニ適應シ相當ナル校地、校舍、體操場、校具及其ノ他ノ必要ナル設備ヲ備フヘシ

校地ハ道德上竝ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

校舍ハ教授上、管理上竝ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

第三十二條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類概ネ左ノ如シ

- 一 中學校ニ關係アル法令
- 二 學則、日課表、教科用圖書配當表及學校醫視察簿
- 三 職員ノ名簿、履歷書、出勤簿竝ニ擔任學科目及時間表
- 四 生徒ノ學籍簿、出席簿、身體檢査ニ關スル表及兵役ニ關スル書類
- 五 入學考査及學業成績考査ニ關スル書類
- 六 資産原簿、出納簿及經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿竝ニ圖書、器械、器具、標本及模型ノ目錄
- 七 住復書類

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學、轉學及退學ノ年月日竝ニ其ノ學年、卒業ノ年月日及轉學竝ニ退學ノ事由、兵役關係、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第一項ノ表簿中生徒學籍簿ハ十五年以上、其ノ他ノ表簿ハ五年以上之ヲ保存スヘシ

第三十三條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第三十四條 道府縣立以外ノ中學校ニ在リテハ校地ノ増減、校舍其ノ他ノ建物ノ建設又ハ變更ハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六章 設置及廢止

第三十五條 中學校又ハ其ノ分校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣

ニ申請スヘシ

- 一 名稱
  - 二 私立學校ニ在リテハ其ノ位置
  - 三 學科及生徒定員
  - 四 開校年月
  - 五 學則
  - 六 經費及維持ノ方法
- 公立學校ノ位置ハ地方長官ニ於テ認可ヲ申請スヘシ  
第一項第一號乃至第三號及前項ノ位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一項第二號、第二項及第三項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ地形及面積、地質、建物ノ配置、屋外體操場ノ區域及面積、並ニ附近ノ情況等ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定量分析表ヲ添付スヘシ

第一項第四號ノ變更ハ豫メ之ヲ文部大臣ニ届出ツヘシ

第一項第五號ノ變更ハ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

**第三十六條** 中學校又ハ其ノ分校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

中學校ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ第三十二條第一項第四號ノ生徒學籍簿ヲ地方長官ニ提出スヘク地方長官ハ十五年以上之ヲ保存スヘシ監督官廳ノ命令ニ依リ中學校ヲ閉鎖シタルトキ亦同シ

**第三十七條** 公立中學校ノ費用負擔者若ハ私立中學校ノ設立者ヲ變更シ、私立中學校ヲ公立中學校ニ、公立中學校ヲ私立中學校ニ變更シ又ハ分校ヲ獨立ノ中學校ト爲サントスルトキハ第三十五條第一項ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ同條項中第二號及第四號ノ事項ハ此ノ限ニ在ラス

**第七章 入學、休學、退學及懲戒**

**第三十八條** 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但シ缺員アルトキハ第二學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ補習科ノ生徒入學ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五學年ニハ轉學又ハ當該學年ニ於テ退學シタル者ノ再入學ヲ除クノ外新ニ生徒ノ入學ヲ許スコトヲ得ス

**第三十九條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第一學年ノ入學ニ關シ尋常小學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一 他ノ中學校又ハ高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者

二 中學校ニ於テ行フ尋常小學校卒業ノ程度ニ依ル檢定ニ合格シタル者

前項ノ檢定ヲ受クルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ノ者タルヘシ但シ尋常小學校第五學年ノ課程ヲ修了シ學業ノ成績優秀且身體ノ發育十分ニシテ中學校ノ課程ヲ修ムルニ足ルコトヲ當該學校長ニ於テ證明シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

**第四十條** 豫科第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校第四學年ノ課程ヲ修了シタル者又ハ年齢十年以上ニシテ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

**第四十一條** 第二學年以上又ハ豫科第二學年ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項ノ入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スヘシ

**第四十二條** 中學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一年以内ニ於テ中學校ニ入學ヲ志願シタルトキハ同一學年以下ノ學年ニ限り入學ヲ許可スルコトヲ得

**第四十三條** 他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限り其ノ生徒ノ在學證明書及成績表ヲ移轉先學校ニ送附シ移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ

限リ轉學ヲ許可スルコトヲ得  
第四十四條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第四十五條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第四十六條 學校長ハ中學校ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ、豫科ヲ修了セリト認メタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第四十七條 補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者タルヘシ

學校長ハ補習科ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第四十八條 學校長ハ兵役ニ服スル生徒ニ對シテハ其ノ期間休學ヲ許可スヘシ

第四十九條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ一月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者

第五十條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十一條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第八章 雜則

第五十二條 學則中ニ規定スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一 學年、學期及休業日ニ關スル事項

二 學科課程、教授時數ニ關スル事項

三 課程ノ選修ニ關スル事項

四 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

五 生徒ノ入學、退學、休學、懲戒ニ關スル事項

六 授業料、入學料等ニ關スル事項

七 寄宿舎ニ關スル事項

第五十三條 道府縣立以外ノ中學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

前項ノ文書中、學校ノ設置及廢止ニ關スル申請其ノ他重要ト認ムル事項ニ就テハ地方長官ハ其ノ意見ヲ具スヘシ

第五十四條 本令中、學校長トアルハ私立學校ニ在リテハ其ノ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ包含ス

附則

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ本令ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

實業、作業科ハ本令施行後五年以内之ヲ缺クコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ實業、作業科ヲ缺キタル學校ニシテ之ヲ置クニ至リタル際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ第二項ノ例ニ依ル  
第三項ノ規定ニ依リ實業、作業科ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ教授時數ハ適宜之ヲ他ノ學科目ニ配當スヘシ

高等女學校令

(明治三十二年二月八日勅令第三十一號公布  
大正九年七月勅令第九十九號改正 現在)

朕高等女學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等女學校令

- 第一條 高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ養成ニ力メ婦徳ノ涵養ニ留意スヘキモノトス
- 第二條 北海道及府縣ニ於テハ高等女學校ヲ設置スヘシ
- 第三條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
- 第四條 郡市町村北海道及沖繩市町村學校組合及町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限り高等女學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第五條 (削除)

- 第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第七條 高等女學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
高等女學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第八條 公立高等女學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム
- 第九條 高等女學校ノ修業年限ハ五箇年又ハ四箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ三箇年ト爲スコトヲ得

第十條 高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

修業年限三箇年ノ高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

第十條ノ二 高等女學校ニ於テハ高等科、專攻科又ハ補習科ヲ置クコトヲ得

第十條ノ三 高等科ハ精深ナル程度ニ於テ高等普通教育ヲ爲スモノトス

專攻科ハ精深ナル程度ニ於テ高等女學校ノ學科目中一科目又ハ數科目ヲ專攻セシムルモノトス

第十條ノ四 高等科及專攻科ノ修業年限ハ二箇年又ハ三箇年トス

第十條ノ五 修業年限三箇年ノ高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ  
修業年限二箇年ノ高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ修業年限五箇年若ハ三箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

第十條ノ六 專攻科及補習科ニ關スル規則ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外文部大臣之ヲ定ム  
第十一條 高等女學校ニ於テハ主トシテ家政ニ關スル學科目ヲ修メムトスル者ノ爲ニ實科ヲ置キ又ハ實科ノミヲ置クコトヲ得

實科ノミヲ置ク高等女學校ノ名稱ニハ實科ノ文字ヲ冠スヘシ  
前項ノ高等女學校ニハ第十條ノ二中等科又ハ專攻科ニ關スル規定ヲ適用セス

第十一條ノ二 實科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者、高等小學校第一學年ヲ修了シタル者若ハ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

第十一條ノ三 實科ノ修業年限ハ左ノ例ニ依ルヘシ但シ第三號ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ延長スルコトヲ得

- 一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ四箇年
- 二 高等小學校第一學年修了程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ三箇年
- 三 修業年限二箇年ノ高等小學校卒業程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ二箇年

第十一條ノ四 修業年限二箇年ノ實科高等女學校ノ設置ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 高等女學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條 高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

可テ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

高等女學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 高等女學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等女學校教員ノ免許ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十五條 (削除)

第十六條 高等女學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 公立高等女學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ノ額ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條ノ二 第二條ノ規定ハ實科高等女學校ニ之ヲ適用セス

第十八條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ高等女學校ト稱スルコトヲ得ス

第十九條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第二十條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ日ヨリ四箇年以内第二條ノ設置ヲ延期スルコトヲ得

附 則 (明治四十年七月勅令第二八一號)

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
修業年限三箇年ノ高等女學校ハ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ卒業ニ至ル迄仍之ヲ存置スルコ  
トヲ得  
修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ第十條施行後ト雖仍從前ノ例ニ  
依ル

附 則 (明治四十三年十月勅令第四二四號)

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ技藝專修科ニ在學スル者ノ卒業ニ至ル迄ハ技藝專修科ヲ存置スルコトヲ得

高等女學校令施行規則

(明治三十四年三月二十二日文部省令第四號公布  
昭和二年十一月文部省令第二十七號改正現在)

高等女學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等女學校令施行規則

- 第一章 學科及其ノ程度
- 第二章 學年、教授日數及式日

高等女學校令施行規則

第一章 學科及其ノ程度

第一條 高等女學校ノ學科目ハ修身、國語、外國語、歷史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、  
音樂、體操トス

外國語ハ英語又ハ佛語トス

外國語ハ之ヲ缺キ又ハ隨意科目トナスコトヲ得

圖畫、音樂ノ一科目又ハ二科目ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

土地ノ情況ニ依リ第一項ノ學科目ノ外教育、法制及經濟、手藝又ハ實業ヲ加ヘ其ノ他文部大臣ノ

認可ヲ受ケ必要ナル學科目ヲ加フルコトヲ得

前項ノ學科目ハ之ヲ隨意科目又ハ選擇科目トナスコトヲ得

生徒身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル學科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得

第一條ノ二 高等女學校ニ於テハ高等女學校令第一條ノ旨趣ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ養

成、婦徳ノ涵養ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス  
各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

**第二條** 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以上ノ社會ニ於ケル女子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメンコトヲ期シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ又生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ稍々秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル責務ヲ知ラシムヘシ

**第三條** 國語ハ普通ノ言語、文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ兼テ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語ハ現時ノ文章ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ文章ニ及ホシ又實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要及習字ヲ授クヘシ

**第四條** 外國語ハ普通ノ英語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ知識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解、書取、作文ヲ授ケ進ミテハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ

**第五條** 歴史ハ歴史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、文化ノ由來ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス

歴史ハ我國ノ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事歴ヲ授ケ兼テ外國歴史ノ大要ヲ授クヘシ

**第六條** 地理ハ地球ノ形狀、運動竝ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理竝ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ兼テ地文ノ一斑ヲ授クヘシ

**第七條** 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ生活上必要ナル事項ヲ知ラシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術ヲ授クヘシ又必要ニ應シ代數及幾何ヲ授クルコトヲ得

**第八條** 理科ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則竝ニ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ兼テ日常ノ生活ニ資スルヲ以テ要旨トス

理科ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ知識、人體ノ構造、生理及衛生ノ大要竝ニ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル知識ヲ授ケ又便宜實驗ヲ課スヘシ

**第九條** 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫トシ寫生畫ヲ主トシ臨畫ヲ加ヘ授ケ又時々自己ノ考案ヲ以テ畫カシムヘシ

前項ノ外幾何畫ノ初步ヲ授クルコトヲ得

**第十條** 家事ハ家事管理上必要ナル知識技能ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周密、清潔ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、看病、育兒、家計簿記其ノ他一家ノ整理、經濟等ニ關スル事項ヲ授ケ又實習ヲ課

則規行施令校學女等高

則規行施令校學女等高

スヘシ

**第十一條** 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス  
裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方及繕ヒ方ヲ授クヘシ

**第十二條** 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌ヲ授ケ又便宜輪唱歌及複音唱歌ヲ交ヘ樂器使用法ヲ授クヘシ

**第十三條** 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメテ之ヲ強健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ容儀ヲ整ヘ精神ヲ快活ニシ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス  
體操ハ體操、教練、遊戲及競技ヲ授クヘシ

**第十四條** 教育ハ教育ニ關スル一般ノ知識ヲ得シメ特ニ家庭ニ於ケル子女教養ノ道ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

教育ハ兒童心理ノ大要、身體養護及智徳陶冶ノ概説、家庭教育ト學校教育及社會教育トノ關係ヲ授クヘシ

**第十五條** 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民ノ生活上必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要竝ニ日常生活ニ適切ナル法制上及經濟上ノ事項ヲ授クヘシ

**第十五條ノ二** 手藝ハ手藝ニ關スル知識技能ヲ得シメ兼テ意匠ヲ練リ美感ヲ養ヒ節約利用ノ習慣ヲ造ルヲ以テ要旨トス

手藝ハ刺繡、造花、袋物、編物等ノ中ニ就キ適切ナル事項ヲ選擇シテ之ヲ授クヘシ

**第十五條ノ三** 實業ハ實業ニ關シ生活上必要ナル知識技能ヲ得シメ兼テ勤勞ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス

實業ハ農業、工業、商業ノ中ニ就キ當該地方ニ必要ニシテ且女子ニ適切ナル事項ヲ選擇シ又成ルヘク實習ヲ課スヘシ

**第十六條** 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ其ノ修業年限ニ依リ甲號表、乙號表又ハ丙號表ニ依ルヘシ

甲號表

學科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	二	二	二	一	一
國語	六	六	六	五	五
外國語	三	三	三	三	三
歷史	三	三	二	二	二
地理	三	三	二	二	二
數學	二	二	三	三	三
理科	二	二	三	三	三



學科目	學年			
	第一學年	第二學年	第三學年	第三學年
修身	二	二	二	一
國語	五	五	五	五
外國語	三	三	三	三
歷史	二	二	二	二
地理				

丙號表

計	學科目					
	體操	音樂	裁縫	家事	圖畫	理科
第一學年	二	三	二	四	一	二
第二學年	二	三	二	四	一	二
第三學年	二	三	一	四	二	一
第三學年	二	三		四	四	三

學科目	學年			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	一	一
國語	六	六	五	五
外國語	三	三	三	三
歷史	三	三	二	二
地理	三	三	二	二
數學	二	二	三	三

乙號表

計	學科目				
	體操	音樂	裁縫	家事	圖畫
第一學年	二	三	二	四	一
第二學年	二	三	二	四	一
第三學年	二	三	一	四	一
第四學年	二	三	一	四	二
第四學年	二	三		四	四

計	體操	音樂	裁縫	家事	圖畫	理科	數學
二八	三	二	四		二	三	二
二八	三	一	四	二	一	三	二
二八	三	一	四	四		三	二

外國語、圖畫又ハ音樂ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ便宜前各表中ノ學科目若ハ第一條第五項ニ依ル加設科目ニ配當スルコトヲ得  
特別ノ事情アル場合ニ於テハ前各表中各學科目ノ每週教授時數ヲ増加シ又文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ減少スルコトヲ得

第一條第五項ニ依ル加設科目ニ充ツル爲各學年ノ每週教授時數ヲ増加スルコトヲ得  
學校長ハ季節ニ依リ各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ増減セサル範圍内ニ於テ每週教授時數ヲ變更スルコトヲ得  
各學年ノ每週教授時數ノ總計ハ三十時ヲ超ユルコトヲ得ス

家事又ハ實業ノ實習及音樂ノ樂器使用法ハ前項ノ總教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

第十六條ノ二 特別ノ事情アル場合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ生徒ノ全部又ハ一部ニ對シ各學年ノ學科目及其ノ程度ニ付前條各表ニ依ラサルコトヲ得但シ甲號表及乙號表ニ依ル學校ノ第二學年以下ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 實科ノ學科目ハ修業年限四箇年ノモノ及三箇年ノモノニ在リテハ修身、國語、歴史、地理、數學、理科及家事、裁縫、圖畫、唱歌、實業、體操トシ修業年限二箇年ノモノニ在リテハ修身、國語、數學、家事、裁縫、圖畫、唱歌、實業、體操トス

圖畫、唱歌、實業ノ一科目又ハ數科目ハ之ヲ缺クコトヲ得

土地ノ情況ニ依リ第一項ノ學科目ノ外教育、法制及經濟又ハ手藝ヲ加ヘ其ノ他文部大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル學科目ヲ加フルコトヲ得

實業及前項ニ依ル加設科目ハ之ヲ隨意科目又ハ選擇科目ト爲スコトヲ得

第十八條 第一條ノ二ノ規定ハ實科ニ關シ之ヲ準用ス

實科ノ學科目ハ第二條、第三條、第五條乃至第十五條ノ三ノ規定ニ準據シテ教授スヘシ

第十九條 實科ノ每週教授時數ハ其ノ修業年限ニ依リ甲號表、乙號表又ハ丙號表ニ依ルヘシ但シ高等女學校令第十一條ノ三但書ニ依リ修業年限ヲ三箇年ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ學科目及每週教授時數ハ丙號表ニ準シ適宜之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

乙號表

計	體	實	唱	圖	裁	理	數	地	歷	國	修	學 年
	操	業	歌	畫	縫	科 及 家 事	學	理	史	語	身	
二 八	三		一	一	八	三	二	二		六	二	第一學年
二 八	三	二	一	一	八	四	二	二		四	一	第二學年
二 八	三	四			一 〇	四	二			四	一	第三學年

甲號表

計	體	實	唱	圖	裁	理	數	地	歷	國	修	學 年
	操	業	歌	畫	縫	科 及 家 事	學	理	史	語	身	
二 八	三		一	一	八	三	二	二		六	二	第一學年
二 八	三		一	一	八	三	二	二		六	二	第二學年
二 八	三	二	一	一	八	三	二	二		五	一	第三學年
二 八	三	四			八	四	三			五	一	第四學年

丙號表

學科目	學年	
	第一學年	第二學年
修身	一	一
國語	四	四
數學	二	一
家事	四	五
裁縫	一〇	一〇
圖畫	一	
唱歌	一	
實業	二	四
體操	三	三
計	二八	二八

第十六條第二項乃至第七項ノ規定ハ實科ニ關シ之ヲ準用ス  
 第二十條 高等科及專攻科ノ學科目並ニ其ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ  
 第二十一條 補習科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

補習科ノ學科目ハ第一條又ハ第十七條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ  
 補習科ノ各學科目ハ之ヲ隨意科目又ハ選擇科目ト爲スコトヲ得

第二十二條 高等科、專攻科及補習科ノ每週教授時數ノ總計ハ三十時ヲ超ユルコトヲ得ス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十三條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

前項ニ依ル學年ノ外土地ノ情況ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置クコトヲ得

前二項ノ規定ハ補習科ニ關シテハ之ヲ適用セス

第二十四條 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十五條 傳染病豫防ノ爲ニ必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ事由アルトキハ地方長官ハ道府縣立以外ノ高等女學校ノ休業ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十七條 高等女學校ノ生徒數ハ八百人以内トス但シ特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ増スコトヲ得

高等科ノ生徒數ハ四百八十人以内トス

高等科、專攻科及補習科ノ生徒數ハ第一項ノ生徒數ニ算入セス

**第二十八條** 學級ハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ但シ實科ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一學級ノ生徒數ハ五十人以内トス但シ高等科及專攻科ニ在リテハ四十人以内トス

**第二十九條** 音樂、體操、隨意科目及選擇科目ハ教授上支障ナキ場合ニ限り學科、學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

**第三十條** 教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ在テハ一學級毎ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ高等科ニ在リテハ一學級毎ニ二人以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ

前項ノ場合ニ於テ一學級毎ニ一人ハ他ノ職ヲ兼ネス又ハ他ノ職ヨリ兼ネサルコトヲ要ス  
特別ノ事情アル場合ニ於テハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ内第一項ノ規定ニ依ル員數ヲ減スルコトヲ得

**第三十條ノ二** 高等科ノ教員ハ全部ノ二分ノ一以上ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校高等科教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス

**第四章 設備**

**第三十一條** 高等女學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

道府縣立高等女學校ニ於テハ前項ノ外成ルヘク寄宿舎ヲ備フヘシ

**第三十二條** 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ教育上並ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

**第三十三條** 校舍ハ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

**第三十四條** 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス

**第三十五條** 高等女學校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ

- 一 高等女學校ニ關係アル法令
- 二 學則、日課表、教科用圖書配當表及學校醫視察簿
- 三 職員ノ名簿、履歷書、出勤簿並ニ擔任學科目及時間表
- 四 生徒ノ學籍簿、出席簿及身體檢査ニ關スル表
- 五 入學考査、學業成績考査ニ關スル書類
- 六 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書器械器具標本模型ノ目錄
- 七 往復書類

前項ノ表簿中生徒學籍簿ハ十箇年以上之ヲ保存シ其ノ他ノ表簿ハ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

**第三十六條** 土地ノ情況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

**第三十七條** 位置ノ變更ニアラサル校地ノ變更、校舍、寄宿舎ノ建設又ハ變更ハ道府縣立高等女學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘク其ノ他ノ高等女學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ  
前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可シタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘシ

**第五章 設置及廢止**

**第三十八條** 高等女學校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請ス

ヘシ

- 一 名稱
- 二 各學科ノ修業年限
- 三 各學科ノ生徒定員
- 四 開校年月
- 五 經費及維持ノ方法

前項ノ事項ノ外公立學校ニ就キテハ地方長官ニ於テ位置ノ認可ヲ申請シ私立學校ニ就キテハ設立者ニ於テ位置ヲ具シ申請スヘシ

第一項第一號乃至第四號及位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ第三號ノ變更ニシテ總定員ニ増減ヲ生セサル場合ニ於テハ文部大臣ニ届出ツヘシ

前二項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、地質、屋外體操場ノ區域、面積並ニ附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ

**第三十九條** 高等女學校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

**第四十條** 公立高等女學校ノ費用負擔者又ハ私立高等女學校ノ設立者ヲ變更シ私立高等女學校ヲ公立高等女學校ニ公立高等女學校ヲ私立高等女學校ニ變更セントスルトキハ第三十八條第一項第一號乃至第三號第五號及變更ノ年月日ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

**第四十條ノ二** 實科高等女學校ハ高等小學校ニ併設スルコトヲ得

前項ノ場合ニ限り實科高等女學校ノ修業年限ヲ二箇年ト爲スコトヲ得

**第六章 入學、在學、退學及懲戒**

**第四十一條** 年齢十二年以上ニシテ國語、算術、國史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ高等女學校ニ於テ行フ檢定ニ合格シタル者ハ第一學年ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

**第四十二條** 高等小學校第一學年修了以上ノ程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル高等女學校ノ入學ニ關シテハ前條ノ規定ヲ準用ス但シ實科ニ在リテハ前條ノ學科目ノ外裁縫ヲ加フ

**第四十二條ノ二** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ修業年限三箇年ノ高等科ノ入學ニ關シ修業年限四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一 修業年限五箇年ノ高等女學校第四學年ヲ修了シタル者及修業年限三箇年ノ高等女學校第二學年ヲ修了シタル者

二 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者

三 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業生ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

**第四十二條ノ三** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ修業年限二箇年ノ高等科ノ入學ニ關シ修業年限五箇年又ハ三箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一 修業年限三箇年ノ高等科第一學年ヲ修了シタル者

二 高等女學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者

三 文部大臣ニ於テ指定シタル者

前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十二條ノ四 専攻科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等女學校ヲ卒業シタル者タルヘシ

第四十三條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ相當ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スヘシ

第四十四條 高等女學校生徒ニシテ退學シタル者一箇年以内ニ其ノ高等女學校若ハ他ノ高等女學校

ニ入學ヲ志願シタルトキハ原學年以下ノ學年ニ入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十五條 他ノ高等女學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル

場合ニ限り其ノ生徒ノ在學證明書成績表及其ノ學校ノ學科課程表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ

移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限り前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第四十六條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考查シテ之ヲ定

ムヘシ

第四十七條 補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等女學校ヲ卒業シタル者タルヘシ但シ補習科ノ學

科目ニ就キ既修ノ課程ニ差異アルトキハ試験ヲ行フコトヲ得

第四十八條 實科ノ學科中一科目又ハ數科目ヲ學修セムトスル者ハ選科生トシテ入學セシムルコ

トヲ得

第四十九條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得

第五十條 學校長ハ修業年限ノ終リニ於テ高等女學校ノ學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書

ヲ授與スヘシ

第五十一條 學校長ハ左ノ各號ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 品行不良ニシ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 成業ノ見込ナシト認メタル者

三 出席常ナラサル者

第五十二條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 補則

第五十三條 高等女學校ノ學則ヲ定メタルトキハ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタ

ルトキ亦同シ

學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一 學年及休業日ニ關スル事項

二 學科課程、教授時數ニ關スル事項

三 課程ノ終了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五 授業料、入學料等ニ關スル事項

六 寄宿舎ニ關スル事項

第五十四條 道府縣立以外ノ高等女學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘ

シ

前項ノ文書中、學校ノ設置及廢止ニ關スル申請ニ就キテハ地方長官ハ其ノ意見ヲ具スヘシ  
**第五十五條** 本令中、學校長トアルハ私立學校ニ在リテハ其ノ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ包含ス

**第八章 附則**

**第五十六條** 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**第五十七條** 明治三十四年文部省令第四號高等女學校令施行規則第三十七條及第三十八條ノ規定ハ本令ニ依リ其ノ效力ヲ失フコトナシ

**第五十八條** 第一條第五項ノ學科目ニシテ從來ノ規定ニ依リ加設セルモノハ總テ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

**附則 (大正四年三月文部省令第六號)**

本令ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目並其ノ程度ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ學科、學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ裁縫ヲ教授スル學校ニ於テハ裁縫教授ニ關シ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

**附則 (大正九年九月文部省令第一五號)**

本令ハ大正九年七月二十六日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目並其ノ程度ニ關シテハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依

リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

**附則 (昭和二年十一月文部省令第二七號)**

本令ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

**高等學校令**

(大正七年十二月五日勅令第三百八十九號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ高等學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

**高等學校令**

**第一條** 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニ力ムヘキモノトス

**第二條** 高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス

**第三條** 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス

**第四條** 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第五條** 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五十萬圓ヲ下



ルコトヲ得ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス

專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得

專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者ト

ス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以上トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス  
舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス  
前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス  
高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

### 大 學 令

(大正七年十二月五日勅令第三百八十八號公布  
昭和三年一月勅令第七號改正現在)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大學令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 大 學 令

- 第一條 大學ハ國家ニ須要ナル學術ノ理論及應用ヲ教授シ並其ノ蘊奧ヲ攻究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ留意スヘキモノトス
- 第二條 大學ニハ數個ノ學部ヲ置クヲ常例トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ單ニ一個ノ學部ヲ置クモノヲ以テ一大學ト爲スコトヲ得
- 學部ハ法學、醫學、工學、文學、理學、農學、經濟學及商學ノ各部トス
- 特別ノ必要アル場合ニ於テ實質及規模一學部ヲ構成スルニ適スルトキハ前項ノ學部ヲ分合シテ學部ヲ設クルコトヲ得

部ヲ設クルコトヲ得

- 第三條 學部ニハ研究科ヲ置クヘシ  
數個ノ學部ヲ置キタル大學ニ於テハ研究科間ノ聯絡協調ヲ期スル爲之ヲ綜合シテ大學院ヲ設クルコトヲ得
- 第四條 大學ヲ帝國大學其ノ他官立ノモノノ外本令ノ規定ニ依リ公立又ハ私立ト爲スコトヲ得
- 第五條 公立大學ハ特別ノ必要アル場合ニ於テ北海道、府縣及市ニ限り之ヲ設立スルコトヲ得
- 第六條 私立大學ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第七條 前條ノ財團法人ハ大學ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ大學ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス  
基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ
- 第八條 公立及私立ノ大學ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ學部ノ設置廢止亦同シ  
前項ノ認可ハ文部大臣ニ於テ勅裁ヲ請フヘシ
- 第九條 學部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該大學豫科ヲ修了シタル者、高等學校高等科ヲ卒リタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス  
入學ノ順位ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十條 學部ニ三年以上在學シ一定ノ試験ヲ受ケ之ニ合格シタル者ハ學士ト稱スルコトヲ得

前項ノ在學年限ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上トス  
第十一條 研究科ニ入ルコトヲ得ル者ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上其ノ他ノ者ニ在リテハ三年以上當該學部ニ在學シ其ノ他相當ノ學力ヲ具ヘタル者ニシテ當該學部ニ於テ適當ト認メタルモノトス

第十二條 大學ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得  
大學豫科ニ於テハ高等學校高等科ノ程度ニ依リ高等普通教育ヲ爲スヘシ

第十三條 大學豫科ノ修業年限ハ三年又ハ二年トス

修業年限三年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

修業年限二年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十四條 大學豫科ノ設備、編制、教員及教科書ニ付テハ高等學校高等科ニ關スル規定ヲ準用ス

第十五條 大學豫科ノ生徒定數ハ毎年ノ豫科修了者ノ員數カ其ノ年當該大學ニ收容シ得ル員數ヲ超過セサル程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十六條 大學及大學豫科ノ學則ハ法令ノ範圍内ニ於テ當該大學之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 公立及私立ノ大學ニハ相當員數ノ專任教員ヲ置クヘシ

第十八條 私立大學ノ教員ノ採用ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ公立大學ノ教員ニシテ官吏ノ待遇ヲ

受ケサル者ニ付亦同シ

第十九條 公立及私立ノ大學ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第二十條 文部大臣ハ公立及私立ノ大學ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大學ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ大學タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ大學ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ大學タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウル學校ニハ當分ノ内第二十一條ノ規定ヲ適用セス

### 帝國大學令

(大正八年二月六日勅令第十二號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國大學令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國大學令

第一條 帝國大學ハ數個ノ學部ヲ綜合シテ之ヲ構成ス

第二條 各帝國大學ニ置ク學部ノ種類ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第三條 帝國大學ニ大學院ヲ置ク  
 第四條 帝國大學ニハ官制ノ定ムル所ニ依リ總長、學部長、教授、助教授其ノ他必要ナル職員ヲ置ク

必要アル場合ニ於テハ帝國大學總長ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得

第五條 帝國大學ニ評議會ヲ置キ各學部長及各學部ノ教授二人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

帝國大學總長ハ評議會ヲ召集シ其ノ議長トナル

第六條 教授ニシテ評議員タル者ハ各學部毎ニ教授ノ互選ニ依リ文部大臣之ヲ命ス

前項評議員ノ任期ハ三年トス

第七條 評議會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一 學部ニ於ケル學科ノ設置及廢止

二 講座ノ設置及廢止ニ付諮詢シタル事項

三 大學內部ノ制規

四 其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ノ諮詢シタル事項

評議會ハ高等教育ニ關スル事項ニ付意見ヲ文部大臣ニ建議スルコトヲ得

第八條 學部ニ教授會ヲ置キ教授ヲ以テ之ヲ組織ス

學部長ハ教授會ヲ召集シ其ノ議長トナル

第九條 教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一 學部ノ學科課程ニ關スル事項

二 學生ノ試験ニ關スル事項

三 其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ノ諮詢シタル事項

第十條 學部長ハ必要アリト認ムルトキハ助教授又ハ囑託講師ヲ教授會ニ列席セシムルコトヲ得

第十一條 學部ニ講座ヲ置ク

講座ハ教授ヲシテ之ヲ擔任セシム但シ教授ヲ缺ク場合其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テハ助教授

又ハ囑託講師ヲシテ之ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十二條 講座ノ種類及其ノ數ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 帝國大學ニ功勞アリ又ハ學術上效績アル者ニハ勅旨ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコト

アルヘシ

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

專 門 學 校 令

(明治三十六年三月二十七日勅令第六十一號公布  
 昭和三年一月勅令第八號改正現在)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ專門學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

專門學校令

- 第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス  
專門學校ニ於テハ人格ノ陶冶及國體觀念ノ養成ニ留意スヘキモノトス
- 第二條 北海道府縣又ハ市ハ土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ限り專門學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第三條 私人ハ專門學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ美術、音樂ニ關スル學術技藝ヲ教授スル專門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得
- 前項檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第六條 專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス
- 第七條 專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得
- 第八條 官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 公立又ハ私立ノ專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程ハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム
- 第九條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ教員ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

- 第十條 公立又ハ私立ノ專門學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス  
文部大臣ハ公立又ハ私立ノ專門學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 公立ノ專門學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニハ之ヲ減免シ又ハ徵收セサルコトヲ得
- 第十二條 第一條ニ該當セサル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得ス
- 附 則
- 第十三條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十四條 明治二十年勅令第四十八號ハ之ヲ廢止ス
- 第十五條 既設ノ公立又ハ私立ノ學校ニシテ本令ニ依ルヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ第四條ニ準シ認可ヲ申請スヘシ
- 前項ノ手續ヲ爲ササルモノハ前項ノ期間ノ滿了ト共ニ廢校シタルモノト看做ス
- 第一項ノ手續ヲ爲スモ不認可ノ命令ヲ受ケタルモノハ其ノ命令ヲ受ケタル日ニ於テ廢校シタルモノト看做ス
- 第十六條 千葉醫學專門學校、仙臺醫學專門學校、岡山醫學專門學校、金澤醫學專門學校、長崎醫學專門學校、東京外國語學校、東京美術學校及東京音樂學校ハ本令施行ノ日ヨリ專門學校トス

### 實業學校令

(明治三十二年二月七日勅令第二十九號公布  
大正九年十二月勅令第五百六十四號改正現在)

朕實業學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 實業學校令

- 第一條 實業學校ハ實業ニ從事スル者ニ須要ナル知識技能ヲ授クルヲ以テ目的トシ兼テ徳性ノ涵養ニ力ムヘキモノトス
- 第二條 實業學校ノ種類ハ工業學校農業學校商業學校商船學校水産學校其ノ他實業教育ヲ爲ス學校及實業補習學校トス
- 獸醫學校ハ農業學校ト看做ス
- 第二條ノ二 實業學校ニシテ高等ノ教育ヲ爲スモノヲ實業專門學校トス
- 實業專門學校ニ關シテハ專門學校令ノ定ムル所ニ依ル
- 第三條 北海道及府縣ニ於テハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得
- 文部大臣ハ土地ノ情況ニ應シ必要ナル實業學校ノ設置ヲ北海道又ハ府縣ニ命スルコトヲ得
- 第四條 郡市町村、北海道沖繩縣ノ區、北海道ノ一級町村二級町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得但シ實業補習學校以外ノ實業學校ニ付テハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學校教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限ル
- 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ前項ノ規定ニ依リ實業學校ヲ設置スル場合ニ於テ費用

ノ負擔ノ爲學區ヲ設クルコトヲ得

- 第五條 商業會議所、農會其ノ他之ニ準スヘキ公共團體ハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ設置シタル實業學校ハ私立トス
- 第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ實業學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第七條 公立又ハ私立ノ實業學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ實業補習學校ニ在リテハ道府縣立ニ係ルモノヲ除クノ外地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 公立又ハ私立ノ實業學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第八條 實業學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第九條 實業學校ノ教科書ハ公立學校ニ在リテハ學校長ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム
- 第十條 公立又ハ私立ノ實業學校教員ノ資格ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十一條 (削除)
- 第十二條 (削除)
- 第十三條 公立又ハ私立ノ實業學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十四條 實業學校ニ於テハ授業料ヲ徴收スルコトヲ得
- 第十五條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

#### 附 則

第十六條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十七條 (削除)

第十八條 他ノ法令中ニ技藝學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然實業學校ト看做ス

第十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令中徒弟學校及實業補習學校ニ關スル規定ハ本令施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

附 則 (明治三十六年勅令第六二號)

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

札幌農學校、盛岡高等農林學校、東京高等商業學校、神戸高等商業學校、東京高等工業學校、大阪高等工業學校及京都高等工藝學校ハ本令施行ノ日ヨリ實業專門學校トス

師範教育令

(明治三十年十月九日勅令第三百四十六號)

朕師範教育令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師範教育令

第一條 高等師範學校ハ師範學校尋常中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス  
女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス  
師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

前三項ニ記載シタル學校ニ於テハ順良信愛威重ノ徳性ヲ涵養スルコトヲ務ムヘシ

第二條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ東京ニ各一校ヲ設置シ師範學校ハ北海道及各府縣ニ一校若ハ數校ヲ設置ス

第三條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス

第四條 師範學校ノ經費北海道及沖繩縣ヲ除クハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス

第五條 師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ學資ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

前項ノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ私費生ヲ置クコトヲ得

第八條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ノ學科及其ノ程度並教科書ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條 師範學校ニ豫備科小學校教員講習科及幼稚園保姆講習科ヲ置クコトヲ得

附 則

第十條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第十三號師範學校令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十一條 他ノ法令中尋常師範學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然師範學校ト改正セラレタルモノト看做ス

### 盲學校及聾聵學校令

(大正十二年八月二十七日勅令第三百七十五號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ盲學校及聾聵學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 盲學校及聾聵學校令

- 第一條 盲學校ハ盲人ニ聾聵學校ハ聾聵者ニ普通教育ヲ施シ其ノ生活ニ須要ナル特殊ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ涵養ニカムヘキモノトス
- 第二條 北海道及府縣ニ於テハ盲學校及聾聵學校ヲ設置スヘシ
- 第三條 前條ノ盲學校及聾聵學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
- 第四條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ盲學校及聾聵學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第五條 私人ハ本令ニ依リ盲學校及聾聵學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第六條 公立又ハ私立ノ盲學校及聾聵學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 盲學校及聾聵學校ニ初等部及中等部ヲ置ク但シ土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ初等部又ハ中等部ノミヲ置クコトヲ得

盲學校及聾聵學校ニ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得

第八條 官立ノ盲學校及聾聵學校ノ修業年限、入學資格、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

公立又ハ私立ノ盲學校及聾聵學校ノ設置廢止、修業年限、入學資格、學科、學科目及其ノ程度、豫科、研究科、別科、教員資格、編制並設備ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條 公立又ハ私立ノ盲學校及聾聵學校ノ教科書ハ學校長ニ於テ地方長官ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十條 公立ノ盲學校及聾聵學校ノ初等部及其ノ豫科ニ在リテハ授業料入學料等ヲ徵收スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル場合ヲ除クノ外盲學校及聾聵學校ニ於テ授業料入學料等ヲ徵收セムトスルトキハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ其ノ額ヲ定ムヘシ

#### 附 則

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

北海道及府縣ニ於テ特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ内道府縣立以外ノ公立又ハ私立ノ盲學校又ハ聾聵學校ヲ以テ第二條ノ盲學校又ハ聾聵學校ニ代用スルコトヲ得

前項ニ規定スル代用ヲ爲スコト能ハサルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令施行後七年以内第二條ノ盲學校又ハ聾聵學校ノ設置ヲ延期スルコトヲ得

當分ノ内盲學校ノ學科ト聾聵學校ノ學科トヲ併置スル學校ヲ設クルコトヲ得



前項ノ學校ハ之ヲ盲學校及聾啞學校ト看做ス

### 學習院學制

(大正十一年三月十五日皇室令第一號)

朕學習院學制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 學習院學則

##### 第一條 學習院ハ

兩陛下ノ 優旨ヲ體シ華族ノ男子ヲ教育スルヲ以テ目的ト爲シ特ニ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ力ムヘキモノトス

##### 第二條 學習院ニ初等科、中等科及高等科ヲ置ク

##### 第三條 修業年限ハ初等科六年中等科五年高等科三年トス

高等科ヲ分チテ文科及理科トス

初等科ニ於テハ尋常小學校、中等科ニ於テハ中學校、高等科ニ於テハ高等學校高等科ノ程度ニ依リ教育ヲ爲スモノトス

##### 第四條 初等科ヲ卒業シタル者ハ之ヲ中等科ニ中等科ヲ卒業シタル者ハ之ヲ高等科ニ進入セシム 中等科第四學年ヲ終了シ成績優秀ナル者ハ銓衡ノ上之ヲ高等科ニ進入セシムルコトアルヘシ

##### 第五條 學習院ニ大學科ヲ置ク

大學科ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

##### 第六條 學習院ハ華族ニ非サル男子ノ入學ヲ許スコトアルヘシ

##### 第七條 本令施行ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

#### 附 則

##### 第八條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十一年三月十六日官報)但シ第五條ノ規程ノ施行期日ハ別ニ之ヲ定ム

##### 第九條 明治三十九年宮内省達甲第四號ハ之ヲ廢止ス

##### 第十條 大正八年皇室令第七號附則第二項ノ規定ハ本令施行後モ仍其ノ效力ヲ失ハス

【大正八年皇室令第七號附則第二項】

從前ノ規定ニ依ル初等學科中等學科高等學科ハ之ヲ本令ニ依ル初等科中等科高等科トス

### 女子學習院學制

(大正十一年三月十五日皇室令第二號)

朕女子學習院學制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

女子學習院學制

第一條 女子學習院ハ

兩陛下ノ優旨ヲ體シ華族ノ女子ヲ教育スルヲ以テ目的ト爲シ特ニ婦徳ノ涵養及國民道德ノ養成ニ力ムヘキモノトス

第二條 女子學習院ニ本科及高等科ヲ置ク

第三條 本科ノ修業年限ハ前期四年中期四年及後期三年トス

前期ニ於テハ尋常小學校第一學年乃至第四學年、中期ニ於テハ同第五學年第六學年及高等女學校第一學年第二學年、後期ニ於テハ高等女學校第三學年乃至第五學年ノ程度ニ依リ教育ヲ爲スモノトス

高等科ノ修業年限ハ二年トス

第四條 女子學習院ハ華族ニ非サル女子ノ入學ヲ許スコトアルヘシ

第五條 女子學習院ニ幼稚園ヲ置キ華族ノ幼兒ヲ保育セシム

第六條 本令施行ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

附 則

第七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十一年三月十六日官報)

第八條 従前ノ規定ニ依ル女子學習院小學校及中學校ハ之ヲ本令ニ依ル女子學習院本科トス

第九條 本令施行ノ際現ニ女子學習院專修科ニ在學スル學生ノ爲專修科ハ大正十一年三月三十一日迄之ヲ存置ス

私立學校令

(明治三十二年八月三日勅令第三百五十九號公布  
大正十二年八月勅令第三百八十一號改正 現在)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ私立學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

私立學校令

第一條 私立學校ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外地方長官ノ監督ニ屬ス

第二條 私立學校ノ設立廢止及設立者ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二條ノ二 私人ニシテ中學校又ハ專門學校ヲ設立セムトスルトキハ其ノ學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル資産及設備又ハ之ニ要スル資金ヲ具ヘ民法ニ依リ財團法人ヲ設立スヘシ

第三條 私立學校ニ於テハ校長若クハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

本令中學校長ニ關スル規定ハ之ヲ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ニ適用ス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ私立學校ノ校長又ハ教員ト爲ルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 (削除)

三 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ二箇年ヲ經過セス又ハ懲戒ヲ免除セラレサル者

五 教員免許狀奪取ノ處分ヲ受ケ又ハ第七條ノ規定ニ依リ解職ヲ命セラレ二箇年ヲ經過セサル者

六 性行不良ト認ムヘキ者

第五條 私立學校ノ教員ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ除ク外其ノ學力及國語ニ通達スルコトヲ證明シ小學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教員ニ在リテハ地方長官其ノ他ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ専ラ外國語、專門學科又ハ特種ノ技術ヲ教授スル教員及専ラ外國人ヲ入學セシムル爲ニ設立シタル學校ノ教員ハ國語ニ通達スルコトヲ證明スルコトヲ要セス  
前項ノ認可ハ當該學校在職間有效ノモノトス

第六條 前條ノ證明ヲ不充分ト認メタルトキハ監督官廳ハ本人ノ志望ニ依リ試験ヲ施スコトアルヘシ

第七條 私立學校ノ校長又ハ教員ニシテ不適當ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之カ解職ヲ命シ又ハ其ノ與ヘタル認可ヲ取消スコトヲ得

第八條 私立學校ニ於テハ學齡兒童ニシテ未タ就學ノ義務ヲ了ラサル者ヲ入學セシムルコトヲ得ス但シ小學校令第三十三條及第三十六條ノ規定ニ依リ市町村長ノ認可ヲ受ケタル兒童ヲ入學セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第九條 私立學校ノ設備授業及其ノ他ノ事項ニシテ教育上有害ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之カ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條 左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ私立學校ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

一 法令規定ニ違反シタルトキ

二 安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ風俗ヲ壞亂スルノ虞アルトキ

三 六箇月以上規定ノ授業ヲ爲ササルトキ

四 法令ノ規定ニ依リ監督官廳ノ爲セル命令ニ違反シタルトキ

第十一條 監督官廳ニ於テ學校ノ事業ヲ爲スモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ關係者ニ通告シ本令ノ規定ニ依ラシムヘシ

第十二條 大學、專門學校、高等學校又ハ中學校ニ於テハ每學年又ハ每事業年度ノ開始前收支豫算ヲ定メ、每學年又ハ每事業年度ノ終了後收支決算ヲ爲シ監督官廳ニ届出ツヘシ

監督官廳ハ必要ト認ムルトキハ收支豫算ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十三條 第十條ニ依ル處分ニ對シテハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第十四條 第十一條ノ通告ヲ受ケ第二條ノ設立ノ手續ヲ爲ササル者及學校ノ廢止又ハ設立者ノ變更ニ關シ第二條ノ規定ニ違反シタル者並第十條ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル後尙私立學校ヲ繼續スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第三條又ハ第五條ノ認可ヲ得スシテ私立學校ノ校長又ハ教員タル者及第七條ノ規定ニ依リ解職ヲ命セラレ又ハ認可ヲ取消サレタル後尙私立學校ノ校長又ハ教員タル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

情ヲ知リテ之ヲ使用シタル者亦同シ

第十六條 第八條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十六條 本令ノ規定ハ私立幼稚園ニ準用ス  
第十七條 文部大臣ハ本令施行ノ爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

附 則

第十八條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

第十九條 既設ノ私立學校ニシテ未タ設立ノ認可ヲ受ケサルモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ本令ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第二十條 本令施行ノ際現ニ私立學校ノ校長又ハ教員タル者ニシテ引續キ當該學校ノ校長又ハ教員タラント欲スル者ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル教員ヲ除ク外本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ旨ヲ監督官廳ニ開申スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三條又ハ第五條ノ認可ヲ受クルヲ要セス

### 在外指定學校ノ指定ニ關スル規程

(大正十二年九月二十六日外務、文部省令公布)  
昭和三年三月外務、文部省令第一號改正現在)

在外指定學校ノ指定ニ關スル規程左ノ通定ム

在外指定學校ノ指定ニ關スル規程

第一條 在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ恩給法施行令第八條ニ關シ指定ヲ受ケントスル

- トキハ學校ノ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ外務文部兩大臣ニ申請スヘシ
  - 一 學校ノ名稱
  - 二 學校ノ沿革
  - 三 學則
  - 四 職員ノ氏名及其ノ履歷書
  - 五 現在生徒學年別及學級別人員
  - 六 校地校舍及附屬舍等ノ平面圖
  - 七 經費及維持ノ方法
- 前項第一號第三號ノ變更ハ外務文部兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ

【恩給法施行令第八條】恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ハ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス

但シ關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ指定ス

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ關東長官之ヲ定ム

●恩給法第二十二條 教育職員トハ左ニ掲ケル者ヲ謂フ

- 一 公立ノ學校若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
  - 二 府縣立師範學校長
- 前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタルモノヲ謂フ
- 準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二條 前條ノ規定ハ在外指定學校ノ設立者ノ變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三條 學則ニ規定スヘキ事項概ネ左ノ如シ

- 一 修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項
- 二 學科課程教授時數ニ關スル事項
- 三 生徒ノ入學、退學、課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
- 四 授業料入學料等ヲ徵收スルトキハ之ニ關スル事項
- 五 寄宿舎ヲ設クルトキハ之ニ關スル事項

第四條 第一條ノ申請ニ基キ外務文部兩大臣ニ於テ指定ヲ爲スヘキ學校ハ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具フルモノニ限ル

第五條 第一條ニ依リ指定セラレタル學校ヲ廢止セントスルトキハ其ノ事由並生徒ノ處分方法ヲ具シ外務文部兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 小學校ノ教科ヲ授クル在外指定學校ノ訓導ニハ小學校ノ正教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ准訓導ニハ小學校ノ准教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ

第七條 中學校、高等女學校ノ教科ヲ授クル在外指定學校ノ教諭、助教諭ニハ中學校ノ教員免許狀又ハ高等女學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ但シ高等女學校ノ教科ヲ授クル學校ニ於テハ第二學年以下ノ教授ヲ擔任セシムル爲小學校本科正教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ採用スルコトヲ得

實業學校ノ教科ヲ授クル在外指定學校ノ教諭、助教諭ニハ明治四十年文部省令第二十八號公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條各號ノ一ニ該當スル者ヲ採用スヘシ  
實業補習學校ノ教科ヲ授クル在外指定學校ノ教諭、助教諭ニハ明治四十年文部省令第二十八號公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條及第二條各號ノ一ニ該當スル者ヲ採用スヘシ但シ教諭ト稱スルコトヲ得ル者ハ同規程第四條ノ二各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

【明治四十年文部省令第二十八號】

- 第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實業學校ノ教員タルコトヲ得
  - 一 學位ヲ有スル者
  - 二 大學ヲ卒業シタル者、大學ニ於テ試験ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者
  - 三 文部大臣ノ指定シタル者
  - 四 教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル者
- 第二條 一般ノ實業學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スル者ノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實業補習學校ノ教員タルコトヲ得
  - 一 實業補習學校ノ教員養成所卒業者
  - 二 小學校本科正教員又ハ小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者
  - 三 文部大臣ノ指定シタル者
- 第四條 ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニアラサレハ公立實業補習學校ノ教諭ト稱スルコトヲ得
  - 一 一般ノ實業學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スル者
  - 二 修業年限二年ノ實業補習學校教員養成所ヲ卒業シタル者

- 三 前號以外ノ實業補習學校教員養成所ヲ卒業シタル者ニシテ三年以上助教諭ノ職ニ在リタルモノ
- 四 小學校本科正教員又ハ小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ六年以上助教諭ノ職ニ在リタルモノ
- 實業補習學校以外ノ公立學校ノ教諭又ハ助教諭ノ職ニ在リタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラス公立實業補習學校ノ教諭ト稱スルコトヲ得

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ何等ノ名稱ヲ以テスルモ在外指定學校ノ職員ニ採用スルコトヲ得ス

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 二 破産者ニシテ復權ヲ得サル者
- 三 懲戒ニ依リ免官若ハ免職ニ處セラレタル後二年ヲ經過セサル者
- 四 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケテ二年ヲ經過セサル者
- 五 明治二十九年法律第八十號ニ依リ在留禁止ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ解禁後二年ヲ經過セサル者
- 六 性行不良ト認ムヘキ者

〔明治二十九年法律第八十號〕

清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法

- 第一條 清國及朝鮮國駐在ノ領事ハ在留ノ帝國臣民該地方ノ安寧ヲ妨害セムトシ又ハ該地方ノ風俗ヲ壞亂セムトスル者アルトキハ一年以上以下在留スルコトヲ禁止スヘシ
- 第二條 在留ヲ禁止セラレタル者ハ十五日以内ニ退去スヘシ若期限內ニ退去シ難キ正當ノ理由アリテ其ノ旨ヲ申立ツルトキハ領事ハ相當ノ猶豫期限ヲ與フルコトヲ得
- 第三條 在留禁止ノ命令ヲ受ケタル者其ノ命令ニ對シ不服アルトキハ命令ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ領事ヲ經テ外務大臣若ハ駐劄帝國公使ニ該命令取消ノ申請ヲ爲スコトヲ得
- 但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ命令ノ執行ヲ停止セス
- 第四條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ外務大臣若ハ駐劄帝國公使ハ其ノ事實ヲ審査シ領事ノ命令ヲ認可シ若ハ之ヲ取消スヘキ命令ヲ爲スヘシ其ノ命令ハ確定ノモノトス
- 第五條 在留ヲ禁止セラレタル者營業上若ハ其ノ他ノ關係ニ於テ其ノ地ヲ去リ難キ事情アリト認ムルトキハ領事ハ其ノ期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ得
- 第六條 保證金ヲ出シ在留ノ許可ヲ得タル者其ノ期限內再ヒ第一條ノ舉動アリト認定スル時ハ其ノ保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スヘシ
- 第七條 在留禁止ヲ命セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ領事ハ何時ニテモ職權ニ依リ又ハ所轄地方長官ノ證明ニ依リ該命令ヲ取消スコトヲ得
- 第八條 退去期限若ハ猶豫期限內ニ退去セサル者及禁止期限ヲ犯シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條

明治十六年第九號布告及明治十八年第二十六號布告ハ此ノ法律實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第九條 在外指定學校職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然其ノ職ヲ解カレタルモノトス

- 一 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ
  - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
  - 三 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
  - 第十條 文官ト同一ノ待遇ヲ受ケサル在外指定學校職員ノ進退ニ關シテハ學校ノ管理者又ハ設立者ニ於テ所管領事官ノ認可ヲ受クヘシ但シ第二十條ノ命令ニ基キ解職スル場合ハ此ノ限ニアラス
  - 第十一條 文官ノ同一ノ待遇ヲ受クル在外指定學校職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所管領事官ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニ就キテハ外務文部兩大臣ノ指揮ヲ受クヘシ
    - 一 學校編制ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其ノ人ヲ要セサルトキ
    - 二 傷疾若ハ疾病ニ罹リ職務ヲ行フニ妨ケアルトキ
    - 三 支那人ヲ教育スル爲ニ設置シタル學校ノ教員トナルトキ
    - 四 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ
  - 第十二條 文官ト同一ノ待遇ヲ受クル在外指定學校職員ニシテ戰時又ハ時變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキハ當然休職者トス
  - 第十三條 休職ノ期間ハ第十一條第一號乃至第三號ノ場合ニ在リテハ一年トシ同條第四號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ第十二條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三月トス但シ第十一條第三號ノ場合ニ在リテハ所管領事官ハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得
- 休職ノ期間滿チタルトキハ當然退職者トス

- 第十四條 休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ全ク之ヲ受ケサルノ外總テ本職者ト異ルコトナシ
- 第十五條 文官ト同一ノ待遇ヲ受クル在外指定學校ノ職員ニシテ服務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ所管領事官ハ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス
- 第十六條 懲戒ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス
- 第十七條 文官ト同一ノ待遇ヲ受クル在外指定學校職員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ
- 第十八條 減俸ハ一月以上一年以下俸給月額三分ノ一以下ヲ減ス
- 第十九條 第十五條乃至第十八條ノ規定ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル在外指定學校ノ職員ニハ之ヲ適用セス
- 第二十條 第十五條規定以外ノ在外指定學校ノ職員ニシテ同條ニ該當スル所爲アリト認メタルトキハ所管領事官ハ學校ノ管理者又ハ設立者ニ對シ其ノ解職ヲ命スルコトヲ得
- 第二十一條 領事官ハ第十五條又ハ前條ニ依リ免職又ハ解職セラレタル者アルトキハ其ノ氏名、職名及事由ヲ具シ外務文部兩大臣ニ報告スヘシ但シ免職又ハ解職セラレタル者ニシテ教員免許狀ヲ有スルモノナルトキハ其ノ免許狀ノ寫ヲ添附スヘシ
- 第二十二條 在外指定學校職員ノ職務並服務及俸給ニ關スル規程ハ所管領事官之ヲ定メ外務文部兩

大臣ニ報告スヘシ

第二十三條 在外指定學校職員ノ旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ學校ノ管理者又ハ設立者之ヲ定メ所管領事官ニ報告スヘシ

第二十四條 在外指定學校ハ居留民團法ニ依ル監督ノ外所管領事官及外務文部兩大臣ノ監督ヲ受クヘキモノトス

第二十五條 在外指定學校ニシテ第四條ノ要件ヲ失ヒ又ハ學校ノ管理者又ハ設立者ニ於テ外務文部兩大臣又ハ所管領事官ノ爲ス命令ニ違背スルトキハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第二十六條 本令ニ依リ學校ノ管理者又ハ設立者ヨリ外務文部兩大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ所管領事官ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年文部省令第二十號在外指定學校ニ關スル規程ハ之ヲ廢止ス

従前ノ規定ニ依リ指定ヲ申請セルモノハ本令ニ依リ指定ヲ申請シタルモノト看做ス

従前ノ規定ニ依リ指定ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ指定ヲ受ケタルモノト看做ス

外國留學生規則

(明治三十六年十月三日陸軍省達第八十四號公布  
昭和二年二月達第五號改正現在)

外國留學生規則別冊ノ通改正ス

(別冊)

外國留學生規則

第一條 本規則ニ於テ留學生ト稱スルハ陸軍在職及休職武官ニシテ軍事研究等ノ爲私費ヲ以テ外國ニ留學ヲ許サレタル者ヲ云フ

第二條 留學志願者ハ外國留學願書書式第一號ニ旅費及學資金支出明細書書式第二號ヲ添ヘ所管長官ヲ經テ陸軍大臣ニ願出ヘシ

所管長官ハ前項出願者ノ學術性行體力及資産ノ狀況等ヲ調査シテ能ク留學ノ目的ヲ達シ得ヘシト確認スルトキハ狀ヲ具シテ留學願書ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 陸軍大臣前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ更ニ本人ノ性行學術等ヲ考查シテ之ヲ許可ス

第四條 休職武官ニシテ留學ヲ許サレタル者ハ其ノ休職タル資格ヲ變スルコトナシ

第五條 留學生ハ修學上ノ事ニ關シテハ總テ陸軍省軍務局長ノ指揮ヲ受クルモノトス

軍務局長ハ留學生ノ出發前所要ノ事項ヲ訓令スヘシ

第六條 留學生ハ留學許可ノ日ヨリ一箇月以内ニ出發シ又留學ノ期滿ルカ若ハ特ニ歸朝ヲ命セラレタルトキハ其ノ翌日ヨリ二週日以内ニ留學國ヲ出發歸朝スヘシ



第七條 留學生ハ駐在員取締ヲ置ク國ニ在リテハ同取締ノ指揮ヲ受ケ其ノ他ノ國ニ於テ公使館附武官アルトキハ同武官ノ指揮ヲ受クヘシ

第八條 留學生出發及歸朝ノ節ハ軍事課長、留學地ニ到着若ハ宿所移轉ノトキハ駐在員取締ヲ經テ駐在員取締ヲ置カサル國ニ於テハ公使館附武官ヲ經テ又公使館附武官ノ在ラサル國ニ在リテハ本人ヨリ直ニ以下之ニ倣フ其ノ都度所管長官及軍務局長ニ届出ヘシ

第九條 留學中ハ毎年一月及七月ニ於テ學術調査報告ヲ駐在員取締ヲ經テ軍務局長ニ宛テ發送スヘシ

其ノ他必要ノ事項ハ前項ニ準シ臨時速カニ報告スヘシ

第十條 軍務局長ハ留學生修學上ノ成績其ノ他必要ト認ムル事項ヲ毎年十二月盡日迄ニ本人ノ所管長官ニ通報スヘシ

第十一條 (削除)

第十二條 留學生ハ何等ノ事情アルモ官ノ支給補助ヲ請フコトヲ得ス

第十三條 留學中病氣其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲歸朝セサルヲ得サルトキハ其ノ趣ヲ詳記シ駐在員取締ヲ經テ陸軍大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第十四條 留學生ニシテ學業成熟ノ目途ナク又ハ武官ノ體面ヲ汚スノ所爲アリテ永ク留學セシムヘカラスト認ムル者ハ留學年限中ト雖之ニ歸朝ヲ命スルコトアルヘシ

前項ニ該當スル者アルトキハ駐在員取締若ハ公使館附武官ヨリ陸軍大臣ニ之ヲ具申スヘシ

### 在外研究員規程

(大正十一年一月二十一日勅令第六號)

朕在外研究員規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 在外研究員規程

第一條 主管大臣ハ其ノ主管事項ニ關シ須要ノ學術技藝ヲ研究セシムル爲在外研究員ヲ外國ニ派遣スルコトヲ得

第二條 在外研究員ハ選抜ニ依リ主管大臣之ヲ命ス

第三條 在外研究員ノ研究事項、在留國、在留期間其ノ他必要ナル事項ハ主管大臣之ヲ指定ス

第四條 在外研究員ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ學資金、巡歴手當及旅費ヲ支給ス

特別ノ事由アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ前項ニ定ムルモノノ外特別手當ヲ支給スルコトヲ得

第五條 學資金及巡歴手當ハ別表ニ依ル但シ官吏ニ非サル者ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別表ニ準シテ之ヲ定ム

第六條 學資金ハ最初ノ在留地到着ノ翌日ヨリ歸朝ノ途ニ就ク前日迄月割及日割ヲ以テ之ヲ支給ス

在留國間移轉ノ場合ニ於テハ前在留地ヲ出發シタル日ノ翌日ヨリ後在留地ニ付定メタル學資金ヲ支給ス

第七條 各地ヲ巡歴研究スル場合ニ於テハ旅費ヲ支給セス巡歴手當ヲ支給ス

第八條 旅費ハ本邦在留國間往返ノ場合又ハ在留國間移轉ノ場合ニ於テ外國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料及支度料ヲ支給ス

第九條 外國在留中特別ノ任務ニ従事スル場合ニ於テハ外國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ旅費ヲ支給スル場合ニ於テハ學資金及巡歴手當ハ之ヲ支給セス

第十條 外國旅費規則中死亡手當ニ關スル規定ハ在外研究員ニ付之ヲ準用ス

第十一條 學資金及巡歴手當ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得但シ學資金ニ付テハ六月分ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 在外研究員ヲ命セラレタル官吏ハ本邦出發ノ日ヨリ歸朝ノ日迄之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ定員外ト爲リタル者ニハ俸給ヲ支給セス但シ時宜ニ依リ其ノ俸給ノ三分ノ二以內ヲ支給スルコトヲ得

第十三條 特別ノ事情アルトキハ官吏ニ非スシテ在外研究員ヲ命セラレタル者ニ年額二千五百圓以內ノ家族手當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ定員外ト爲リタル在外研究員ニ之ヲ準用ス但シ同條第二項ノ規定ニ依リ受クル金額ト家族手當ノ額ト合シテ俸給ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 在外研究員ハ歸朝ノ日ヨリ外國在留期間ノ二倍ニ相當スル期間主管大臣ノ指定シタル職免スルコトヲ得

務ニ従事スル義務ヲ負フモノトス但シ歸朝ヲ爲サシメスシテ直ニ外國ニ在勤ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ期間ハ在勤ヲ命シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第十五條 在外研究員主管大臣ノ命令ニ違背シタルトキ又ハ成業ノ目途ナキニ至リタルトキハ之ヲ免スルコトヲ得

第十六條 第十四條ノ義務ヲ履行セス又ハ前條ノ規定ニ依リ研究員ヲ免セラレタル者ノ受ケタル學資金、巡歴手當、特別手當及旅費ハ之ヲ償還セシム但シ特別ノ事情アルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第十七條 特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ學資金及巡歴手當ニ關シ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十八條 本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ行フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

遞信省外國留學生規程

水産講習所在外研究生規程

明治四十二年勅令第二百二十九號

關東廳在外研究員規程

- 第七條 各地ヲ巡歴研究スル場合ニ於テハ旅費ヲ支給セス巡歴手當ヲ支給ス
- 第八條 旅費ハ本邦在留國間往返ノ場合又ハ在留國間移轉ノ場合ニ於テ外國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料及支度料ヲ支給ス
- 第九條 外國在留中特別ノ任務ニ從事スル場合ニ於テハ外國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ支給スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ旅費ヲ支給スル場合ニ於テハ學資金及巡歴手當ハ之ヲ支給セス
- 第十條 外國旅費規則中死亡手當ニ關スル規定ハ在外研究員ニ付之ヲ準用ス
- 第十一條 學資金及巡歴手當ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得但シ學資金ニ付テハ六月分ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十二條 在外研究員ヲ命セラレタル官吏ハ本邦出發ノ日ヨリ歸朝ノ日迄之ヲ定員外ト爲スコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ定員外ト爲リタル者ニハ俸給ヲ支給セス但シ時宜ニ依リ其ノ俸給ノ三分ノ二以內ヲ支給スルコトヲ得
- 第十三條 特別ノ事情アルトキハ官吏ニ非スシテ在外研究員ヲ命セラレタル者ニ年額二千五百圓以內ノ家族手當ヲ支給スルコトヲ得
- 前項ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ定員外ト爲リタル在外研究員ニ之ヲ準用ス但シ同條第二項ノ規定ニ依リ受クル金額ト家族手當ノ額ト合シテ俸給ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十四條 在外研究員ハ歸朝ノ日ヨリ外國在留期間ノ二倍ニ相當スル期間主管大臣ノ指定シタル職務ニ從事スル義務ヲ負フモノトス但シ歸朝ヲ爲サシメスシテ直ニ外國ニ在勤ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ期間ハ在勤ヲ命シタル日ヨリ之ヲ起算ス
- 第十五條 在外研究員主管大臣ノ命令ニ違背シタルトキ又ハ成業ノ目途ナキニ至リタルトキハ之ヲ免スルコトヲ得
- 第十六條 第十四條ノ義務ヲ履行セス又ハ前條ノ規定ニ依リ研究員ヲ免セラレタル者ノ受ケタル學資金、巡歴手當、特別手當及旅費ハ之ヲ償還セシム但シ特別ノ事情アルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得
- 第十七條 特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ學資金及巡歴手當ニ關シ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
- 第十八條 本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ行フ

附 則

- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス
- 遞信省外國留學生規程
- 水産講習所在外研究生規程
- 明治四十二年勅令第二百二十九號
- 關東廳在外研究員規程

臺灣總督府在外研究員規程

大正五年勅令第六十五號

文部省在外研究員規程

朝鮮總督府在外研究員規程

本令施行ノ際現ニ舊令ニ依ル外國留學生、在外研究員又ハ在外研究生ハ之ヲ本令ニ依ル在外研究員ト看做シ其ノ給與ニ付テハ文部省在外研究員ヲ除クノ外大正十年九月分ヨリ本令ヲ適用ス但シ大正十年九月一日前本邦ヲ出發シタル者ノ支度料及最初ノ在留國ニ至ル迄ノ旅費竝大正十年九月一日前最後ノ在留國ヲ出發シタル者ノ旅費ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル  
本令施行前外國留學生、在外研究員又ハ在外研究生ヲ命セラレタル者ノ義務ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

(別表)

區分	學費		年額		巡歷手當年額	
	甲地方	乙地方	丙地方	甲地方	乙地方	丙地方
高等官	五千五百圓以内	四千五百圓以内	三千圓以内	千二百圓以内	九百圓以内	九百圓以内
判任官	四千五百圓以内	三千七百圓以内	二千四百圓以内	九百圓以内		七百圓以内

備考

甲地方トハ南北亞米利加、乙地方トハ歐羅巴亞弗利加大洋洲竝支那及西比利亞以外ノ亞細亞、

丙地方トハ支那及西比利亞ヲ謂フ

### 教員免許令

(明治三十三年三月三十一日勅令第三百三十四號公布  
昭和二年十二月勅令第三百五十五號改正現在)

朕教員免許令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 教員免許令

第一條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サレハ教員タルコトヲ得ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第三條 教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業者又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス

第四條 教員檢定ハ試験檢定及無試験檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

- 第六條 教員檢定ヲ出願スル者ハ手數料トシテ一學科目毎ニ金七圓ヲ納付スヘシ
- 第七條 教員檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
- 第九條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許狀ノ書換若クハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得
- 前項ニ依リ免許狀ノ書換若クハ再渡ヲ出願スル者ハ手數料金壹圓ヲ納付スヘシ
- 第十條 教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其效力ヲ失フ
- 第十一條 教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス
- 第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手數料ハ收入印紙ヲ用キ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附 則

- 第十三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十四條 本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中等師範學校卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス

小學校教員心得

(明治十四年六月十八日文部省達第十九號)

府 縣

小學校教員心得別冊ノ通相定候條右旨趣ニ基キ懇篤教誨ヲ加ヘ教員ノ本分ヲ誤ラシメサル様可致此旨相達候事

(別冊)

小學校教員心得

小學校教員ノ良否ハ普通教育ノ弛張ニ關シ普通教育ノ弛張ハ國家ノ隆替ニ係ル其任タル重且大ナリト謂フヘシ今夫小學校教員其人ヲ得テ普通教育ノ目的ヲ達シ人々ヲシテ身ヲ修メ業ニ就カシムルニアラスンハ何ニ由テカ尊 王愛國ノ志氣ヲ振起シ風俗ヲシテ淳美ナラシメ民生ヲシテ富厚ナラシメ以テ國家ノ安寧福祉ヲ増進スルヲ得ンヤ小學校教員タル者宜ク深ク此意ヲ體スヘキナリ因テ其恪守實踐スヘキ要款ヲ左ニ揭示ス苟モ小學校教員ノ職ニ在ル者夙夜匪懈服膺シテ忽忘スルコト勿レ

明治十四年六月

文部卿福岡孝弟

- 一 人ヲ導キテ善良ナラシムルハ多識ナラシムルニ比スレハ更ニ緊要ナリトス故ニ教員タル者ハ殊ニ道德ノ教育ニ力ヲ用ヒ生徒ヲシテ 皇室ニ忠ニシテ國家ヲ愛シ父母ニ孝ニシテ長上ヲ敬シ朋友ニ信ニシテ卑幼ヲ慈シ及自己ヲ重ニスル等凡人倫ノ大道ニ通曉セシメ且常ニ己カ身ヲ以テ之カ模範トナリ生徒ヲシテ德性ニ薰染シ善行ニ感化セシメンコトヲ務ムヘシ

- 一 智心教育ノ目的ハ專ラ人々ヲシテ智識ヲ廣メ才能ヲ長シ以テ其本分ヲ盡スニ適當ナラシムルニ在リ豈徒ニ聲名ヲ博取シ奇功ヲ貪求セシメンカ爲メナランヤ故ニ教員タル者ハ宜ク此旨ヲ體認シ以テ生徒智心上ノ教育ニ從事スヘシ
- 一 身體教育ハ獨リ體操ノミニ依著スヘカラス宜ク常ニ校舎ヲ清潔ニシ光線溫度ノ適宜及大氣ノ流通ニ留意シ又生徒ノ健康ヲ害スヘキ癖習ニ汚染スル等ヲ豫防シ以テ之ニ從事スヘシ
- 一 鄙吝ノ心志陋劣ノ思想ヲ懷クヘカラスハ人々皆然リト雖モ特ニ教員タル者ハ自己ノ心上ニ於テ最モ謹テ之ヲ除去セサルヘカラス蓋シ幼童ノ智徳ヲ養成シ身體ヲ發育スルノ重任ニ膺リ以テ世ノ福祉ヲ増進スルノ實效ヲ奏スルハ固ヨリ鄙吝陋劣ニシテ偷安貪利ヲ事トスル徒ノ敢テ能クスヘキ所ニアラサレハナリ
- 一 學校管理上ニ缺クヘカラス快活ノ氣象ハ心神委靡セル人ノ能ク具有スヘキ所ニアラス又生徒教授上ニ缺クヘカラス許多ノ勞力ハ身體孱弱ナル者ノ能ク寧耐スヘキ所ニアラス是故ニ教員タル者ハ宜ク特ニ起居飲食等ノ常度ヲ守リ散鬱及運動等ノ良規ニ循テ其身心ノ健康ヲ保全シ以テ其職務ヲ盡スノ地ヲ做サンコトヲ務ムヘシ
- 一 教員タル者ハ唯小學校教則中ニ掲クル所ノ學科ニ通スルノミヲ以テ足レリトセス博ク教則外ノ學科ニ涉ランコトヲ要ス苟モ此ノ如クナラサレハ條子教授上ニ破綻ヲ生シテ生徒ノ信憑ヲ失ヒ遂ニ其身ヲ學校ノ上ニ置ク能ハサルニ至ルヤ必セリ
- 一 教員タル者ハ常ニ整然タル秩序ニ由リ學識ヲ廣メ以テ其心志ヲ練磨センコトヲ務ムヘシ否ラサレハ決シテ教授ノ實效ヲ奏スル根柢ヲ立ツル能ハス蓋シ我カ練磨セサルノ心志ヲ以テ能ク他人ノ

- 一 心志ヲ練磨シ得ルモノハ未タ曾テ之アラサルナリ
- 一 師範學校等ニ於テ嘗テ學習セシ所ノ教育法ハ概ネ其一樣子タルニ過キサルモノナリ故ニ教員タル者ハ徒ニ之ヲ踏襲スルヲ以テ足レリトセス宜ク常ニ自ラ其得失利病ヲ考究取捨シ以テ之ヲ活用センコトヲ務ムヘシ
- 一 人ノ心神及身體ノ組織作用ニ至テハ教員タル者最モ深ク意ヲ留メ講究ト經驗トニ由テ其原理實際ニ精通センコトヲ要スヘシ否ラサレハ假令汝々汲々トシテ教育ニ從事スルモ遂ニ臆度妄作ノ弊ヲ免ルルコト能ハサルナリ
- 一 學校管理ノ事ハ之ヲ教授ノ事業ニ比スレハ更ニ困難ナリトス故ニ教員タルモノハ常ニ人情世態ヲ審ニシ通義公道ヲ辨シ且事ヲ處スルノ方法、務ヲ理スルノ順序等ヲ諳練セサルヘカラス
- 一 校則ハ校内ノ秩序ヲ整肅ナラシムルニ止ラス兼テ生徒ノ德誼ヲ勸誘スルノ要具タリ故ニ教員タル者ハ能ク此旨趣ヲ體認シ以テ之ヲ執行セサルヘカラス
- 一 熟練懇切勤勉ノ三者ハ亦教育上ニ缺クヘカラス美事タリ故ニ教員タル者能ク此三者ヲ具備シテ其事ニ從フトキハ獨リ教授ノ實效ヲ奏スルヲ得ヘキノミナラス又生徒ヲシテ不知不識此等ノ美事ニ感化シ習慣自然ノ如クナラシムルニ至ルヘシ
- 一 學校ヲ統率スルハ殊ニ剛毅、忍耐、威重、懇誠、勉勵等ノ諸徳ニ由ルヘシ蓋シ剛毅ニアラサレハ難ニ勝ル能ハス忍耐ニアラサレハ久ヲ持スル能ハス威重ニアラサレハ人ヲ服スル能ハス懇誠ニアラサレハ衆ヲ懷ル能ハス勉勵ニアラサレハ事ヲ成ス能ハス
- 一 生徒若シ黨派ヲ生シ爭論ヲ發スル等ノ事アラハ之ヲ處置スル極メテ穩當詳密ニシテ偏頗ノ弊ナ

ク苛刻ノ失ナカランヲ要ス故ニ教員タル者ハ常ニ寛厚ノ量ヲ養ヒ中正ノ見ヲ持シ就中政治及宗教上ニ涉リ執拗矯激ノ言論ヲナス等ノコトアルヘカラス

一 人トシテ善良ノ性行ヲ有スヘキハ言ヲ俟タスト雖モ教員タル者ニ至テハ最モ善良ノ性行ヲ有セサルヘカラス否ラサルトキハ獨リ幼童ノ徳性ヲ涵養シ善行ヲ誘掖スルコト能ハサルノミナラス却テ其天賦ヲ戕賊スルニ至ルヘシ蓋シ幼童ノ中心タル至虛至沖ニシテ外物ノ爲ニ感染セラルルコト極メテ鋭敏ナレハナリ

一 教員タル者ノ品行ヲ尙クシ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムヘキハ亦其職業ニ對シテ盡スヘキノ務ト謂フヘシ蓋シ品行ヲ尙クスルハ其職業ノ品位ヲ貴クスル所以ニシテ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムハ其職業ノ光澤ヲ増ス所以ナリ

### 實業補習學校教員養成所令

(大正九年十月二十九日勅令第五百二十一號)

朕實業補習學校教員養成所令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

實業補習學校教員養成所令

第一條 北海道府縣及市ニ於テ設置スル實業補習學校教員養成所ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 實業補習學校教員養成所ノ設置及廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 實業補習學校教員養成所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長  
教諭  
助教諭  
書記

前項ノ職員ノ外寄宿舎ノ設アル養成所ニハ舎監ヲ置ク

第四條 所長ハ奏任官ノ待遇トス地方長官ノ監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第五條 教諭ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トシ助教諭ハ判任官ノ待遇トス生徒ノ教育ヲ掌ル

教諭ニシテ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ル者ノ員數ニ關シテハ公立學校職員制中實業學校ニ關スル規定ヲ準用ス

舎監ハ教諭又ハ助教諭ヲ以テ之ニ充ツ所長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舎ノ事ヲ掌ル

第六條 書記ハ判任官ノ待遇トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 實業補習學校教員養成所職員ノ待遇官等等級ニ關シテハ公立學校職員待遇官等等級令中實業學校職員ニ關スル規定ヲ、俸給旅費其ノ他給與ニ關シテハ公立學校職員俸給令中實業學校職員ニ關スル規定ヲ、分限ニ關シテハ公立學校職員分限令ヲ準用ス

第八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外實業補習學校教員養成所ノ設置、廢止、入學資格、修業年限、學科及學科目並教諭及助教諭ノ資格等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則  
本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 公立學校職員制

(大正六年一月二十九日勅令第五號公布  
昭和五年十月勅令第八十八號改正現在)

朕公立學校職員制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 公立學校職員制

第一條 公立大學ニ左ノ職員ヲ置ク

大學總長又ハ大學長

教授

助教授

幹事

學生主事

助手

書記

學生主事補

大學總長ハ數箇ノ學部ヲ有スル大學ニ、大學長ハ一箇ノ學部ヲ有スル大學ニ置ク

第一項職員ノ外大學豫科ニ教授及助教授ヲ置ク

第一條ノ二 公立大學ノ附屬醫院ニ左ノ職員ヲ置ク

醫院長

藥局長

藥劑手

看護長

第一條ノ三 公立ノ專門學校、實業專門學校及高等學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教授

生徒主事

助教授

書記

生徒主事補

前項職員ノ外高等學校ノ尋常科及豫科ニ教諭及助教諭ヲ置ク

第二條 師範學校、公立ノ中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教諭



助教諭  
書記

前項職員ノ外高等科ヲ置キタル高等女學校ニ教授助教諭、寄宿舎ノ設アル學校ニ舍監、師範學校、盲學校及聾啞學校ニ訓導、附屬幼稚園ヲ置キタル師範學校並初等部豫科ヲ置キタル盲學校及聾啞學校ニ保母ヲ置ク

第二條ノ二 大學總長及大學長ハ勅任官ノ待遇トス

大學總長及大學長ハ文部大臣ノ監督ヲ承ケ大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

第三條 專門學校、實業專門學校及高等學校ノ學校長ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇トス

學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 師範學校長ハ奏任トス中學校、高等女學校及實業學校ノ學校長ハ奏任官ノ待遇トス但シ實

科高等女學校、女子實業學校及實業補習學校ノ學校長ハ奏任官又ハ勅任官ノ待遇トス

盲學校及聾啞學校ノ學校長ハ奏任官又ハ勅任官ノ待遇トス

學校長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

師範學校長ハ兼ネテ其ノ道府縣内ニ於ケル小學教育ニ屬スル學事ヲ視察ス

第四條ノ二 大學ノ教授ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇トス學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

大學ノ助教諭ハ奏任官ノ待遇トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ従事ス

大學ノ幹事ハ奏任官ノ待遇トス大學總長又ハ大學長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

大學ノ學生主事ハ奏任官ノ待遇トス大學總長又ハ大學長ノ命ヲ承ケ學生及生徒ノ指導監督ヲ掌ル

第四條ノ三 數箇ノ學部ヲ置ク大學ニ於テハ各學部ニ學部長一人ヲ置キ教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

學部長ハ大學總長ノ監督ノ下ニ於テ其ノ學部ノ事ヲ掌ル

第四條ノ四 大學附屬醫院ノ醫院長ハ教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス大學總長又ハ大學長ノ命ヲ承

ケ醫院ノ事務ヲ掌理ス

大學附屬醫院ノ藥局長ハ奏任官ノ待遇トス醫院長ノ命ヲ承ケ藥局ノ事務ヲ掌ル

第五條 專門學校、實業專門學校、高等學校、大學豫科及高等女學校高等科ノ教授ハ奏任官ノ待遇、助教諭ハ勅任官ノ待遇トス生徒ノ教育ヲ掌ル

大學豫科ニ主事ヲ置キ大學豫科教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

主事ハ大學總長又ハ大學長ノ命ヲ承ケ大學豫科ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ監督ス

第五條ノ二 專門學校、實業專門學校及高等學校ノ生徒主事ハ教授ノ中ヨリ之ニ兼任ス但シ特別ノ

事情アルトキハ專任ノ生徒主事ヲ置クコトヲ得

專任生徒主事ハ奏任官ノ待遇トス

生徒主事ハ學校長ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第六條 高等學校尋常科、高等學校豫科、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校並盲學校及聾

啞學校ノ中等部ノ教諭ハ奏任官又ハ勅任官ノ待遇、助教諭ハ勅任官ノ待遇トス生徒ノ教育ヲ掌

ル

地方長官ハ師範學校教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

師範學校ニ附屬幼稚園ヲ置キタル場合ニ於テハ附屬小學校主事ヲシテ兼ネテ園務ヲ掌ラシム

**第七條** 師範學校、中學校、高等女學校、實業學校並盲學校及聾啞學校ノ中等部ノ教諭ニシテ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ル者ノ員數ハ當該學校ニ於ケル學級數五學級以下ノ師範學校ニ在リテハ四人以内、五學級以下ノ中學校、高等女學校、實業學校並盲學校及聾啞學校ノ中等部ニ在リテハ三人以内トシ以上三學級ヲ増ス毎ニ一人ヲ加フルコトヲ得但シ三學級以下ノ學校ニ在リテハ二人ヲ超ユルコトヲ得ス

前項但書ノ規定ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上ノ三學級ノ男子實業學校(實業補習學校ヲ除ク)ニ付テハ之ヲ適用セス

學校長ヨリ兼任スル教諭ハ第一項ノ定員外トス

高等女學校高等科ノ學級數ハ之ヲ第一項ノ學級數ニ算入セス

**第八條** 師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ舍監ハ教授、助教授、教諭、助教諭又ハ訓導ノ中ヨリ之ヲ兼任ス但シ特別ノ事情アルトキハ專任ノ舍監ヲ置クコトヲ得專任舍監ハ判任官ノ待遇トス

舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舎ノ事ヲ掌ル

**第八條ノ二** 大學ノ助手ハ判任官ノ待遇トス教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケテ學術ニ關スル職務ニ服ス

**第八條ノ三** 大學ノ學生主事補ハ判任官ノ待遇トス上司ノ指揮ヲ承ケ學生主事ノ職務ヲ助ク

**第八條ノ四** 大學附屬醫院ノ藥劑手ハ判任官ノ待遇トス藥局長ノ指揮ヲ承ケ藥局ニ關スル職務ニ服ス

ス

大學附屬醫院ノ看護長ハ判任官ノ待遇トス上司ノ指揮ヲ承ケ看護ニ關スル職務ニ服ス

**第八條ノ五** 專門學校、實業專門學校及高等學校ノ生徒主事補ハ助教授、教諭又ハ助教諭ノ中ヨリ之ニ兼任ス但シ特別ノ事情アルトキハ專任ノ生徒主事補ヲ置クコトヲ得

專任生徒主事補ハ判任官ノ待遇トス

生徒主事補ハ上司ノ指揮ヲ承ケ生徒主事ノ職務ヲ助ク

**第九條** 師範學校ノ訓導ハ判任官ノ待遇トス附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌リ兼ネテ師範學校生徒ノ實地授業ヲ監督ス

盲學校及聾啞學校ノ訓導ハ判任官ノ待遇トス初等部兒童ノ教育ヲ掌ル

**第十條** 師範學校ノ保姆ハ判任官ノ待遇トス附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

盲學校及聾啞學校ノ保姆ハ判任官ノ待遇トス初等部豫科幼兒ノ保育ヲ掌ル

**第十一條** 大學、專門學校、實業專門學校、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ書記ハ判任官ノ待遇トス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

**第十二條** 本令ニ於テ實業學校ト稱スルハ實業專門學校以外ノ實業學校ヲ謂フ

附 則

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十四年勅令第二百四十四號及師範學校官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ公立ノ專門學校及實業專門學校ノ教諭又ハ助教諭ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付

セラレサルトキハ各當該學校ノ教授又ハ助教ニ任セラレタルモノトス  
本令施行ノ際公立ノ專門學校及實業專門學校ノ教諭又ハ助教ニシテ休職中ノ者ニ關シテハ其ノ休職期間中仍其ノ職ヲ存置シ從前ノ例ニ依ル

附 則 (大正九年十二月勅令第五六二號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
大正六年勅令第十號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ公立實業補習學校ノ訓導タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ當該學校ノ助教諭ニ任セラレタルモノトス

附 則 (昭和二年十二月勅令第三六八號)

本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ三學級以下ノ學校ニ於テ奏任官ノ待遇ヲ受クル教諭三人アル場合ニ於テハ其ノ全員カ當該學校ニ在職スル間ニ限り第七條第一項但書ノ規定ニ拘ラス仍從前ノ員數ヲ維持スルコトヲ得

附 則 (昭和五年十月勅令第一八八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ公立大學ノ學生監ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用ヒス公立大學ノ學生主事ニ從前ノ待遇及俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

### 市町村立小學校教員俸給ニ關スル件

(明治三十年一月廿四日勅令第二一號公布  
明治四十年五月勅令第二百十六號改正現在)

朕市町村立小學校教員俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村立小學校組合及其ノ區ハ第三條ノ月俸平均額ニ基キ小學校ノ教員定數ニ應スル金額ヲ支出スルノ義務アリ但シ市町村立小學校組合及其ノ區ハ土地ノ狀況ニ依リ本項ノ義務額ヲ超エタル金額ヲ支出スルコトヲ得

第二條 地方長官ハ前條ノ金額以內ニ於テ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムヘシ  
地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村立小學校組合及其ノ區ノ同意ヲ得テ前條ノ義務額ヲ超エ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムルコトヲ得但シ區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ其ノ經費ヲ議決スル市町村又ハ町村立小學校組合ノ同意ヲ得ヘシ

義務額ヲ超エテ俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ俸給額ヲ減スルコトヲ得ス

第三條 市町村立小學校ノ本科正教員月俸ノ平均額ハ人口十萬以上ノ市ニ在リテハ二十四圓、其ノ他ノ市及市ニ準スヘキ町村ニ在リテハ二十圓、其ノ他ノ町村ニ在リテハ十六圓トス  
前項市ニ準スヘキ町村ハ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第四條 本科正教員ニ代リ一時教授スル准教員ノ俸給額ニ關シテハ第二條ヲ適用ス

第五條 專科正教員及補助教授スル教員ノ俸給額ハ地方長官ニ於テ市參事會町村長町村學校組合長ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ但シ本條ニ依リ一旦定マリタル俸給額以內ニ於テ任用スル教員ノ俸給額ニ關シテハ市參事會町村長町村學校組合長ノ意見ヲ聞クノ限ニアラス

第六條 本科正教員及准教員ノ月俸ハ左表ノ金額ヲ下スコトヲ得ス

尋常小學校	高等小學校		本科正教員	准教員
	女	男		
八圓	十圓	十圓	十二圓	九圓
六圓	七圓	七圓	九圓	七圓

第七條 本令ノ執行ノ際既ニ義務額ヲ超エテ教員俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ第二條ノ手續ヲ經タルモノト同視ス

第八條 本令中町村町村學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用シ町村長ニ關スル規定ハ島司郡區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者ニ適用ス  
本令中市及市參事會ニ關スル規定ニシテ特ニ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ適用スルノ必要アルトキハ文部大臣之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ市參事會ノ職務ハ區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第九條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス  
第十條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第六十條第二項ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

### 市町村立尋常小學校設置及教員俸給額補助ノ件

(明治三十年二月十六日文部省訓令第二號)

北海道廳 府 縣

尋常小學校ノ設置上市町村ノ資力其負擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣郡ヨリ補助ヲ與フヘキコトハ小學校令第四十六條乃至第四十九條ノ規定スル所ナルヲ以テ必要ニ應シ之ヲ適用スルコトヲ怠ラサルヘキハ勿論ナリト雖モ殊ニ今般勅令第二號ヲ以テ市町村立小學校教員俸給ニ關スル件ヲ發布セラレタルニ付テハ此規定ニ基キ負擔スヘキ適當ノ俸給額ヲ支出スルニ堪ヘスト認定スルトキハ右小學校令ノ規定ニ依リ相當ノ補助ヲ與フルコトヲ勉ムヘシ